



フ
ォ
ッ
ク
ス
の
撮
影
日
記

はじめに

私が日常趣味としてしているものや、撮影旅行時の春夏秋冬の出来事、また、日常生活の中で実際に体験したノンフィクションの怖い、不思議な出来事や、今までSNSにブログとして書いたものを披露するものです。

二〇〇五年からのブログ全て私が体験したのですが、日常の出来事も実際に遇った怖い不思議なシリーズを含めユニークにまとめましたので読んで頂ければ幸いです。

フォックス

フォックスの撮影日記

目次

神様と流れ星

不思議な五千円札

花粉症との戦い

茶色の犬

不潔な歯医者さん

著作権と肖像権

三千年に一度しか出ないおみくじ福の神

OA機器と女子社員

この川を渡るべからず

ローン 電柱に当たりー

これってオレオレ詐欺？

行列の出来る佐野ラーメン

ツチノコの抜け殻

自然派にこだわる家族

不法投棄はやめよう

井戸の中

粗拾いしている訳ではないけど
犬の発情期

かつこう悪い話

ギターを弾きに來た男性

彼岸に先祖の嘆きが聞こえる

写真撮影、成人式

彼岸に情事は慎め

我が家のガン患者

珈琲館での一コマ 口紅が付いていますけど

追い越し禁止

趣味と呼べない映画鑑賞

天国への矢印

全ては校長先生がカギを握っている

スキューバーダイビング

ヨン様、我が家にやって来る

高給なアルバイト

あなたは見たことありますか？

スリーエスで売っている激安マシーン
今年の幕開け

ブッシュのワラター

長生きの知能犯

春になっちゃったかも！

私が病院を変えたワケ

撮影日記

駐車禁止

仰々しい、特許許可局

アジサイに誘われて

梅雨に思う

スイカがなった、トマトがなった

ご臨終

マッサージもう、お済ですか

夏だ、祭りだ、サマージャンボだ

オーディオに火がついた

ガンが治ったみたいだ

正義感が強すぎて

レコードで目も回る

水の事故

ゴルフ・コンペの前日

夏の日の嫌な思い出(水泳)

芸術の秋

空 耳

秋ナスも嫁に食わせて

連鎖反応

進化

予想外

木枯らしの季節

胃カメラを味わう

紅葉がまだ私を呼んでいる

師走になって

年の初めに

夢のシナリオ

診療の順番は多少前後する

そらのある風景

白へびの夢

読めない漢字がある

不審車両

ラジコンヘリが泳いでいる

春の訪れ

ハンドルネーム

方言

菊池君

自然園

真夜中の怪奇音

犬小屋リフォーム、ビフォーアフター

アジサイ寺

時事事件

携帯、メールの時代

ヤマトより愛をこめて

数珠が切れた

カメの冬眠

花粉症、特效薬

緑化フェア

火災報知器

私の友達は変わり者

サブちゃん危機一髪

彼岸に情事は慎め二〇〇八

クック天空の城、秋ダ

クック天空の城、その後

オレンジからハマって

空手が取り持つ親子愛

溺れる人でも藁は掴まない

泥棒が入った

お金を支払わない人

秋晴れに小春日和・しかし

うがい、手洗い、マスク、除菌

偲んで

一難去ってまた一難

雪の日

花粉症はどこへやら

タロット占い

買い占め

五・四五センチ

キジの災難

新しい生命の誕生

歌詞

滝沢不動尊

私としたことが

老人暴走族との一日

ベテルギウス

ウィンタースポーツ

どこの国の名前

ジョウビタキの悲劇

冬至だ、柚子だ、大きいのだ
賢者の贈り物

モーニングコーヒー

ツイッター

サンタへの手紙

実際に遇った怖いシリーズ一	金沢の霊
実際に遇った怖いシリーズ二	野沢温泉
実際に遇った怖いシリーズ三	出雲の国
実際に遇った怖いシリーズ四	何も出なかった怖い話
実際に遇った怖いシリーズ五	精神修行
実際に遇った怖いシリーズ六	おんりょうの恐ろしさ
実際に遇った怖いシリーズ七	肝だめし
実際に遇った怖いシリーズ八	赤城不動尊
実際に遇った怖いシリーズ九	魔の温泉地
実際に遇った怖いシリーズ十	箱根温泉の宿
実際に遇った怖いシリーズ十一	三人殺してしまいました
実際に遇った怖いシリーズ十二	恐ろしい携帯電話
実際に遇った怖いシリーズ十四	病院の駐車場
実際に遇った怖いシリーズ十五	防犯カメラ
実際に遇った怖いシリーズ十六	家の下に墓場が
実際に遇った怖いシリーズ十七	ひとだまに誘われて
実際に遇った怖いシリーズ十八	我が家の少年犬士

実際に遇った不思議シリーズ一	不思議な夢
実際に遇った不思議シリーズ二	人間が浮いている
実際に遇った不思議シリーズ三	将来お会いする人
実際に遇った不思議シリーズ四	ヘビの夢
実際に遇った不思議シリーズ五	もう一人の自分
実際に遇った不思議シリーズ六	カベに観音様現る

神様と流れ星

昔の人たちは地球がドーム型をしていたと信じていた。

もちろん神々の世界はその上にあり、我々人間を高い位置から見下ろしていたと言う。

神様の世界は非常に広大で夜になるといつも流れ星が行き交う天体ショーが繰り広げられると言います。

高い世界にいる神様たちは時々ドーム型をしている窓を開け、そこから我々人間界を見下ろし眺めているそうです。

ところが神々の世界は広く地球みたいな星が沢山あるため、神様は窓を開けてはすぐに閉めてしまうのです。その頃人間界では神様が窓を開けると天空で飛び回っている流れ星が行き交うのが見えるために、神様の姿は見えなくても流れ星が見えることにより、神様が今窓を開けたと悟るのです。

その神様をお願いするのは今しかなく、その時が良いチャンスなのです。

神様はすぐに窓を閉めてしまうため、せめて流れ星が見えている瞬間だけでもお願いをしたいと言う事なのです。ちゃんと神様にわかってもらうには少なくとも流れ星が見えている間に願い事を三度唱えればどれかを聞いてもらえると考えたのです。

不思議な五千円札

栃木県の出流山に満願寺というお寺がある。そこで滝修行と座禅修行をした。

明くる朝、駐車場の売店でお土産を買うためにその店に向かった。

店にはおばあちゃんと二十歳前後の娘さんがいて、とても愛想が良く、気持ちの良い買い物が出来た。また店の娘さんがとても可愛いので、私は思わず「写真撮りたい」と言ったらとても気持ちよく撮らせてくれた。

お土産を選ぶのが終わり、支払いをするためにレジにいるおばあちゃんのところへ行った。おばあちゃんは、じゃーこれも、これもサービスするよというサービスをしてくれた。

二千五百円をオーバーしてしまったが支払い時に五千円札を出したら、おばあちゃんから七千五百円のおつりが来た。「あーお釣りはこれでいいんですか！」「いいんだよ、写真も撮ってもらったし」。すこしお釣りが多かったが遠慮なく頂く事にした。

一緒に行った仲間は「おい、お釣り返してやれよ。きつとばあさんが間違ったんだよ」と言っていた。でもあの時、おばあちゃんの「いいんだよ」と言う言葉を私は信じていた。

実は私もおばあちゃんが一万円札と五千円札を間違えたのだと思い、足早に帰ってきた。あの時は得をした。あれから数年経つがまだ写真は送っていない。

数日後くつ屋さんに靴を買いに行った。四千円の靴を買い、例のごとく五千円札で支払った。店員は「有難うございます。一万円お預かりいたします。」「やったー！」私はドキドキしながら待っていた。するとしばらくして店員は戻り「お客様、先程は五千円でしたね！」と言われた。今度は儲けそこなった。

あれ以来、私は支払いするのに出来るだけ五千円を支払うようにしている。



花粉症との戦い

私は花粉症に関しては二十五年も前から発病し、流行の先端を行っていた。

早い年は一月の末から。その頃はまだ花粉症のことが良くわからず、鼻炎とか言われていた。でもこの鼻炎も三ヶ月間悩んだ後五月になると、必ず直っていたので不思議な気持ちでいた。

十五年程前にかんりの花粉の飛んだ時があった。連日連夜苦しめられ大変な記憶がある。

ニュースで杉の花粉が飛ぶことにより、人体への影響及ぼす特番などを放送していた。

その頃、私は野鳥の撮影でよく山の中へ入っていた。もちろん杉の木の傍にもいた事が何度もあった。あまり花粉症で悩まされるため、沢山の杉の花粉を吸って免疫でも高めようと、黄色く実った杉の花粉の付いた枝を、何本も家に持ち帰った事がある。

夕方になりその花粉を顔の前で揺さぶり、沢山のスギ花粉を吸い込んだ。

その時は特に変わった様子もなかったけれど、夜になり段々と症状が現れてきた。

目が赤くなりかゆい、咳が出てきて鼻が詰まる。鼻水は止まることなく出ていた。どうしても顔のムシヤクシヤと鼻のグジュグジュが止まらない。その後風呂に入ると少し良くなるのも知っていた。ティッシュペーパーも当時は箱が大きくて、だいたい一晩に一個使用していた。

深夜になり鼻が詰まって息が出来ない。仕方ないので口をあけて呼吸しているが、すぐ口の中が乾いてしまい呼吸困難になる。

枕もとに置いてある水を飲みながら寝ようとするが一向に眠れない。ひどい時には微熱が出ることもあった。しかし年数が経つにつれ段々と良くなり、今はもう夜も悩まされなくなりすっかり良くなった。

あの時家に持ち帰って吸った大量の花粉が効いて、免疫がついたのかな！「違うって」



茶色の犬

私が子供の頃、知人が小さな可愛い犬をくれるというのでもらってきた。

生後間もないとの事でそれはそれは可愛い。さっそくダンボールの箱の中に入れておいたら、親父が犬は飼ってはダメだと言う。なぜなら、すでに大きい犬が我が家にいるので二匹も飼えないと言うのだ。

たまたま通りかかったおじいさんがえらくこの犬を気に入ったようだ。

知り合いではないがこの人は以前にもどこかで犬をもらったと聞いた事がある。しかしそのおじいさんの家に犬がいたのを私は見た事がない。きっとどこかに大きな犬小屋を設けて、沢山の犬を飼っているに違いない。

もらってきたばかりの犬でまだ名前も付いていないが、ちょうどいいところへ寄って頂いたので、その人に涙ながらに子犬をあげる事にした。おじいさんは喜んで子犬を連れて帰った。

あくる日、私の姉が小学校の同じクラスの男の子に声をかけられたらしい。その子は昨日私の家から子犬をもらって行ったおじいさんの子供だった。そしてその子が姉に言ったそうだ。

「昨日はごちそう様でした。」と・・・ 何を考えているんだこの親子。

不潔な歯医者さん

歯医者さんが不潔だと本当に困る。

しばらく前の事だけど近所で開業している歯医者さん。患者がいなくて空いているのに長い時間待たせる。我々を患者扱いせず、お客さん扱いする感じである。歯医者なのに「いらっしやいませ」と言われている様な気がする。これだけで充分許せないのに、まだまだ沢山嫌な事がある。

私は最後に行った時の事をよく記憶している。診察室には熱帯魚がたくさんいて、窓際に水槽が何個も並んでいる。ヘビースモーカーなのか診察室がタバコ臭い。

「フォックスさんどうぞー」私は診察室に入り診察台に乗った。

先生はくわえタバコをしている。タバコの灰が私の口の中に落ちてきそうである。

「いやだなあータバコの灰、何とかしてくれないかなあー」こんな時に限りタバコの灰は落ちそうで落ちない。かなりの時間が経った様に思えたが、先生はやっとタバコの灰を灰皿の中に処理した。

これで一安心だ。ところが一難去ってまた一難。今度は先生の鼻の中である。

よく見ると長く延びた鼻毛の先に、黒く丸まった鼻くそが付いている。今度は次の心配だ。

もしあの鼻くそが私の口の中に落ちてきたらどうしよう。どうも落ち着いて治療してもらえそうもない。不潔だとは聞いていたがこんな酷い先生とは思わなかった。これじゃー患者も去っていくのは無理もない。

歯が痛くなったらばかりに、近所だったが為に行ってしまった。

今の歯医者さんは手術用のゴムの手袋をしてくれるが、あの頃の歯医者さんは手袋さえしてくれなかった。家に帰ったら百回位うがいをしてしようと思っていた。

「はい それではうがいをして下さい」 「ガラガラ ガラガラ」 何となく口の中がおいしい。

「ふむ！」 熱帯魚の餌の味がする。「まったくー まずいーっ！」 名前だけは出さずにおこうと思ったけど青木歯科医院。その後歯医者はやめてしまった。



著作権と肖像権

著作権、例えば写真で言うと自分のカメラで自分のフィルムで、自分の見つけた被写体を撮影して持つ事はもちろんシャッターを切った時点から自分自身に著作の権利が発生する。

一方肖像権とは法的にも定かな言い表しはないらしく、プライバシー侵害されて撮影されたものなどを世間では俗に後から言っているらしい。

私も写真を撮影する関係から考え込んでしまった。写真屋さんへ行きパスポートの写真を撮ってもらうと当然写真屋さんに著作の権利がうまれる。しかし自分のプライバシーが侵害されては大変と思い、写真屋さんに「そのフィルムを返してください」と言ったら断られた。

「写真だけだ。ネガはやらないよ」「お金を出すから頼むから返してくれよ」と言っても無理だった。どうしてこんな時著作権が発生するのか。

あの時フィルムをもらっておけばよかった。写りが良くてほかにも使えたのに。

じゃーあ肖像権は撮られる被写体側に発生するのだから私も困ってしまう。

沢山の人並みの中を撮影する時は一人一人に声をかけて撮影しろってかー。

「今から撮影しますAさん良いですか！」「Bさんも撮りますよろしいですか！」

「Cさんも、Dさんも、Eさんも・・・」これでは撮影にならない。「集合写真も、同じだよ」。

ジャーナリスト達はもっと大変でしょう。「不倫現場だ。それ」

「すす・すいません撮ってもいいですか！」

「おまえ、これじゃー仕事にならないよ（怒）」 最近悩むなあー



三千年に一度しか出ないおみくじ福の神

近所にある新田神社は、あの新田義貞ゆかりの神社であり金山の山頂に立っている。

私は毎週のように野鳥観察や写真撮影で登っていた。

ある日曜日、縁日という事もあってか沢山の人達が登っていた。縁あって宮司さんと友達になり、神社で話していたところ、だんだんと忙しくなり、結局神社での手伝いをする事となってしまうた。

境内では新田神社のほかに稲荷神社があり、この神社のおみくじを手伝うことになった。

大吉、中吉、小吉、吉、凶・・・とあり、今回に限って特別に大吉の中に稲荷のおきつねさん「福の神」を入れるというのだ。ラッキーな人はこれを引く事になる。百枚位あるおみくじの中に大吉が二十枚ある。その中に三つだけ福の神が入っていることになる。確率は約三%だ。

「フォックスさん、フォックスさん適当でいいですから混ぜて置いてください」と宮司に言われ、私は何回も何回もシャッフルした。

さっそくおみくじ販売機の中へセットし、社務所で次の作業をしていた。

境内では沢山の人がいてその中に小学二〜三年生ぐらいの男の子達が五〜六人いた。おみくじ販売機の近くでたむろしている。

すると私がセットしたおみくじを初めて引くのがその子供達らしい。

最初のAちゃんが引いたらなんと大吉。おめでとうございます。ところがAちゃん頭をひねっている。中に何かが入っているというのだ。開けて見ると金色で出来ている小さなおきつねさんが入っているのでビックリ。いちばん最初から福の神が出てきたので私もビックリした。さっそく小学生が集まり話が盛り上がってきた。

私がそばへ行き「すごいねえ、君はラッキーだよ」と言ってあげた。

すると小学生達は「ねえ、おじちゃん、どうしてラッキーなの」と聞くから「その福の神を引いた人は将来幸せになれるんだよ」「お金もたくさん手に入るし、健康にも恵まれて、女の子にもてるし、うまいもんが沢山食えるんだ」「言うこと無しだよ」するとAちゃんは「やったー、うれしい」「そうだよ」

「なんせその福の神は三千年に一度しか出ないすごい神様なんだから」

「すげえー 三千年に一度だつてAちゃんすげえー」

それを見ていたBちゃんがおみくじ引いた。するとBちゃんにふさわしい中吉が飛び出した。小学生達は列をなしておみくじのところへ並んでしまった。三番目はCちゃんが引いた。

するとCちゃんも大吉を引いた。何ということかCちゃんのおみくじの中にも福の神が入っていた。

「やばいっ！」三千年に一度しか現れない福の神がまた出てしまった。

「おじちゃん三千年に一度しか出ない神様が又出たよ」

「うん、いやー君達は運がいいなあ三千年に一度しか出ないから、これで六千年は出ないことになる」「いやーおめでとう、おめでとう」あれだけシャッフルしたのに二つも出てしまうなんてまいった。たしか福の神はあと一つ入っているはず。残る何人かの小学生の中から又出てしまったら、私が三千年と言った手前大変なことになりかねない。なにせ次に出るのが六千年後だから・・・

私はその後ひやひやしながら見守っていた。



O A 機器と女子社員

企業内ではオールマイティーに動ける人材ほど、重宝に扱われ、会社にも貢献できる。また近代社会においては仕事をする上ではO A 機器を扱うのは必須とされている。

これは私が過去に職場において見てきた情景である。

上司が新しく入社してきた女子社員に向かって仕事を指示している様子。

「Kさんどうですか、仕事なれましたか？」

「ところでこの書類なんだけど、あそこにあるパソコンで、ワードで打ち込みをお願いしたいんだけど」

「すみません。パソコンはやったことないんですけど」

「Kさんはパソコンを使えないのか」「しょうがないなあー」

「じゃあーこっちの書類を相手先にFAXしておいて、右上に電話番号書いてあるから」

「すみません。FAXの仕方わからないんですけど」「なぬー FAXも出来んのか！」

「わかった、じゃあーコピーでいいから、この書類全部一部ずつコピーとっておいて」

「まさか君はコピーまで出来ないって言うんじゃないだろうね。」

「すみません。コピーもやったことないんですけど」「うぬーオイ君、Kさんわかった、わかった。」

いいから いいから、今日はもう帰ってー」

「すみません。残業代稼ぎたいので、まだ帰りたくありません」まあ、ここまでは言わなかったけど、

O A 機器使えないと辛いねえ！



この川を渡るべからず

日本で最も年間の降雪量の多い新潟のこの地方、先日は大きな地震に見舞われ大変でした。

謹んでお見舞い申し上げます。

春になるとこの地方をいつも訪れ、不思議に思っている事が幾つかある。津南から松之山へと向かう途中に美人林というところがある。本当にある。まあ聞いてくれ。

美しいぶなの林があるがそこを美人林と言っていたのかは定かではない。その美人林付近にさしかかると野菜の無人販売所がある。そこには農家で取れた野菜が道端の小屋に積んであり誰も居ない。野菜には値段が書いてあり、必要な金額を設置してある竹筒に入れて野菜を持って帰るというものだった。これがもし私の家の近所だったら竹筒もろとも野菜もあつという間になくなってしまいうだろう。

しかしこれだけではなかった。次にハンドルを山のほうに向けると今度は道端に立て看板がある。

よくみると細い道の入り口で「この先に山菜があります個人の所有ですので立ち入らないで下さい」と書いてある。我々県外から来た人達はこんな看板さえなければあえて立ち入らないの思わず覗いて見たくなったのだ。

ところが極めつけがあった。ゆっくり車を進めると小さな川の向こうに「ふきのとう」がたくさん出ていた。それはそれは美味しそうで思わず私は車を止めてしまった。あのほろ苦い味がなんともいえない。さっそく採って帰り食べてみようと車から出て道端へ立った。

するとそこにも立て看板があり「この川を渡るべからず、地主」と書いてあった。そこで私は考えてしまった。この川を渡らないで何とか「ふきのとう」を採ることが出来ないか長い竹の棒を探してきたのだった。そしてこの後は想像の世界へと入っていった。



ローン 電柱に当たりー

ローン、メンタンピン ドラドラ デンデン 満貫だあ！やったー

ドドローン、ガチャン 「ふむ」 「外だあー！」 四人はマージャンの途中、外へ飛び出した。すると車がこんな真夜中に電柱に衝突している。中から出てきたのは中年の男性。

額から血を流し「痛てえー」 「おじさん、大丈夫かい！」 「うーん大丈夫だあー」

「すぐ救急車呼んであげるからー」 「いいからいいから、大丈夫だあー」 こんなやり取りしているところへ近所のばあさんが起きて来た。「事故だ事故だ、警察ーー」と言いながら家に駆け込み救急車を呼ばずにあわてて警察へ電話したと言うのだ。

もちろん警察から救急を手配してもらい救急車が現着した。

やじうまはすでに十人近くになっている。ところが事故でケガをした中年のつつあん、救急車に乗ろうとしない。「いやだ、わしは事故なんぞ起こしておらん！」

「何を言っているんだ、とつつあん」 「額から血が出ているじゃないか！」 それでもとつつあんは救急車に乗ろうとしなかった。

私が額のキズを見ていたらとつつあん顔が赤くて酒臭いー！

これじゃー事故なんぞ起こしていないと言いはるはずだ。

そこへパトカーが到着した。「おたくですか、運転していたのは？」

「それで、どちらから走ってきました」「なにー！向こうから走ってきた」

な、なんと、とつつあんは自分の走っている対向車線の電柱に衝突し、

側溝に車がはまっているのだ。お巡りさんが「キズ大丈夫そうだね」というと

「じゃーこっちに乘って」とパトカーを指差した。

救急車は行っちゃい、とつつあんはパトカーに乘せられて行っちゃった。

「バカだなあー」と、思わず四人がハモってしまった。とつつあん救急車に乘っていけば良かったのにー

酒飲み運転、道路交通法改正直前ではあるが、でも今は免許証ないだろうな！とつつあん。

これってオレオレ詐欺？

我が家には取り決めが幾つかある。

例えば地震が起きた時の避難地はここ。ガンになったら本人に告知する。

緑のものは毎日食べよう。新聞の勧誘が来たら・・・など等。

今回はオレオレ詐欺についてである。

以前に母親が行商の人から押し売りまがい布団を買ってしまった事がある。

その時は家族に叱られ大変だった記憶がある。こういう事から母親がいちばんオレオレ詐欺にかかりやすいといえる。

ある時、練習の意味で私が公衆電話からオレオレ詐欺を装って、声色を変え自宅に電話を試みた。「ツルルルー、ツルルルー」「はい、母親フォックスです」

「フォックスさんは居りますか？」「それが今出かけていて居ないんですが・・・」

「実はですね。私は今日泊まるところがなくて」

「フォックスさん宅にぜひ泊めてもらおうと、お電話したわけなんです・・・」

「ところでお宅はどちらさんですか？」「はいフォックスさんの友人です。」「友人？」

「大丈夫ですよ、フォックスさんとは仲の良い、よく知っている者ですから」

「今朝のご飯のおかずまで知っていますから」

「それでは帰ってきたら電話があった事を伝えてください。ガチャン！」「プープープー」
「あっ！もしもし、もしもし」「プープープー」

あまりにおかしくなったのであればしてしまっただけだ、すぐに電話を切ってしまった。

我が家に帰ってくるやいなや「今日俺に誰かから電話あった？」「あったよ、あったよ」
「誰から」「それが名前を言わなかったんだよ」「今日これから家へ泊まりに来るって」
「それって俺だよ（笑）」「違うんだよフォックスの友人だと言っていたよ」
「だからさあーオレオレ（笑）」「俺が電話かけたんだよー」「わかんないんだねえー」

「こういう母親ってオレオレ詐欺にひっかかるよね。」

行列の出来る佐野ラーメン

佐野ラーメンというと関東では結構有名らしい、私がマップをみたら四キロ四方に三十件くらいラーメン屋があった。中でも旨いと言われるお店には昼頃になると二十、三十人の列が出来るのは当たり前。五十分待ち一時間待ちという事もよく耳にする。私はめったに行く事はないが、それでも旨い店があるんだと友達に誘われ、行った時の事。

その旨いといわれる店には開店前にすでに数え切れないほどの人が並んでいた。

これではかなりの時間待つ事となる。中には諦めて他の店に変更する人も出てきた。

そんな中で十五分程経った頃であろうかお店の裏口から「ガンコじい」イメージのする主人が出てきた。すると主人は我々お客様に向かって「だめだだめだ、今日は帰ってくれ」と言うのだ。どうしたことか私は黙って見届けていた。すると他のお客様はクモの子を散らすように他の店へと行ってしまった。

しかし何事かわからない我々と数人のお客様がまだ残っていたが、主人はこんどは桶を持ってきて「お客さんだめだよー、今日は帰ってくれよ」「どうも今日は店の味が出ないんだよ」と

言いながら桶の中に入っていた汁と麺を外の廃棄物の中にぶちまけているではないか。

私はなるほどと思い結局その店では旨いラーメンを食べ損なってしまった。

　　どうやら主人がダメだと言ったらほとんどの客が居なくなったことから、過去にこのような事が何度かあったに違いない。

行列の出来る旨いラーメン屋にはガンコじじいがいた。

ツチノコの抜け殻

僕は子供の頃ツチノコの抜け殻をよく目撃した。草むらとかあまり人が入っていないところによく落ちていた。

なぜツチノコの抜け殻だとわかったかと言うと、子供の頃、友達の下君と二人で川に釣りに行き、帰り際自転車止めてあった場所でその抜け殻を発見した。

なんだろうと棒を拾い動かしてみた。しかしその時は一体このものが何だか見当もつかず見ていただけだった。

するとそこへ一人の中年の男性が現れ「おい君達、そいつはツチノコの抜け殻だ」というのだ。しかしツチノコの抜け殻は一個しかなく、一緒に釣りに行った下君の分はなかった。

仕方ないので僕が見つけたのだが、下君にあげて、また次の時に自分で拾えば良いと思った。下くんは喜んで大切に家に持ち帰った。

しばらくして、又、下君と釣りに行った時、今度は僕もツチノコの抜け殻を探そうと必死に探した。するとこの前と同じ様なところで、わりと簡単にツチノコの抜け殻を一つ見つける事が出来た。これで自分の見つけたものとして、つり道具の中に入れて家に持って帰った。

あれから十年程が経過したある日の事、あの時のツチノコの抜け殻が実はツチノコの抜け殻ではなく避妊具であるということに気が付いた「ゲェー」・・・

そもそもツチノコっているのかな？！

自然派にこだわる家族

私の家族は生活圏内に自然のものを取り入れ、危険なものは調整排除していかうとする考えがあるらしい。食べ物に関しては凄くこだわりを持っている。

例えば宅配の生協関係も〇社に加盟していて吟味、吟味でチョイスし、食品も完全無農薬、有機栽培にこだわっている。その家族は家でパン工場を持ち、パンやクッキーを焼いて生協や農協で販売している。

パン一つにしても全てにこだわっている。小麦は国内産無農薬使用、北海道産ハルユタカを希望していたが高価。仕方なく自分の畑で無農薬で作ろうと試みるが、水や近隣の農薬散布があるので完全を表示できないため、断念しイライラしている。

水も冠稲荷神社の御神水や支笏天然取り寄せ水、卵や牛乳に関しては現地確認後、渡辺養鶏場、平飼い有精卵。牛乳は神津牧場ジャージー、チーズは岡山の吉田牧場産、塩はグラント、砂糖は有機黒砂糖。バターやごま油、なたね油、オリーブ油、包装袋までこだわり、この様な材料を使って一・五斤四百円で売っている「安くい」。

従って家庭内もすつごくヘルシーにこだわって千坂式や長岡式などを取り入れた麦や、玄米、酸性、アルカリ性にこだわった食品。パンと同じ様に牛乳、卵をはじめノニジュースやヒツポ

ジュース、果物ジュースはもちろんストレート100%。オリゴ糖、はちみつ、ジャム、全てにおいて添加物のない、遺伝子組み替え無し、無農薬のものを買い求めている徹底ぶり。食事に関しては文句なし、こだわり味噌に、こだわり醤油、肉野菜は国内産。緑のものは三百六十五日出ない日はない。新鮮の上に安心していただく事が出来る。

最近では手作りのヨーグルトを作っている様である。なぜか私のビールにまでも波紋が広がり有機のビールが買っている。

食品だけではない。エッセンスヒーリングルームをやっているがエッセンスに電磁波を嫌いを使っている。金も使っている（困）。薬品購入は漢方薬関係は中国から直。西洋薬や新薬は薬局でラベルを、家では医療、医薬品辞書とにらめっこ。家の中では必ず上履き使用、下着肌着は綿100%、毎日本を読んでいて暇がない。暇の時は歯を磨いている。電子レンジ使わない派である。生理用のナプキンも布ナプキンにしている。「何もそこまでも」家族は宗教が大嫌いと言う。「おまえ達それは宗教ちゃう」。

もし私が死んだら墓場の中でなくてコンポストに入ってもいいくらい。

不法投棄はやめよう

家の近所を見渡すと、あちこちで不法投棄されているのが目に入る。

田んぼの中に冷蔵庫、陶器、産廃物、たまに犬なども捨てられている。あれは捨て犬か！

そんなことがあるので最近私は注意をしている。ちよつと不審な車が来るとナンバーを控えたり、時には不審者に声をかける事もある。それはと言うのも昨年一年間地区の衛生委員をやっていたため、不法投棄などに関する情報や知識が高まったとも言えるのである。私の住んでいる隣の市では不法投棄三万円の罰金、不法投棄現場発見者には一万円の謝礼が出る。これを機に不審トラックが山に入って行くと、夜中に見張るアルバイトが出てくるほどである。

同じ車が同じところを何度も通ったり、普段見かけない人や車にも注意が行くものである。特に最近では色々な事件が多いので、我々が毎日注意をする必要がある。私の家の空き地にも最近タタミが捨てられていた。あるところでは便器が捨てられていた臭さ――

ある日、家に帰るのが遅くなったので、犬の散歩が夜になってしまった。

二匹の犬を連れて散歩していると藪の中でガサガサ音がしていて、懐中電灯を点け、何者かがおかしな事をしている。ふと思ひ出すと二日ほど前からそこには金庫が落ちていた。

その金庫の中をガサガサと探しているらしい。こんな現場を見たので放っておくわけにはいかない。

二匹の犬を連れて行き「だれだー てめえー きさま泥棒かー」と投げかけると

「違います」とまじめに返事が返ってきた。そばへ行つてよく見ると近所の駐在所のお巡りさんだった。

盗難品を調査していると言うのだ。

こんな、ばつの悪い思いをしたことは無かった。結局お巡りさんと話し込んでしまい、その金庫の第一発見者にさせられてしまった。そんなこんなで近所に放棄してある自転車や、盗難品まで私が発見したことになり、今でも「六ヶ月経ったが落とし主が現れません」引き取りに来て下さい」と警察から連絡が来ている。

井戸の中

それは井戸掘りのときの出来事だった。

今は、各家庭に水道が引かれ、特別な災害でも発生しない限り、水が出なくなる事はまずない。

我々の子供の頃は、どの家も井戸を掘っていて自家水を利用していた。入梅の雨、秋の長雨は井戸が掘ってある家庭にとっては、本当に自然の恵みと言えた。その年は春も秋も雨が少なく、とうとう我が家の井戸も涸れてしまった。

そこで私の親父（例のガンコ爺）が井戸を掘ることになり、作業が始まった。

井戸の傍にある大きな杉の木に、太いロープが巻かれた。ロープの先には、バケツやツルハシ（鶴嘴）、スコップ等の道具を縛り、作業の始まる前に井戸に降ろしていた。

そこへ、ヘルメットをかぶったガンコ爺の登場だ。いとも簡単にロープを伝い、井戸の中へと入って行ってしまった。「なんだあれ！前世は猿だったのか！」

井戸の中を覗くと鼻歌とツルハシで掘る音が聞こえてくる。作業はあまり進まず一日に三センチ位しか掘れないと言う。「おーい」と声がかかる度にロープを持ち上げると、バケツの

中に大きな岩や濁った水が入って出てくる。三日も掘れば充分水が出るようになると言うが、岩が硬くてなかなか困難だったようだ。作業は日曜日までかかり今日が最終日だと言う。興味があるのでその日私は一日中見ていた。

そして夕方になり全てが終了した。朝方入れた道具類は全て井戸から出され、あとは親父で出てくるだけで終わりになる。

「ちょっとまったー」親父が登ってくるロープを下ろす前に交渉が始まった。当時の私の小遣いは五百円。友達らは千円とか千五百円もらっている様だ。

今がチャンスというばかりに「おい親父、小遣いを五百円から千円にアップしてくれー」「そうでない」とロープは降ろさない」「どうだ。」すると親父は「馬鹿も休み休み言えー」「ダメだ！」

今までの人生の中で、親父はダメだと言ったのを、くつがえした事は一度も無い。

「頼むよー」「ダメだ」「頼むよー」「ダメだ」「じゃー六百円」「ダメだと言ったらダメだ」

「じゃーロープは下ろさない」親父は「勝手にしろー今日俺は井戸の中で寝る。」
と言い黙ってしまった。

結局小遣いが上がらないのでロープは降ろさないことにした。井戸の中を見ると親父が一人でなんか考えている。「小遣いが上がる事を考えて欲しいなあ」実は考えていなかった。

夜になって母親が「お父さんどうしたかな！」と言うので井戸を覗いたら、親父がずぶ濡れでこっちを見ている。母親があわててロープを下ろし親父は上がってきたが、ドロドロ、ビチャビチャで寒さに震えていた。もしかしたら親父は我慢強く水死していたかも知れない。結局五百円のまま小遣いは据え置きだった。



粗拾いしている訳ではないけど

水戸黄門のテレビ番組で黄門様一行が山の中を歩いている場面がある。

何処から来たのか山間からヘリコプターが一機飛んでいる。なぜか不自然である。最終確認でも見落としてしまったらしい。まさかそれが放送されるとは。

確かに今では撮影場所を見つけるのも大変になって来ているとか。見てみるとそれだけではない。人間が飛び上がる格闘映画のシーンであたかもワイヤーで吊っているという場面がある。しかしこの様な映画の試写会の発表やニュースである時はワイヤーで吊っていたとか、CG処理しているとか聞くことによりなんとか納得できる。

ところが納得できないのがある。例えば「この洞穴へ人間が初めて入ります。」と言っているにもかかわらずカメラは明らかに洞窟の内側から向けられて人間が操作している。

極め付きは鳥の鳴き声だ。雪が降っている場面でおじいさんが庭を眺めている。

「梅の木にも雪が降り積もり」と来れば、いくら季節がまだ寒いとはいえ出てくる鳥はまず、ウグイスである。せいぜいスズメとかシジュウカラならまだ許せる。

ところがオオルリが鳴いている。なんてこった。オオルリは日本では暖かい季節しかない

のだ。人は騙せても俺は騙されない。この前なんかドラマの中で季節外れのフクロウが鳴いているではないか。一体どこなっている。まあ町に出れば倉庫の中から密猟されたのが鳴いている昨今だけだ。

あまりにもおかしい事が多すぎる。粗探ししている訳ではないけど。

犬の発情期

今回は下ネタになってしまった。

我が家の二匹の犬はしつてもよく正しく育てて来たつもりである。お手やおあずけはもちろんのこと。散歩の時も綱をつけないで必ず主人より後ろを歩く様にもしつけてある。

餌が目の前にあっても主人がOK出さないと絶対に手をつけようとしない。

とても可愛がっているが、ひとつ間違いを犯した時のお仕置きも厳しい。

そんな犬だが最近おかしい。発情期と言うのを迎えているらしい。放して散歩するとサブロウが途中でメス犬のところへ行ってしまう。そう、好きなメス犬が近所にいるのだ。このシーズンになるまでは全く問題もなく、放して散歩が出来ていた。好きな彼女がいる所へ行くのを阻止するのもかわいそうだが、仕方のないことである。人間の場合もそうか。フム、考えさせられる。

過去に二度ほどメス犬のところへ行ってしまったため、今では綱をつけて散歩している。

ジロウは四歳、A型でけっこう神経質、犬には珍しく固く好きなメス犬もいないらしい。

サブロウは三歳、B型で天真爛漫、自由気ままにふる舞い、好きなメス犬が近所にいる。

うつかりしているとすぐ彼女の処へすぐに行ってしまうから、最近サブローに綱をつけて散歩している。

ところが今朝散歩していると、放してあるジロウがサブローの彼女のところへ行ってしまった。

家に帰り家族に、ジロウがメス犬のところへ行ってしまった事を話した。

すると「ちゃんと縛っておかないから行っちゃうのだよ」と言われたため、私はジロウが帰ってくるのを待って、ジロウのチンチンをひもで縛ろうとした。

そしたら私が家族に叱られた。「縛るのはそこじゃないよー」って。

かつこう悪い話

私は、日本野鳥の会の会員として活躍してきた。いろいろな鳥たちを見て、いろいろなさえずりを聞いてカメラに収めてきた。こんな鳥が世界に、日本に本当にいるのだろうかと楽しんできたものだ。

探鳥会の一コマである。五十人程で始まった探鳥会で小グループ十五人位がコース中に一匹の鳥を発見した。それは春先に日本へ渡り鳥としてやってくるホトトギスだった。

「なんだろう、なんだろう」と双眼鏡を覗いている人たちのそばへ行った。

「あれはツツドリかな！いやジュウイチかな、もしかしたらホトトギスかな！」いろいろな会話が聞こえてくる。私は野鳥の会でも彼らよりはベテランに属し、何度も鳥を見てきて双眼鏡を覗いた瞬間にホトトギスだと判ったので即座に教えてやった。

「あれはホトトギスだよ。」「間違いないよ」「とまり方といい、羽の色も」・・・続いて、まるで『知ったか学校』の校長先生のごとく、知っていること全てを探鳥会に来ている人たちに教えてやった。

「ホトトギスの種類にはツツドリやジュウイチやカツコウなどがいて、見分けるのがけっこう難しい。簡単な方法は鳴き声を聞くのがいちばん早い。ツツドリはポポポポと鳴く、ジュウ

イチはジュウイチと鳴き、カッコウはカッコウと鳴く。ホトトギスはテツペンカケタカとか東京特許許可局とか鳴き声が聞こえる。」

まあこんなわけだ。

「あのホトトギスも鳴けば判るよ」すると間もなくホトトギスは飛び去った。鳴きながら「カッコウ カッコウ カッコウ」 「俺はどうしたらいいのだ！」

ギターを弾きに來た男性

近所に樂器を売っているお店があり、学生の頃よく行ったものだ。今考えると何を買に行ったのか記憶が定かでないが、一週間に一度くらい通っていた様な気がする。

お店では樂器屋だけに音楽が流れていて、いい雰囲気でいつも何人かのお客が入っていた。

そんなある日、長身長髪 of 男性客が入って來た。外見からして三十七〜三十八歳くらいに見える、今までの客とはなんとなく違い、見るからに音楽家と言う雰囲気 that 漂っていた。

この男性はお店の中をきよろきよろしたかと思うと、ギターが並んでかかっている場所へ行き、じつと眺めていた。私は、きつとこの男性はギターを弾く人に間違いないと思い、彼の動く方へと目を向けていた。そのころ私もギターに興味があつたが、学生の身分なので当時一万円程度のギターくらいしか手にする事が出来なかつた。

ところがその男性はギターのある場所をいろいろと眺めた末に、店員に向かって「すいません。あのギター貸して下さい。」と言つたのだ。店員は棚にかかっているギターのそばへ行き「どれですか?」と言うと「えーと向こうから二番目です」私はそれを見たときビックリした。はつきりと覚えていないがそのお店で売っている中でも、最も高価から二番目の十七万円くらいの値段だつたと思う。男性はそのギターを手にすると調弦し始めたのだ。

しばらくすると曲を弾き始めた。それは忘れもしない「朝日の当たる家」という曲だつた。

ふと店の中を見渡すと全員がその男のほうに注目しているではないか！

かっこいい。素晴らしくかっこいい。あんなうまくギターを弾きこなせる人を見たのは初めてだ。やがて演奏が終わりに近づき、最後にギターの横を叩いてコンコンと言う音で彼の演奏は終わった。

演奏が終わってじっとギターを手にして眺めながら、男は頭をひねり一言、言った

「うーん」「いまいちだなあー！」「どうも」と言いながら店員にそのギターを返した。

男はそのままジープンのポケットに手を入れ、店から帰ってしまった。かっこいい、凄くかっこ良かった。私はあの時の彼のかっこ良さを忘れはしなかった。いつかどこかで同じ様な事をやってみようと、てぐすね引いて待っていた。

チャンスは間もなくやって来た。

店さえ違うがお膳立ては出来た。ジープンも新しく買って髪の毛は伸びた。曲は何百回と練習をした「禁じられた遊び」だ。さっそく「すいません。あのう五万六千円のギターを貸して下さい。」すると店員は「お客さん、商品には手を触れないで下さい！」

「何なんだ これっ！」あの時私は、あの男性の様にかっこよくジープンのポケットに手を入れて、帰って来たかどうかはあまり記憶がない。

彼岸に先祖の嘆きが聞こえる

毎年今ごろになるとあらためて先祖を敬うと言う気分を味わう事になる。私の両親は先祖に關してとても信心深く盆、彼岸の先祖供養は欠かせた事がなかった。

そんな家庭に育った私も先祖からの力を得てご利益の降り注ぐ日々を今日まで毎日過ごしていた。

しかし盆や彼岸での当たり前の生活の中で時には先祖が物申すことがあるのだ。ある年盆が近付いた頃の出来事だった。そんなある日先祖が困った様子で私の夢枕に立った。夢によると先祖がお茶が飲みたい欲しいと言うのだ。その夢は一週間ほど同じように見えていた。しかし現実では今年七十八歳になる私の母親が毎日毎日仏壇に手を合わせ先祖に一番茶を上げているのだ。あの様にお茶を毎日上げているのになぜこの様な夢が見えたのだろうか不思議に思い、それなら先祖に聞くのが一番良い方法だと思い、さっそく先祖の方々に聞いてみた。

私は仏壇の前にゆっくりと座り心を落ち着かせ合掌をしながら思い当たる先祖の方々に聞いてみた。

最初はおばあちゃんに聞いてみることにして、合掌しながらおばあちゃんを思い浮かべ聞いたのだった。「おばあちゃんお茶は毎日頂いていますか」と聞くとおばあちゃんは「いいえ」と

言うのだ。不思議に思い次はおじいちゃんに聞いてみた。「おじいちゃんお茶は毎日頂いていますか」と聞くとおじいちゃんは「はい」と答えたのだ。

念のために一番最近亡くなった親父に聞いてみたのだ。「親父お茶は毎日頂いていますか」と聞いたら親父も頂いていないと言うのだった。これはどういうことなのかとさっそく母親の元へ行き聞いてみた。「毎日仏壇に上げているお茶は一体何と言って上げているの」と聞いたら母親は「はい、おじいさんお茶ですよ」と言っておじいちゃんだけを名指しであげているとのことだった。さすがの先祖もおじいちゃんだけは喜んでお茶を頂いているかも知れないけど、他の先祖の方々はどうかやら頂いていない様なのだ。

これでは大変だと思いつくお茶を上げる時に今後は「先祖の方々へ」とか「先祖の皆さんへ」とか言うように改め注意をした。すると言うまでもなく先祖はお茶が欲しいと夢に出てくる事がなくなったのだ。先祖の世界でもママならぬ事があるのかもしれない。まさにこの世と同じなんだなあと実感させられた。沢山の先祖に感謝したい。

写真撮影、成人式

当時、私がまだアマチュアのカメラマンだった頃、人物撮影の一つに二十歳の成人式を迎えられた人達の、晴れ着姿を撮影していた頃があった。

沢山の新成人が現れるたびにカメラを向けポーズをつけさせていた。晴れ着姿の女性はとくに色っぽくもあり、新鮮さもあるため何度もシャッターを切った記憶がある。

「はいこちらへ来て、そうそう斜めにして、はい目だけこっちを向いて」いくよー
「にっこり笑って」カシャ「はいもう一枚」カシャ　OKよかったよー

晴れ着姿の女性は自分のモデルぶりにまんざらでもなさそう。慣れてくると自分でポーズをとる人すら出てくる。「ねえここバックが良くないから、そっちにしようよ」

「えーここはアップで、望遠使ってそうそう」

ところがとんだ事件が起きる事がある。晴れ着姿の娘の可愛さに自信たっぷりで自分の娘にぴったりと付いてくるお母さん。何かとせわしなそうにやって来る。時々お母さんが我々に文句を言う事がある。

「あんた達うちの娘の写真を撮って、後で高く売りつけようとするんでしょ。」

「お母さん、そんなことはありませんから安心してください。」

我々も一応お母さんに理解してもらうために話すのだが、

「いや、絶対にあんた達は写真を売りつけるんだ」「そんなことはないですよ」「お宅の娘さんがあまりに綺麗だから雑誌にでも出てもらうと思うのですよ」「だったらお母さんも一緒に撮ってあげますからどうですか?」するとお母さんは「そうかい、フムフムそれでは私も一緒に撮ってもらおうかな!」

私はあまりにもお母さんがずうずうしいので、カメラにはフィルムを入れてなかった。

「じゃあー今度はお母さん」「はい娘さんのそばに寄って、はいいくよー」カシヤカシヤカシヤカシヤ シャッターとモータードライブの音が響く、カシヤカシヤ、私と一緒に居た三人の友達のカメラマン達もカシヤカシヤ カシヤカシヤ、シャッター音やストロボのあらしの様である。

友達もかなりの枚数シャッターを切っている。お母さんもすごいモデルをしている。

お母さんは喜んで後で我々に写真を送ってくれるように話していた。

撮影が終わって三人の友達に聞いた。「そんなににとってフィルム大丈夫?」って、すると友達は一あんまりババアがうるせえーから、俺フィルム入れてなかったよ」「俺も、俺も、そういえば俺もだ」

彼岸に情事は慎め

寒い最中、正月を迎えたかと思うともう彼岸がやってくる。春の彼岸と秋の彼岸の平均気温差は九度だと言う。もちろん春の方が気温が低くまだまだ寒い日は続きそうだ。

「彼岸に情事は慎め」私がまだ修行の身、どこかで読んだか聞かされたか忘れたがこんな話が あったのを覚えている。

若い夫婦がいて幸せに暮らしていた。ある日のこと不慮の事故で旦那様が亡くなってしまった。奥様は葬儀も済ませやっと旦那様の事を忘れようとしていた。一年が過ぎ彼岸がやってきた。旦那に先立たれた奥様はその後親しくしている男性と良い仲になり男性が奥様の家に行き来するようになった。

一方一年前に亡くなった旦那様はあの世で奥様の事が忘れられなくて日に日に思い出していたそうだ。あの世では彼岸や盆になると今まで制限されていた行動範囲が広げられ、あの世の島の隅々まで行っても良いという暇が出るそうだ。とがった島の先端に一本の大きな木が生えていて、その木を魂宿樹（こんしゆくじゅ）と言い、そこまで行っても良いと許可された。その木に登り現界を見下ろすと、残してきた奥様の姿を見る事も出来るらしい。

興味のある人は盆や彼岸になるのを待っていて登ったそうだ。その旦那様は初めて魂宿樹の傍へ行き、てっぺんまで登った。さっそく奥様がどうしているか心配で現界を覗いたところ、なんと奥様は知らない男に抱かれているではないか。旦那様はびっくりして先にあの世に行ったことに後悔したとのこと。

彼岸には先祖を敬う様心がけ静かに生活した方が良い。あの世へ先立った人もなかなか落ち着いていけない様だ。諸君らも注意して欲しい。常時



我が家のガン患者

我が家にはガンの患者がいる。でも彼女は元気に振舞い家庭内では一番健康そうに見える。ご存知のように我が家庭は個人の行動している事にはお互いに一切干渉せず、好きなものを好きな様に行い楽しんでいる。

また、我が家庭の取り決めにより全てオープンにしているため、もちろん彼女自身がガンであるという事は、本人に全て告知して納得している。まだ若いとはいえガンを告知されたという事は、一体どの様に大変だろうかと想像してしまうが、意外と落ち着いて気にもしていない様子で前向きに生活している。

「いずれ人間は死ぬのだ」理論かも知れない。

ところがここのところ、お彼岸に入ると次々と先祖が、彼女の夢枕に立ち出てくると言う。なんとなく怖いけど、なつかしい先祖の名前も聞く事ができた。

「きつと先祖が早く来てほしくて呼んでいるんだよ」と家庭内ではジョークも飛び出すが・・・そんなお彼岸であるから彼女もは、遺、もし死んでしまったらと死後の確認作業までしている。

「えーと、葬儀社影は、お供物は、お寺は」等々・・・

もちろん私からも、あの世とこの世の連絡方法などに付いても話し合っている。

そんなお彼岸にふさわしいフオックス家の一コマである。

珈琲館での一コマ　口紅が付いていますけど

近所に珈琲館があり、時々出かける。大きいボールのカフェオレがたまらない。

「えーと今日はミックスサンドとそのカフェオレにしよう。」

やはり昼時だとランチタイムという事もあってか沢山の人で、席を探すのもやつとである。

店員が「いらっしやいます」「ご注文が決まる頃また伺います」ところが混んでいて店員がなかなか注文を取りに来てくれない。

やつと注文をとりに来たかと思うと今度は注文の品を運んでくるのも遅く感じられる。

つまらないので後ろを振り向くと、斜め後ろの女性がレシートの入っているケースを落としそうになり、慌ててしゃがみ込んだ。そこへ後ろの男性が取ってあげようと、手を差しのべ、二人が鉢合わせしている。

かわいそうに男性の肩にはその女性の口紅が付いてしまった。私は見てしまった。

そばに居た人が見て見ぬふりしている。

やつと店員が来た「お待ちどうさまでした。」

「ナンバー三コーヒーとカフェオレ、そしてホットケーキとミックスサンドですね」

「ごゆっくりどうぞ」

せわしないランチタイムが終わりレジに向かった。まったくレジまで混んでいる。

私の前に二組が支払いを待っている。すぐ前のおばあさんがその前の男性の肩に付いている口紅を指差してひそひそ話し込んでいる。男はまだ口紅が付いたことに気がついていない。

けっこうみんな冷たくて教えてあげない。私はレジを済ませ、その男性に言ってやった。

「あー 口紅がついてますけどー」

すると男性は、何を勘違いしたか慌てて自分の唇を手で拭き始めた。

それどころか、かばんから鏡まで出して口を眺めている。この男どこかおかしい。

口紅が付いているのは肩なんだけど。

この事があるとところで話したら、後日タレントが同じ様にお笑いのネタとして使っていた。



追い越し禁止

スキーバスの帰りは皆さん打ち解けてにぎわっている。

さぞかし楽しく白銀の世界でシュプールを描いて来た様子が、バスの中でも見受けられる。隣同士で話をする人、何かを食べている人、歌を歌っている人、それを聞いている人様々である。

楽しくバスの中ではわいわい騒いでいるがどうも前の車が遅い。

しかも追い越し禁止だ。

あと一時間もすれば到着するので焦る事もないが、どこからともなく聞こえてくる。「抜いちゃえ、抜いちゃえ」 「抜いちゃえ、抜いちゃえ」なんと抜いちゃえコールだ。

抜いちゃえコールは段々とボリュームが上がって来て、とうとう運転手の大脳まで届いたらしい。

バスはカーブが終わる間際から右に寄り前の車を追い越した。

その威勢で三百メートル程直進した。するとその先にパトカーと白バイが止まっていて、警察官が旗を持って路肩に出てきた。

そう追い越し禁止区間で追い越しをし、運悪くバスは止められてしまったのだ。

私はたまたま前の席にいたので、運転手と警察官のやり取りを聞く事が出来た。

警察官は凄い剣幕で運転手さんに言っていた。「君は五十人も命をあずかっているんだ！」

するとかわいそうに運転手さんは下を向いてうなだれていた。

交通違反の切符を切られ、バスは再開し今度は静かに出発することになった。

運転手は真面目そうな顔つきになり、幹事さんも静か、バスに乗っている皆さんまで静かになってしまった。いったい先程の騒ぎはなんだったんだろう。

誰が悪いんだ。



趣味と呼べない映画鑑賞

先日「極道の妻たち」という映画を見てきた。私は多趣味ではあるが映画はまだ趣味の範囲に入っていない。しかしここ二年の間で日本映画、外国映画を百本以上見ている。

シアターへ行ったり、テレビで、ビデオでジャンルを問わなく見ている。

なぜ趣味に入っていないかと言うと、タイトルと出演者が完璧に覚えられないので、まだ趣味と呼ぶことが出来ないのだ。

数日前、映画の好きな人のページへ行ったら私の好きな映画のタイトルを目にする事が出来た。

そこで心を打たれた外国映画の中で十本だけ選んで見た。

ショーシャンクの空に、誓いの休暇、レイシマン、天使にラブソング、黄金の二人、ミクロの決死圏、大逆転、美食の報酬、暗闇の中の囁き、バックトゥーザフューチャー、まだまだあるが最近映画の好きな人の気持ちがよく分って来た様な気がする。

以前はアクション物とかスパイ物が多かったが、いまではアニメにコメディ、サスペンス、ミュージカル、歴史、ラブストーリー、ホラーにSFと何でも来いである。

水野晴郎さんの言葉を借りて言うと「いやー、映画って本当にいいもんですね。」

天国への矢印

久しぶりに車で遠くへ出かけてみた。数日前から何度か観音様が夢に出て来て、久しぶりに逢いたいと言うのでお彼岸が開けたら出かけてみようと言画はしていた。

昨日の朝もまた夢に出て来て「ねえーまだなのー」と言うので急きよ本日出かけてみた。

高崎市にある白衣観音像は四十一・八メートルで現在七十歳、詳細については次のチャンスに・・・



その観音様に向かう国道は平日とあつて渋滞もなくスムーズに車を進めることができた。

帰りもまた同じ道を走らせ自宅に向かって行くと、後ろから大きなトラックがついて来た。

ボディーが長く十一トンもある車で、私がゆっくり走っていたせいか追い越しをかけて来た。

追い越しが終わるまでに時間もかかるので、私は進路をゆずるためにスピードダウンをしてあ

げた。トラックはクラクションを「ポワァーン」と鳴らしてくれてスムーズに追い越しが終わった。

ふと前に行ったトラックを見るとしるに「お先に失礼」と書いてある。

洒落ているじゃないか。出かけてくる時の朝のニュースでは車の中から拳銃で隣の車をめがけて撃ったなどという物騒な事件が起きている昨今。マナーの良いドライバーもいるのだ。関心。

しばらく行くと前のトラックのスピードが落ちてしまいゆっくりになってしまった。運転手が疲労したのかそのまま後をついていたが、あまりに遅くなったため今度は私が追い越しをすることにした。今チャンスを逃すと追い越し禁止区域になってしまう。ふと見るとこんどはトラックの右後ろに「お先にどうぞ」と書いてある。さすが長距離のトラック運転手マナーがしっかりしている。

エンジンをふかしトラックに追い越しをかけていくと、「お先にどうぞ」の後に線が引いてある。

たどっていくと矢印がしてあり「・・・↓ ↓ ↓天国へ」と書いてある。

なんだこれは！びっくりしてほとんど急ブレーキ状態で減速し追い越しをやめてしまった。

あのトラックの運転手あまり良い人じゃなかったかも・・・観音さまー

全ては校長先生がカギを握っている

学校の校庭で自転車のカギをひろった。

私は善人で正直者だからそのカギを持って校長室へ届けに行った。

校長先生に「あのー校庭にこのカギが落ちていましたけど」「あっはい」校長先生は出て来てカギを受け取ってくれた。

「いやーありがとうございます」「いまだき拾ったものを届けてくれるのは珍しいよ」

「助かります」「でっ 君の名前は、いちおう聞いておこう」

「あっはい フォックスといいます」「ちよつと待ってね書きとめるから」

「なになに ホッキス君」校長先生は紙にホッキスと書き始めた。

名前が違うホッキスでなくて私はフォックスだ。

そこで「あのおー名前はフォックスなんですけど」「いいんだよ、いいんだよホッキス君」

「君は良いことをしたんだから」「君は良い事をしたんだから何も言わなくてもいいんだよ」

「あのおー」「名前が・・・」「いいんだってばー良いことをしたんだから」
私は良い事をしたんだからそのまま黙って家へ帰ってきた。
家へ帰ってきてよく考えてみたけどやはり良い事をしていた。
でもなんとなくしっくりこない。どうしてだろう。



スキューバダイビング

私は多趣味でいろんな趣味を持っている。

乗馬、テニス、スカイダイビング、アーチェリー、ヨット、スキューバダイビング、フォックスハンティング。「自分で自分を狩りして何してんねん」と言われそうですが以上は自分がやってみたい趣味なのだ。

過去に一度だけスキューバダイビングに興味を持ち二人の先輩に海へ連れて行ってもらった事があった。当時はスキューバダイビング等とは呼ばずに機材の名称からアクアラングと言っていた。

場所はまぶたの母で唄われた舞鶴だった記憶がある。

着いたのが夕方で現地に着くと二人は早速機材を背負い懐中電灯を持ち、魚を求めダイバーとなり海へと入っていった。私はどんな魚が取れるのだろうかというワクワクし車の中で留守番をしていた。

国道沿いの海辺では夜になると暴走族が出没しにぎやかである。

思わず暴走族に気を取られ眺めていると一人の老人がこちらに向かってきた。気さくで人なつこく私に話しかけてきた。面白い爺さんで、すっかり意気投合し楽しく話が進んでいた。

しばらくして海水の泡と一緒に二人のダイバーが水面に上がってきた。

私はどんな魚が取れたのか直ぐにダイバー達に聞いた。すると「今夜は何も取れなかった」と言うのだ。

えつ、私はがっかりし、すごいショックを受けてしまった。来る前に聞かされた豊漁とは全然話が違うので本当にかっかりしてしまった。

するとダイバーの一人が「そこにいる爺さん何者？」と聞くので、私は「つい先ほど友達になった人なんだよ」と話すとダイバーたちは腰に付けている長いロープを海中から引いた。するとロープの先に繋がっている二つのかごの中には魚が満タンに入っている。

私と爺さんはダイバー達からタコやヒラメ等をお願い喜んで家へと帰った。

家に帰って来てタコを食べている時に考えてしまった。スキューバーダイビングって泥棒じゃん・・・



ヨン様、我が家にやって来る

私にしてみればたいした出来事じゃないんですが・・・

我が家ではいま二匹の犬を飼っています。賢い犬シリーズになってからは三匹目です。

三年前に他界した太郎君、そしていま家にいるのが三年生の次郎君と二年生の三郎君です。賢いシリーズの血筋を引いた兄弟はみんないろんな芸をやっのけます。

電話が鳴ると受話器を持って来てくれたり、タバコやスリッパなどを運んでくれたり、言うことをよく聞き飼い主に見れば可愛いものです。

先日元親がご懐妊したと聞いたので早速次の犬の予約をしておきました。あれから間もないのですが今朝連絡があり、すでに早朝に生まれたと言うのです。犬のお産は軽いと聞いていましたが、妊娠から出産までの期間も早いのでびっくりしました。

そして次の犬の名前ですが、太郎、次郎、三郎とくればもちろん今度は「四郎」です。

いま飼っている犬は各々自分の名前が認識できるので、次の犬の名前を四郎（シロウ）と呼ぶと次郎（ジロウ）が聞き間違っとは思いい「よんろう」とか考えてみたが、どうやら「ヨン様」と呼んだほうが呼びやすい様である。

七匹生まれと言うから最もヨン様にふさわしい犬をその中から探さなくてはならない。すでに予約はいっぱいらしい。二ヵ月後に親離れしても頂いてくるのが冬になってしまう。初めて家に連れてきた時には何と声をかけてあげよう。「冬のそなたの名前はヨン様ですよ・・・」とか。



高給なアルバイト

私の後輩が見つけたアルバイトで一日三万円くれると言う。

私が探しても今時せいぜい一日一万円程度である。一日三万円はけっこう良いバイトだ。それも部屋付き、食事三食付きで漫画本を読んでも、居眠りをしていても挙句の果てに寝ていても叱られないと言うからびっくり。

おかしい、仕事が無くて寝ていても良い等というバイトは絶対何かあるに違いない。

後輩は友達と三人でバイト先を訪ねたという。そのバイトに必要な条件は若くて健康な男子であることと、十二時間はその部屋からは出ないで生活して欲しい。一週間後に又バイト先に来て欲しいというものだった。

そこで詳細を聞いてみた。どうやら製薬会社の関係のバイトらしい。

そのバイト先では新薬が出ると副作用の調査をするためにアルバイトを雇うという。三食の食事の後にその薬を飲んでもらい、後は自由に行動していかまわないのだ。

彼らは一日数回の血液検査と尿検査等、そして副作用調査用紙に記録するだけでよいと言うのだ。

私にはこのようなバイトはとも出来そうにない。キツネにも出来そうにない。

こういうのはモルモットに頼んだほうが良いかも・・・

あなたは見たことありますか？

我が家の近所に小鳥屋さんがあります。ベニスズメ、カナリヤ、オウム等小鳥を専門に売っているお店なのです。ずーと前(二十年位前)私が五歳の頃から思っているのですがその小鳥屋さんの主人の顔がどうもセセイインコに似ているのです。顔の話をしては失礼かと思うのですが、目といい鼻といい口や輪郭までが、まるでセセイインコなのです。小鳥屋へ入った瞬間、「この人、鳥の顔をしてるー」といつも思っていました。たぶん私以外のお客さんもきつとびっくりしたに違いありません。

私がお店にいた時に入ってきたお客さんも「似ているー」と言い、中にはクスクス笑い出す人もいました。思わず商売柄顔まで似てしまうのかと思ってしまいました。

話は変わりますが我が家の近所に焼きまんじゅう屋さんがあります。名物まんじゅうのお店でいつも沢山のお客さんが入っています。

ある時私は焼きまんじゅうを買いにお店に行くとなんとそのお店の奥さんが、「焼きまんじゅう」の様な顔をしているのです。本当なのです。そして良く見てみると包装をしている娘さんまで同じような顔をしているのです。しかしまだまだそれだけではなかったのです。煙を立てて奥でまんじゅうを焼いている旦那さんまでが「まんじゅう」みたいな顔をしているのです。

別に悪くはないけどほんとに見えるのです。元氣よく「いらつしやい」と私に言ってくれましたけど。

他にも陶芸品屋の売店で埴輪を売っている人が埴輪みたいな顔をしているのを見たことがあります。今回は近所のお店とその人達を色々と思い浮かべてみました。魚屋さん、ペットショップ、時計屋さん、本屋さん、花屋さん、だるま屋さん、・・・でもお店にふさわしい顔をしている人はその後見つかりませんでした。

今度チャンスがあったら県外にも足をのびし出かけてみようと思います。
隣の県で人気のある○○動物公園でカバとか水牛とか見てみたいですね。

スリーエスで売っている激安マシーン

この写真は蚊やハエを撃退するものでテニスのラケットではありません。

二年前に地元のスリーエスの一店であるサンキで一本千五十円で売っていました。

スリーエスというのは安売りしているお店で我が家の方ではサンキ、しまむら、サンドリアの三点を合わせて激安店スリーエスと呼んでいます。

昨年は同じものが一本三百八十円で売っていたため二本買ってきました。もしかして今年もあるかなあーと思って八月に入店したらなんと今度は一本百五十円で売っていました。

それも電池二本付きで・・

この調子だと来年は一本五十円になるかなあーとは思いませんでしたが・・・、それにしても一本百五十円では安く、おまけに電池付き、現在では電池二本だけでも百五十円以上もするので、思い切って八本あったラケットを全部買い占めちゃいました。

私が実際に使用する目的は蚊を撃退することなのです。これがあるとひじょうに助かり効果覷面です。蚊取り線香が苦手なので蚊を発見するといつもこのラケットでバシッと一発で仕留めています。グリップ部分に電池が入り、ガット部分では高電圧が発生しているために蚊やハエはイチコロです。

最近天氣の良い日に窓を開けておくとういわけか真夏に活動をサボっていた季節外れのノウテンキな蚊が部屋に入っているのです。夜、私がベッドに入ると何処からともなく見ていたかの様に耳元へブーンとやってくるのです。さっそくラケットのお出ましとなり火花もろとも蚊は一発でご臨終です。

たかが百五十円と思い金属で出来ているガットの部分に指を入れたら頭の先から〇〇の先までビビビビイーバシューッと感電してしまいました。完全に。



今年の幕開け

スロースターターである私は今が新年なのかもしれない。

昨年、昨年の末にガンを宣告されて出だしが遅れてしまったが、日本では新年の気分はもう終わりで、というのに、旧暦では一月二十九日が元旦、中国では今を新年として祝っている。今日から二月、やれ節分だぁー立春だぁーバレンタインデーだぁー。

一月の末までに大きな地震がなかったので少しは遠のいてくれそうだが、世の中そういう訳にも行かないらしい。昨年は地面と人間が大きく取り沙汰された。もちろん地震も、誘拐して子供を地面に捨てたり、耐震強度偽造の問題もあったり、大きなニュースが後を絶たない。

果たして本年度はどうだろう。今年は人間対人間の問題が多く発生しそうである。

それは良いことも悪いことも共通して言える。変わった人間が出没したり、新たな事件、事故、病気や犯罪が出てきたり、拉致の問題に関しても良いことも悪いことも騒がれる時なのではないかと思う。

また新たな発明や発見もある年となりそう。ネット上でも色々とありそうなのでブログ詐欺にも気をつけよう。フォックス一号店、開店の兆し・・・

ブッシュのワラター

ブッシュと言ってもアメリカの大統領ではありません。フラワーエッセンスなのです。先日から夜中丑三つ時になると金縛りと共に龍がやってくるという事態が二度ほどあり、夜中に大変な苦戦を致しました。今考えると夜中にトリノオリンピックを見ていたほうがよほど楽だったに違いありません。龍に関しては他のコミュニティでお話することにし、問題なのは今回の金縛りをいかに解消するかと言う事が発生いたしました。

少年期には毎晩のように金縛りに遭い、寝るのが恐かった時から見ればある時点を境に消えてなくなってきたのです。しかし今回の様に強いものになると最近では年に二〜三回発生する様にもなりました。



これは私自身の方向性が正しいのか判断を委ねる一つの方法に、フラワーエッセンス法があり、今回はこれを試してみようと思いい口にしたのです。フラワーエッセンスとは花から抽出したエキスを光や波動を加え、その花自身の持つ波動が我々人間の生活リズムや思考行動などをポジティブなものに表現してくれる様なのです。ネイチャーエッセンスの中ではわりとポピュラーなのかもしれません。

時には思わぬ共時性が発生したり、自分にとってはよくない事も出てきたり、客観的に自分を見ることも出てくる様なのです。もちろん自分の方向性や軌道修正がわかってくるのもその目的なのです。

一度飲んで以来金縛りに利用できるかどうか、今回が二度目になりますが、飲んで思ったことは忘れかけていた morning stand up 現象が如実に甦ってきたと言うことです。

これは薬ではありませんがフラワーエッセンスに興味のある方は一度調べてみるのも良いでしょう。

長生きの知能犯

福寿草と長寿は似て否なり、片方は花で片方は人間でまったくの別物である。たまたま同じ字が使われているだけである。その福寿草が庭に咲きだした。私の住んでいる市では百歳を迎えると市から長生きをしたことにより五十万円が授与される。年寄りにしてみればとても喜ばしいことである。

「ばーあさん、その金は天国まで持っていけないよぉー」なんてジョークも通じない。



しかし現状では不思議な事が増えている。九十九歳になり、あと一年で五十万円もらえるとなると、なぜかその年での人口が少なくなり減ってきているのだと言う。お年寄りだけに、もしかしたらお亡くなりになられたのではないかと思うとそうでもないらしい。人数もそう多くないからわかるというのです。

それどころか突然百一歳のお年寄りが引越しをして来たりすると言う。

我が市で調査したところ九十九歳まで長生きしているお年よりはなぜか隣の市へ引っ越していくそうだ。そして百一歳になるとまた我が市へ戻ってくると言うのだ。なにも年老いてから引越しをするまでもないと思うのですが・・・

私も最近知ったのですが我が市では五十万円しかもらえないのに、隣の市では百歳まで生きていると百万円もらえるそうだ。もう一度言うけど「あの世にはその金は持っていけないよおー」

春になっちゃったかも！

隣の県ではうん十年ぶりの豪雪だとの事だが、我が地方は雪らしい雪は未だに降っていない。

野鳥が鳴いたり、花が咲いたりしているのでなんとなく春になったのかと思いきや、それが寒い日もあるんですねー、三寒四温とはよく言ったものだが、私の頭の中はまるで三覚四忘状態です。

とても恥ずかしいのですが、ゴミ捨てに行くのにゴミを持たずに出かけたり、郵便局へゆうパックを出しに行くのに窓口で忘れたことに気が付く始末です。それも一度だけではない。

これではあと数年もすると先ほど食べた食事さえ忘れてしまいそうだ。何となく頭の中が春になってしまったのか！明日はもう彼岸の入りだ。暑さ寒さも我慢して・・・



私が病院を変えたワケ

私の通院している総合病院では四月末に六人の医者が辞めたそうだ。

新聞の報道によると小児科の医者が辞めるので、産婦人科も対応が出来ないとかで産婦人科もなくなるとか、やっぱりどこからか医者を連れて来るとか・・・

めまぐるしく情報が流れていたのだが、私は産婦人科には直接縁はない。縁があるのは泌尿器科だ。最近どーも・・・

しかしその泌尿器科の医者も定年で退職となり辞めてしまった。おまけに内科の主治医も四月で退職してしまった。セカンドオピニオンなどと言っている場合ではない。私はどうしたらいいのだ。でも幸い内科の主治医は独立して自分で医院を建てたのだ。

私も来月からそこへ行くことにした。これでいいんだ。我が家の庭先ではキジが遊んでいるよ。



撮影日記

五月二十一日は今までになく澄んだ良い天気でした。

はつきりしない天候が続く中では、撮影にふさわしく楽しめた一日でした。真っ青な空に大きな雲が出没し、まずまずの日となりました。撮影中に私の友達が、中年のおばさんに声をかけられていました。

おばさんの声を聞いてみると

「おみやーことばぁーわぁりいーずらぁー」「おまきえにいーなまりあるしいー」

翻訳「貴方は言葉が悪いです」「おまけになまりがあります」と言う事です。

私はそのおばさんの方が、よほどひどいと思いましたけど、友達は後になって言っていました。

「あのおばさんからすると、きっと我々の言葉が悪いかも」って・・・はい。

駐車禁止

梅雨の六月、我が家の双子の薔薇も真っ赤に微笑んできた。

本日より、全国で民間による駐車違反の摘発が行なわれるという。

今から三週間ほど前にさかのぼるが、近所の法事に招かれた時の事。私はどうもあのような席では間が持たず、いつも落ち着かないのだが・・・

隣の席に座った若い男性が、なにやら携帯電話を取り出し、見ている。たまたま私もポケットに携帯電話を持っていたのだが、なにせ電話がかかってくるのは一ヶ月に二〜三回程度、もちろんメールをやっている訳でもない。携帯電話を覗いても何も面白い事はない。

まあ暇つぶしにはいいかと思ひ、携帯を取って画面を覗いて見た。すると着信ありが六件表示している。

なんだろうと眺めて見ると、自宅からである。あくあ家族が亡くなった、と思いきや、慌てて自宅へ電話した。

すると私が車を駐車した場所で作業が行なわれるために、私の車が邪魔になり、倉庫が開かないというのだ。倉庫の持ち主が警察へ百十番通報し、警察から我が家に連絡があったという

もの。

私は車を駐車する前に、この場所は普段は使わないから、と聞いていたのに、たまたま作業をする日だったらしい。

しかたなく、法事の途中で抜け出し、あわてて車まで戻ったのだった。あれからその家の人達とはギクシャクしている。心の中はすでに梅雨に入っている。

仰々しい、特許許可局

おっと思わず舌を噛みそうになっちゃいます。我が家の付近では、新緑の今頃になると朝早くから、山間にトツキヨキヨカキヨク、トツキヨキヨカキヨクという鳴き声が響き渡ります。これはカッコウの仲間のホトトギスの鳴き声であって、これから行動するところなのです。一方夜中でもギョウギョウシイと泣いているヨシキリは、今、ヨシの中に巣を作り、子育てに大忙しなのです。ところがこのヨシきりの巣の中の卵を食べてしまい、自分の卵を産み落とすのが、特許許可局のホトトギスなのです。勞せずして自分の子供をヨシキリに育ててもらおう托卵（たくらん）が始まるのです。何をたくらんでいるのか、もともとカッコウの仲間はウグイスの巢などに、托卵していたが、最近ではモズとかこのヨシキリまでが、被害にあってきている。写真がギョウギョウシイと泣いているヨシキリだが、今鳥たちの世界でも大きく生態系が乱れてきている。ヨシキリもこれは俺の巢だからと言って、特許出す訳にはいかないのか。



アジサイに誘われて

隣の県にある、通称アジサイ寺という所へ行ってきた。

カメラを片手に入るや否や、住職が「さあ靴を脱いで上がってください」というのだ。それも住職の隣のいちばん前で座布団まで敷いて頂き、座れというのだ。座布団も十枚くらいしかない。本当に良いのだろうか。ラッキーなことに十三日は虚空蔵菩薩の命日で、おまけに御開帳である。これから読経が始まり一人ひとり祈願をしてくれるというのだ。

私はお金も払ってないし、申し込みもしていないけど、本当に良いのだろうか―住職が上がれと言うのだからきっと良いに決まっている。私はこの様な事は初めてではない。時々神社仏閣を訪れるとラッキーな事に、無料で祈願をして頂く事がよくある。以前に勉強をしたところによると、この様に予期せぬ時に、神殿や仏前に座らせてもらう事はラッキーだと聞いた事がある。

この様な時には心を無にしなければならない。無にしようとすれば、するほど「携帯電話が鳴りやーしねえーだろうか」とか、「その人、まだお金を払っていませんね」とか、気になつてしょうがない。でも、住職が言ったのだから、信じている。私の携帯電話は一ヶ月に二、三回しか鳴らない。しかしこんな時に限って気になってくる。

読経が始まって、かれこれ四十分、住職が線香の煙がいぶくて、何度も何度も咳こんでいる。

私はすぐそばで聞いていたが、心の中では笑わないで我慢した。なにせタダで祈願してもらっ

ているのだから。

一時間近くかかり、やっと終わった。やれやれと思い、出ようとする、本堂の外で三十人くらいの人が虚空蔵菩薩に向かって立っている。

「あれえーこんなに沢山後ろにいたあー」おそらく命日である虚空蔵菩薩様の信者なのだろう。

それにしても私はお金を払わずに本当にいいのだろうか。虚空蔵菩薩様にしっかりと合掌だけはした。その時虚空蔵菩薩様からテレパシーを受け取った。(様な気がした)

「フォックス・・・お金は払わんでいいから・・・」(の様な気がした)

今になって思うけど、とても立派な虚空蔵菩薩様だった。



梅雨に思う

ジメジメとした毎日、ムンムンする蒸し暑さの中で、じっと耐えているのは、私だけであるうか、雲間から一瞬のチンダル現象、そして時折激しい雨、そんな雨にも負けずに、大きな声を出し梅雨に唄っている動物がいる。またその横では対照的に、雨露を浴びながらもひとり静かに黙々とツルを昇っていく動物もいる。まさに自然が織り成すアンバランスにバランスの取れたリズム、メロディーあんどハーモニー 私はこのうのは好きだねえー

どういうわけか私のページはコメントの最後の方になると、どうも本題から外れてしまう。今回は真面目に梅雨を考えようと垣根に目をやった。すると思わずあの有名な教授が唄った歌を思い出してしまった。

「痩せガエル雨よ降れよと泣き叫び、田畑に入り尿をする」この歌が出来てから不謹慎にも「田へしたもんだよカエルのショ○ベン」等と言われる様になったとか。時代の流れを感じさせますねえー

教授はカタツムリの歌も作っていた。

「カタツムリ片目瞑ってカタツムリ、両目をふさいで角隠し」どうもジューンブライドというのはここから来ているという噂もありますが、梅雨ならではの話ですね。

そんな風景を見ていたらカエルに話しかけたくなってきた。緑の葉っぱに長い手を出し、次

の葉っぱに渡ろうとしている。「どうしたのぉー、大丈夫」するとカエルは「うん、もう帰る」と言う。

そう簡単にはカエルは遊んでくれなかった。しかたなく、スローペースのカタツムリにも話しかけてみた。

「カタツムリ、おい、元気かい」「おい、カタツムリ」しかしカタツムリも私が問いかけているのに、

でんでんムシしている。

やはり私にはこの様な風情は合わないのだろうか・・・



スイカがなった、トマトがなった

完全無農薬、有機栽培を考えて百年、ちょっとオーバーですが、数年前から、完全無農薬を意識し田畑での栽培を始めています。

今年は、ナス、キュウリ、インゲン、トウモロコシ、カボチャ、メロン、……

もうたーくさん挑戦しています。そこで、今日の主役はスイカとトマトです。大きさがわかるように、マツチ棒と一緒に記念撮影です。

スイカは現在直径四・八センチ、八つ枝が出たら芽を摘み、形が出来てから四十五日目に、お口の中に入れる。今年の収穫目標は五十八個食べきるかなあー

トマトは現在大きいもので直径三十九センチ、あの独特な匂い、無農薬は良いねえー、しかし収穫目標三百個に対して、五十個が無農薬では難しいところがある。虫達にもサービスだ。早く大きくなーれ



ご臨終

「★家族を代表致しまして★」 「私からは何も申し上げる事はございません涙」 「写真を見ていただければ全てがわかります」 「どうしてこの様に子供達ばかりが・犯人が憎いです涙」

「あの子を返してください涙」 身長八・三センチ、体重二百二十グラム、享年五日本日、早朝フォックス畑において、生まれて間もないスイカ(名前なし)が、何者かによって、殺害されました。現場に残された、くちばしの跡と、目撃者の証言から複数のハシボソガラスが飛び立ったという情報があり、このガラスが何らかの事情を知るものとして、現在フォックス警察では、重要参考鳥として、このガラスの足取りを追うとともに、付近の聞き込みに当たっています。なお、現場周辺では沢山のスイカ達が住んでいて、恐怖を隠し切れず、いまでも警戒態勢が続いています。一日も早い犯人の検挙と、二次災害の起きない様に対策を急いでいます。



マッサージもう、お済ですか

出張や観光地へ行った際に必ず寄るのがマッサージ、まだ、私の身体は若いのにもう百回以上はお世話になっている。タイ古式マッサージ、足裏マッサージ、オイルマッサージ、いろいろとやってきた。ハービスプラザへも何回か行ったよ。

今ではマッサージが慣れた呼び名だが、以前は、按摩と呼んでいて県内の温泉宿でもフロントで「すいません。九時頃按摩お願いしまーす」

「ハイ、承知しました」で、簡単に申し込める。私はどちらかというと、男性の方が、強い力が続くのでいつもは男性を指名するのだが、その時は女性が来てしまった。

いくらやってもらっても、その女性の方はおもひが弱くて、それに話ばかりしていて全然楽にならない。悪いからと思いつながらに言うわけにも行かないで、がまんしていた。時間が来たので支払いを済ませ、帰ってもらった。すると五分も経たないうちに男性が私の部屋にやって来て「お済ですか」という。「ハイ、終わりました」と言うと「ばかに早かったですね」

「はい、いや、でも四十分お願いしましたから」どうやらこの男性が按摩の連れらしい。

「男がいるのだったらこの人が来れば良かったのにー」と思ったが、男はしつこく「もう、お済ですか」「ほんとにお済ですかあー」「ばかに早かったですねえー」とオームのように繰

り返し言っている。

男性が言うのを聞いていると、何となく私が悪いことをしているかのように思えてしまう。

そこへ先ほどマッサージをしてくれた女性が戻ってきた。女性は連れらしい男性に向かって「お客さんはマッサージだけでした」と言うのだ。男性は「あっそう」と言い、私に「お客さん○ンマ」と言いませんでした。「ええ、アンマ呼んでくれとフロントに言いましたけど」私はアンマを呼んだのに、何となくしっくりいかないマッサージになってしまった。

夏だ、祭りだ、サマージャンボだ

本日、百円ショップへ行ってきた。

プラスチックの大きなバケツと、ヨンチャンの食器、電池式虫除けお外でノーマツト等を買ってきた。

帰り際、駐車場へ歩いていく途中、宝くじ売り場があった。頭に浮かぶのはこんな時まとまったお金があれば、と心の中で叫んでいる自分がいる。

そんな宝くじ売り場を見ていると、屋台が輝いて見えていたのではないか。人間の持っているオーラと同じ様に、今回は売り場の屋根と外側全体が、オレンジ色に輝いているのだ。

以前にも東京へ出かけた時、渋谷の宝くじ売り場が、輝いて見えていた時があった。

輝きの色は違うものの、今回も状況がそれと同じ様だ。

そういえば数年前も近所のジーンズショップの傍らで売られている宝くじ売り場が、輝いていた事が一度あった。その時たしかジーンズ売り場では、ジャンボの一等賞が出たと言っていた。

これは買うしかない。今お金に困っているのだから神様も勘弁してくれるであろう。この様な能力は、こういう時の為にプレゼントしてくれたのだろう。この様な神の啓示に背く訳にはいかない。絶対に買うべきだ。かなりの迷いがあったが買うことにして並んでいた。

前のおじいさんが、換金のために時間がかかり、イライラしてきた。よく見ると、宝くじの下桁にエンピツで○を書いてしまったために、そのおじいさんが売り場の人に注意されていた。あまり時間がかかるので、もう一度売り場を見てみると、例の輝きはすでに消えていた。ショック。

私は心の中で、「うぬうーこのじい、疫病神が・・」なんて思わなかった。がっかりし、もう買うのを諦めようとしていた頃、自分の番がやってきた。「あのおージャンボは一枚では売らないのですか」

「当たるのは一枚でいいんですけど」すると「すいません十枚でないと・・・」結局十枚だけ買って来た。

当たったら、発表したほうがいいのだろうか。神様は「一人占めしなさい」と言っている様な気がするけど

オーディオに火がついた

アンプが火を噴きメラメラと燃え上がったと言う内容ではない。

ひと昔前なら、真空管でトランジスターでICでアンプも自作していたところだが、しばらくオーディオから遠のいていたのだが、他人の日記を覗いていると七十年代や八十年代だの音楽の話が入ってくる。ひよんなことから昔持っていたレコードを何とかCDにして又、以前のよう聞くことが出来ないものかと、わるさを始めて火が付いてしまった。

レコードを探しているうちに、友達に貸してしまったレコードを思い出したり、古いのでノイズが多かったり、新たな悩みがある反面、今のMP3のソフトが大活躍してくれている。

なんでも今度のソフトは例のiポットというものからも抽出やファイル登録も可能らしい。携帯の再生用フォーマットに対応していたり、わからない曲があると鼻歌を口ずさむだけで、曲を探してくれるというから、私が知らない間に音楽界も、サウンドクオリティーも目覚しく飛躍していたのだ。

ここ二週間の間に色々と録音をしてみた。音楽に限らず、ラジオドラマのCD化やもちろんDVDへもやってみた。やはり面白い、画像とは違った面白さもある。ヤマダ電機がオープンしたのでCD-Rを買い込み、すでに五十枚パックを四箱録音してしまった。パソコンにも申

し訳ないけど百二十六GBも場所を借りてしまった。どうも最近パソコンがぐずっていると思
ったら、このせいだったのかもしれない。

とても恥ずかしいけど、私が聴いている曲を紹介しよう。黛ジュンとか天地真理なんてのは
出てこない。もちろん東海林太郎や春日八郎、淡谷のり子も出ません。

あちらの曲でビーナスや夢のカリフォルニアとか二人の天使なんてのがお気に入りです。

それにラテン系のマンボの曲、アバやボンド、ドナ・サマー、カーペンターズもいいですねえ
↓

来週からはサザンオールスターズを聴きます。

ガンが治ったみたいだ

「♪♪♪ フォックスさん、フォックスさん、診察室へお入り下さい。」

「失礼します。先生お世話になります。」

「えーと前回の数値ですが、前々回よりも下がってしまって・・・」

「先生、今回はどうですか？」

「今回は前回からまた下がってしまって、ガンの心配は無くなりました。」

「せ、先生、有難うございます。」

「従って今まで飲んでいた薬はもう飲まなくて結構です。止めましょう。」

「先生、有難うございました。」

すると奥から何となく、ともさかりえと、安めぐみを足して√を解いた様な感じの女性看護師が・・・

「フォックスさん、はい、今日はこれで終わりです。」看護師さんはそう言うと、振り返り向こうへ行こうとしていた。振り向きざまのほんの百分の一秒程の時間に、ピカーツと合った女性看護師と私の目、目、目・・・

そして、その赤らめた頬を私は見逃さなかった。きっと何かあるに違いない。

実はここだけの話だが、私が編み出した独身術なるものがある。今回はこの独身術を使って看

護師さんの心の中を読んで見ることにした。

すると、「まあ、なんと素敵なフォックスさんでしょう。」

「いつそのこと、このままガンが治らずに、通院続ければいいのにー。」

これで看護師さんが顔を赤らめた原因が全て判った。このままでは看護師さんが病気になつてしまう。何とか助けねば・・・

「あのおーく、くす、薬頂けませんかあー」

「あつーはーい、すぐ先生に言います。」「先生、フォックスさんが・・・」

「フォックスさん、あなたの場合は、もう薬飲まなくてもいいですからあー」

「せ、先生ーい、ちょ 調子の悪い時もあるんですけどおー。」

「本当は飲まなくてもいいんですけど、とりあえず出しておきますので・・・」

「じゃあー次回予約しておきますかあー」

「はい、お願いします。」

本当にガンが治っちゃって、良かったのだろうか・・・他の場所にガンが出来る様な気がするー

正義感が強すぎて

犬の散歩をしていると友達のスイカの畑に二人の男女が入ろうとしている。

友達は何最近泥棒が多いので困っていた。見かけたらすぐ連絡をして欲しいとのことで私は彼の携帯の電話番号を記録したメモを預かっていた。さっそく電話したがなかなか出ない、何回コールしても出ない。

でんわ・・・仕方ないので犬には申し訳ないが急いで家に帰る事にした。

今日こそはスイカ泥棒の現場を押さえて、懲らしめてやろうと早足で家に着き、急いで車に乗り換え現場へ向かった。この様な世の中なので、どんな危険があるかわからない。

とりあえず包丁とスタンガンと改造拳銃を持ち出す等という事は考えなかったが、気を引き締めて向かって行った。

現場は我が家からほんの一分もかからないところである。その間にも何回も友達のところへ電話をしているが、どういう訳かいっこうに連絡が取れない。

現場へ付いた。まだ若い男女がビニール袋を持って、スイカの畑の中に座っている。

私が行ったのにまだ気がついていないらしい。とりあえず止めてあった車のナンバーを控え、すぐに逃げられない様に私の車を泥棒の車のすぐ前に止めて、さっそくその男女の処へ向かっ

た。

すると私の胸のポケットがブルブルと震えている。私に度胸があるのに、なんと度胸のないポケットなんだろうと思い、手を入れてみると度胸がないのは電話だった。よほど恐かったのだろう。ブルブル、ブルブルと震えていた。グッドタイミングで、友達にそのスイカ泥棒の話をしたのだ。

すると友達は、「たしか今頃、うちの妹夫婦がスイカの畑に行っているはず」と言うのだ。私はどうしたらいいのだ。

レコードで目も回る

忙しくなってきた。先日より、音楽に目覚めレコードからの取り込みが始まってしまい物置を捜しまわり、古いレコードとプレーヤーまで出してきた。

ポールモーリア、サイモンとガーファンクルやダニエル・リカーリなど懐かしい。七十年代に聞かずに今聞いても良い音楽は良い。もう、こうなったらレコードはM P 三でC Dに変換するしかない。

ゴムベルトやカートリッジ、レコード針まで手配してしまった。「レットイットビー」という訳には行かない。

先週先輩達に、私は今になって音楽に目覚めてしまったと語ったら、先輩は「その頃はフォークを聞いていて、陽水やかぐや姫、吉田拓郎、イルカ・・・」などとアーティストが「いた・・・」が、

他の先輩等はG S（ガソリンスタンドじゃない）やジャズを聴いていたという。私の場合は今になってベンチャーズからビートルズ、E・W & Fサザン、倅田來未まで急に熱が上がってきた。

「イエスタデイ」から気温も

上がり、まさに最高潮「ヘイジュー度」。「ゲットバック」はできない。

昔の曲は「サムシング」だが、詳しい人達が、私のトップページにいたので、その「男と女」に「ヘルプ」も出来る。「ふたりの天使」もきっと応援してくれているに違いない。まさに「オブラディ・オブラダ」だあー

レコードの中にラテン系も出てきた。ラテンも好きだなあー。ベンチャーズがNO一に対し、ラテンは「マンボがNO五」だ。サザンは九番目、ロックは五十四番目などと「フライング」している場合ではない。

けっこう大変な作業だ。「アイム・ソー・タイアード」いつ作業が終わるか分からない。「エンドレス」かな！

取り込み変換が終わり、ゆつくり楽しめる頃、私は七十年代にワープし、「イエスタデイ・ワンス・モア」しているかもしれない。それも補聴器を付けて・・・

水の事故

暑い日々が続き、プールで海で、痛ましい水の事故も増えている。

私の子供の頃は近所の川へ、よく水泳に行ったものだ。

ある時、友達と二人して、海水パンツとタオルを持って川へ出かけた。すると沢山の大人達がこちらへ向かって来た。見てみると我々が泳ごうとしていた川の堰で小さな子供が水の中に引っかかっていたのだ。警察官や消防団、人人人・・・

そして川から救出された子供の胸に医者が聴診器を当てている。どうやら水死して亡くなっていたらしい。

我々はパンツとタオルを隠していたが、その一部始終を見てしまった。ドキドキしてその日は水泳どころではなく、家に帰ってから水泳に行った先で見た事は、一切口には出さなかった。

そういえば数年前もこんな事があった。友達と二人して鳥の撮影のために川辺で望遠レンズを構えて撮影していると、隣の友達が双眼鏡を覗いて女性の死体があるというのだ。それも全裸だという。

私もすばやく双眼鏡を取り出しすぐに覗いてみた。すると本当に女性の全裸の死体が見えたのだ。

顔の部分は草むらに隠れて見えない。首から下が足まで全裸の状態で見えている。

すごいグラマーだったけど、そんなじっくり眺める余裕などなかった。

またか・・・私の脳裏にはもうすでにパトカーや警察官が沢山来て騒がしくなるのではないかと、不安を隠しきれなかった。

友達はやっと行って見てみようと言うのだ。おそろおそろ百メートル程先へ向かった。

友達は急ぎ足で行き、私が半分ほど行った時すでに女性の死体を見たらしく、笑いながらこちらへ戻ってきた。

「人形だよー」 人形・・・ 「なあってーんだあー」

本当かどうか私も確認をした。本当に人形だった。それも精巧に出来ていて大きさや、肌の色も人間そっくりだった。ほっとして私は撮影を続けたが、友達はそれ以来、何となく落ち着きがなく撮影が手に付かない様子だった。それに色々と不明な点多かった。誰が何の目的で捨てたのか、先週の日曜日にはなかったのに、またこの人形誰が何の目的で持っていたものなのか。

この事件以来一緒に行った友達は、何か考え事をしている様にも見えた。

あくる日友達から電話があった。

「あの人形・・・今日、会社休んで見に行つて来たけど、もう無かったよ」

「お前、また撮影に行ったのか？」 「いや、撮影じゃないよ。人形が気になつて行つてみたんだよ」

「なにー！ お前つて分かんない奴だなあー」

「もしかしたら、あの人形が欲しかったのか？」 どうも欲しかったらしい・・・

ゴルフ・コンペの前日

明日はいよいよコンペだ。

一緒に始めた連中はめっきり腕をあげ、優勝を期待している様だ。彼らは毎回、私よりはるかに良いスコアで回ってくる。私はいくら頑張っても上達出来ず九十ソコソコだ。

「そうだ、あいつらに内緒で練習をすればいいのか」と思い、にわか作りではあるが、練習場へと向かった。

いつもは混んでいる練習場だが、今日は練習している人がなぜか少ない。ロビーにはあんなに沢山いたのに、練習場では両脇にいるくらいで、ほとんどの人が練習していない。

私にとってみれば好都合だ。

さっそく真ん中へと向かったが、真ん中にはぼつんと一人いるだけだ。私はその人の後ろの十六番の打席で練習することにした。

前の十五番の人が派手な人で、赤いラップスボンなど穿いて練習している。それになんと、ドライバーを十三本も並べて、わざとらしく打っている。打つ度に頭をひねって、この様な派手な人は、どこにでもいるものだ。バックには金色で、はずかしくもなく名前まで書いてある。

しかしよく見ると、このワザトラマン満更でもない、けっこう、うまい。十発中、九発くら

いが真っ直ぐに真ん中へ飛んで行き、すごい・・・

飛距離も出て、正面の二百五十ヤードあるネットにストレートに当てていた。

それに比べて下手な私は、空振りをするわ、チョロはするわ、飛ばないわ、そんな私が打っている、何となく、みんなが私のほうを見ている。うまいからなのか、いや下手だから見ているのか、何ともいえない

気のせいかなかった人も、ザワザワと、こちらに向かって来ている。

すると場内放送が

「ご来場の皆様にご案内申し上げます。」

「ただ今より、十五番打席にて〇〇プロによる個人レッスンが始まります」

「お申し込みなされている方は、十五番打席にてお待ちください。」

十五番打席はワザトラマンじゃん。という事は、彼はプロってことか。どうりで皆がこっちを見ていると思ったよ。うわぁー恥かしーい、どうせ私はアマチュアじゃん。

私はこれがきっかけで、ゴルフをやめて、プロになるのをあきらめました。

夏の日の嫌な思い出（水泳）

それは今から三十年ほど前、いやほんの数年前、私がまだ二十歳代の時だった。初めての会社の出張で能登半島は金沢へ行った時の事、一緒に仕事をしていた現地の人が今度の休みに日本海へ水泳に連れて行ってくれるというのだ。

「海は広くてキレイで最高ですよー」

「ところでフォックス君は泳げますうー」「泳げますとも・・・」

「こう見えても海なし群馬のカップと呼ばれてましてんねん」

こんなことを相手の人に言っただけだったのか、悪かったのか考えてしまった。

楽しみの様で楽しみでない。それは何かと訊ねたら怖い怖い怖い。

怖いといっても水の中でパンツが脱げてしまったという事ではありませんからあー

とうとうその当日が来てしまった。一応は泳げると言ってしまった手前、ウォーミングアップはすごい、まんざらでもない。カップそのものだ。一緒に行った仕事先の人は、あまりウォーミングアップしないのにすでに沖に出て泳いでいるのだ。

ちよっと気を許していると

「フォックスクーン、フォックスクーン、こっちいー、こっちいー」
見ると七十〜八十メートルの距離はあろうかと思える程、遠い岩の上にいるのだ。

ここからが大変だった。泳げども泳げども、その岩にたどり着かないのだ。今こうして冷静に考えると、あの時岩が海の方に動いていたという事が分かるのだが、そんな速さで地殻が変動しているとは、思わなかった。人生三十年生きていてあの時ほど一生懸命に水泳やった記憶はなかった。

今度から水泳は、ばっちり泳げると、人に言う事は慎むことにした。やはり犬カキとか潜水は海には通用しないという事が良く分かった。アップアップだったが、庭のビニールのプールなら絶対に自信がある。

芸術の秋

長い梅雨、そして短い夏も過ぎ、やがて本格的な秋の到来となる。

ヨット、乗馬、アーチェリー、スキューバダイビング、ハンググライダー、パラグライダー
昨日の事のように過ぎ去って行く。

今年のあなたは、なんの秋？

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、それとも「泥棒の秋」……

我が家の近くに金〇という山がある。その〇山では以前に天皇家に献上していたというマツタケが取れたそう。ここ十数年取れなくなったと噂されているが、実はここだけの話だが、実際に取れるのだ。市民が殺到するために伏せてあるのだが……

ここ数年、マツタケをこっそり取って行く人達を、私は何度も目撃して来た。私自身はそんなことは決してしなかった。

秋と言えば、やはり芸術の秋だねー……先日、生協で見かけた一コマだが、そこで一句「マツタケを　じっと見ている　女（ひと）がいた」

よほど欲しかったのでしょうか……私は特売の百五十円のシイタケを買って帰りましたけど。

数日前に我が家の敷地に彼岸花らしきものを発見した。不思議と彼岸に入ったからという様に咲き始めた。ヨンちゃんに踏まれては、と思いきっそく撮影してみた。

そういえば今日散歩中に沢山の彼岸花が道端に咲いていた。ヨンちゃん達は、目もくれずに散歩していたが、これが、おはぎだったらきつと離れないでそばにいただろう。

お彼岸の中目、おはぎもいいもんですねー ああ、そうそう、みなさんはくれぐれも情事は慎んで下さい。



空耳

空耳、それは昔よく耳にした言葉です。

「いま、何か聞こえたあー！」

「いや、何も聞こえないよ、きつとそれ、空耳だよ！」

何かの音や振動が、人の声に聞こえたり、した事ありませんか？。

実はその空耳の陰には大きな病気が、潜んでいるのです。ウソです。

この夏から音楽に目覚め、勉強していると何回となく空耳と遭遇します。

♪「田代、田代、田代ちゃんと亡命しろ」と聞こえるのも空耳らしい。

実はいま、サザンオールスターズの歌の歌詞を、覚えているのだけど、実際の歌詞を覚えるよりも、空耳で覚えると記憶力に加速が付くのです。

最近、家の片隅でリズムよく、リリリーン リリリーンと聞こえるので携帯の着信音かと思いい、じつと聴いているとコオロギなんですねえー彼も空耳に協力しているよ。

空耳をカラミミって読まないで下さい。何も聞こえなくなりますからあー

秋ナスも嫁に食わせて

タイトルと全然内容が違いますが、新しい内閣が発足し、閣僚も決まった様です。

先日ニュースでこんな事があった。法務省が死刑の執行について、死刑執行命令書に署名しないという事があったらしい。心の問題、宗教観、哲学の問題と言っているが、分かるような気がする。

自分のサイン一つで死刑の執行が左右されるのなら、そりゃあー出来ればサインしたくはないだろう。法務省では誰しも、自分の任期中に死刑の人が出なければ良いと思っているらしい。

以前に私はこんなことを読んだ事がある。

裁判官が判決を言い渡す時に、懲役という字が読めなくて、「被告を死刑に処する」と言っただそう。

その後、被告は不幸にも、死刑に処せられ葬られたという。まあ、漫画本の一コマだったけど当時はかなりインパクトを受けた。

閣僚の皆さん。ぜひ良い日本を作って下さい。期待します。

そうそう、秋ナスの種には流産しやすい、という物質が含まれていると、そのむかし語源となる本を読んだ事があります。妊娠している人は、秋ナスの種だけは食べないほうがよいかも・・・

連鎖反応

また、電気製品の故障が始まってしまった。

ポットのお湯が沸かない。保温状態で飲むのにはぬるい。パソコンもグズリだして来た。大切な時にフリーズしてしまう。ウォシュレットが故障してしまった。ウンが悪いなあー

飛行機事故も、一度発生すると、次々とニュースが入ってくる事がある。数日前から雨や風が強くて、海での船の事故があちこちで起きていた。

つい最近の連鎖反応・・・

そのウォシュレットを購入しようとヤ○ダ電機へ向かった。すると向こうから来る車のドアに何かがヒラヒラしている。よく見ると運転手している女性のスカートが挟まっている。しばらく行くと今度はやはりシートベルトを挟んで走っている人がいる。

そして私が買い物を済ませ、ヤ○ダ電機の駐車場から出ようとすると親切なおじさんが私の車の下を指差している。どうしたのか見てみると大きな木の枝が車のシャーシーに引っかかり走っていたのだ。

とても恥ずかしい思いをした。人のことを笑っている場合ではなかった。

そして友達が写真のコンテストに入賞したという。同じ日に友人のお父さんもコンテストに入賞したという。実は私も今月に入り写真のコンテストに応募したのがあるのだ。発表はこれからだ。

連鎖反応の法則から行くと、近い将来、私が笑っている姿が思い浮かぶ。

連鎖反応が錬詐犯悩にならなければいいのだが・・・
進化

涼しくなったとはいえ、まだ、日差しの強い日がある。

もうそろそろ蚊も姿を引っ返めてくれればいいのだが時々寝ていて、夜中に空襲警報のごとく耳元が騒がしくなる。コレがまた、眠れない原因となる。その後夜中に捕り物が行なわれ、もちろんあの時の電気ショックラケットも登場して来る。

「進化」というのを辞書で引くと「進歩して良いものになる」と書いてある。蚊も進化しているのだろうか、最近の蚊は逃げ足というか、飛んで逃げるのがすごく早い。昔は簡単に捕まえられるというイメージがあるのだが。

進化の反対語は「退化」なのだが、それとも私が退化しているのだろうか。そういえば最近のヘビやトカゲの逃げ足も速い。ゴキブリは別として、やはり昔は簡単に捕まえる事が出来たのだが。

別に今ヘビを捕まえないとは思わないけど、その様な目で周りを見ると、進化している物が他にもあるに違いない。やはり進化していると思った方が良いのか、真価が問われる。

予想外

昨日、予想外というタイトルで、新聞にソ○トバンクの広告が入っていた。

○フトバンクと言っても銀行ではありません。番号ボーダビリティーのサービスが始まったのをきっかけに、

携帯電話の通話料とメール代を0円にするというものらしい。さらに広告には基本料金を七十%引きのサービスも提供するというもの。

私はこの会社の携帯電話を持っているが、以前は○ーダフォンと呼んでいたが、ある日突然「こちらはソフ○バンクです。おかけになった電話は電波の届かないところにいるか、電源が切られています」と言うメッセージが流れて来たのです。正直言ってこのメッセージはもう聞き飽きました。

前から家族割引で通話料金が0円だったので使っていたのですが、平均すると七回かけて一回繋がる程度で、やっと繋がったかと思うとすぐに切れてしまったり、音声の不具合等でまともな会話も出来ないのです。外部アンテナを付けたり、時間帯を変えたりして苦労して使っていました。

あまりに不具合が続くので、何回となくボー○フォンに不具合を連絡したり、ソ○トバンク

に文句を言ったりしましたが一向に良くなりませんでした。

そんな最中に今回のシステムとなったのです。こんなことでこの会社はやっていけるのかと思ひ電話をかけたら、なんと・・・昨日からは一発で繋がるのです。

繋がってからの音声も良いし、通常、会話中はアンテナ表示が一本しかないのに、それも外部アンテナ無しで三本もあるのです。ソフトバンクの番号ボーダビリティサービスって本当にすごいですね。

ボー〇フォンがビリになるサービスかと思ったら、予想外でした。

木枯らしの季節

私は風が大嫌い、どうやら潜在的に嫌いらしい。

我が地方では上州独特の「空っ風」という強い風がこの季節吹きます。強い風が吹くたびに家が飛ばされないかと心配で寝る事もできません。天気予報で西高東低と聞くとビクッとします。「せいこう」という響きは好きなのだが、天気図で等圧線を見ると「とうてい」理解できません。北海道佐呂間町の竜巻も大変だったことでしょう。

童話、北風と太陽や三匹の子豚の話でも風で良いイメージがありません。

また強い風の日に火事でも起きるとたちまち大火事になってしまう。学生時代自転車で通学し、行きは良い良いで帰りは西風で大変だった。その校舎の屋上で強風に向いた時、あまりの強さに窒息しそうになった。恐い代名詞に、「地震、カミナリ、火事、親父」とあって、風がない。

よく調べてみると親父（おやじ）は「おおやまじ」が訛ったもの、「やまじ」とは強風の事で、やはり風は怖いものであると言える。

すごく風の強い日に公園で、丸くて黒いものが勢いよくピュー　コロコロと芝生を転がっていた。

ちようどボールを追いかけている子供の様に、後から丸坊主のおじさんがそれを慌てて追いかけて来た。私には何をやっているのかすぐ分かった。あまりに気の毒で声がかけられなかった。仕方なく陰で笑ってあげた。

この季節、その強風に立ち向かって進もうとしている自分がここにいる。しかし、うつむきかげんで首を曲げ、なぜか斜めに進んでいる。

胃カメラを味わう

今日胃カメラを飲んできた。紅葉の撮影もいいけど胃の中をたまには撮って見るのもいいかもしれない。毎年この時期になると飲むのだが、最近ファイバースコープも細くなり、飲みやすくなってきた。さすがに鼻に入れるタイプではなかったけど、それでもかなり細くなりスムーズに入るようになった。

ガンも直り順調とまでは行かないけど、こうして健康を保っている。医者が胃はOKだが、飲みすぎは「胃肝臓」等とシヤレていた。私もすかさず、先生それより今は心肺機能が「心配で」と返してやった。歳をとると、色々と不具合が出てくるものだ。今では疲れてしまい一ラウンドに四十分もかかってしまう。

今回もしかしたら悪いところがあったのかもしれないけど、担当の安めぐみ系の看護婦さんだったので直ってしまったのかも・・・でもその後、薬局へ行き担当者の顔を見たとたん、頭痛と目まいがした。

いよいよ来週は人間ドックだ。ホットドックではないから食べられない。でもドックの検査後はラーメンやカレーライスの食事付きだ。バリウムも美味しくなっているといいのだけど。検査グルメも大変だ。

最近では何となく健康管理よりも検査管理をしている自分がここにいる。

紅葉がまだ私を呼んでいる

誕生日は過ぎた。胃カメラは飲んだ、人間ドックは済んだ。あとは恐い結果が残るだけだ。とはいっても十二月はすぐそこ。

気の早い我が家の犬たちはもう小クリスマスパーティーをやっている。クリスマスパーティーといってもたいした事ではない。去年のことだが、たとえば犬と言えども寒かろうと思い、綿のたくさん入った布団を犬小屋に入れてやった。するとあくる日、布団の中の高級綿を全部出してしまった。それはまるでホワイトクリスマスを思い出させる出来事だった。

今年はその二の舞を踏まいと思い、今度はダンボールでしっかりと止めて布団を入れてやった。すると

今朝やはりダンボールで小×(バス)マスパーティーをやってしまった。しかし私の気分はまだ十一月・・・

今年紅葉が一週間から十日も遅れていて今が最盛期去年と同じ場所へ撮影に行くとまだまだ早かった。私のカメラやレンズもシーズンオフになると入院が予定されている。

しかし紅葉が遅れているためにもう少し働いてもらう予定だ。デジタルカメラはフィルムと違い、曇った日ほど良い作品が期待出来る。初期の紅葉はいまいちだったが、遅くなるに連れなぜか味を出している。

またモミジやイチョウは見てくれんとばかりに光り輝いているわかったわかった長いお付き合いだ。チーズして はい、パチリ・・・

来月、箕面で撮影しているフォックスがいるかもしれない。いや、京都、広島か鳥取か、九州か、NYかNZか、忙しくなりそうだ。人間ドックの結果次第では犬達とクリスマスパーティーかも・・・



師走になって

先日晩秋と題して、山間の神社へ撮影に行つて来た。

実る柿に群がるカケスたち、射光に映える神社の鳥居、ふと見ると神社の前に一台の自転車が止めてある。これでは自転車が悪魔になり撮影にならない。仕方なく車から降りる。

すると何処からともなく聞こえてくる笛の音・・・師走とはいえ日差しもよく暖かい。

又山々にこだまする笛の音、それはオカリナを吹いている様な何ともきれいな音を出している。

神社に笛の音、風流だねえーまるで平安時代にタイムトリップしたかの様だ。耳を澄ませてみると童謡が聞こえてくる。

♪秋の夕日に照る山モミジ・・・夕焼け小焼けの赤とんぼ・・・♪

♪小さい秋、小さい秋、小さい秋見つけたー・・・♪

境内に目をやると一人の老人が神社の縁側で笛を吹いている。そうか、きっと自転車はこの人のものだ。なかなか味な真似をするこのジジイ、でも、初心者なのか楽譜を見ている。

時々♪ドレミファシラナイド♪ 笛は下手だが、何となく情緒がある。

私はこのジジイに話しかけようと近づいた。しかし下手な笛はいつまでたっても止まらなかった。何度もチャンス伺い話しかけようとしたが、私が近づくと横目で私のほうを見ていて♪ドレミデゴマカスト♪と始まってしまう。

結局午前中の撮影は、この爺さんの自転車が邪魔をされていて撮影にはならなかった。

下手な笛ではあったが神社で和やかな気持ちにさせられた。
午後になって今度は気分を変え違う神社へと撮影に行くことにした。日差しが午前中とは違い、
イチヨウの葉も黄色く輝いている。

さっそく車から降りて神社で撮影しようとしたら、また、何処からともなく聞こえる下手な
笛の音。

今度は演歌を吹いている。

♪帰って来いよー♪って吹いたかどうか分からないが、境内に目をやると・・・
やばい・・・また自転車が止めてある・・・何ともいえない師走の日だった。



年の初めに

また新しい年がやってきました。例によって本年度も年頭に向かい勝手ながらマイミク、グ
リ友、アメンバー、ピグ友、友達、その他SNS関係者を霊視させて頂きました。そして、本
日までに滞りなく友達のお払いと、ご祈願がフォックス神社にて無事にとり行われました事を
ご報告させて頂きます。

去年から今年にかけ、引き続き運氣を持ち込んでいる人が沢山います。少しでも運氣が上向
きになると良いですね。その反面、今年は積極的に歩もうとしている人も数人いる様です。

波乱万丈の年に突入した人や体に氣をつけて頂きたい人もいます。中には死にそうな人もい
ますが、大丈夫です。よくご祈願しておきました。そんな中でも結婚する幸せな人もいますので
すね。おめでとうございます。

友達も通りすがりの人も、とにかく今年もよろしくお願い致します。



夢のシナリオ

私の場合、生活が苦しくなると夢でアドバイスされる。

まさに夕べ見た夢はその脚本を売り生活費にしない、というものだった。いかに今の生活が切羽詰って苦しい状況なのか反映している。それはまるでドッキリ番組の演出に使えるリアルなものである。

舞台はしばらくぶりに会う同窓会の話である。しかしまだ未発表で日の目を見ないものであるから後日マスコミを通して流すことにしよう。

やはり以前に夢で見せられたものをマスコミ関係者に話したところ同じ内容で番組が作られていた。それも有名なお笑いタレントがテレビでお笑いのネタとしても話していたのだ。

私と同じ夢を見たとしても言うのか・・・いいえパクられたのだ。

今回のものは発表するわけには行かないので、前回夢で見たドッキリの内容をちよつとだけ・・・

ある場所でひき逃げ死亡交通事故が発生し犯人はまだ捕まっていない。担当警察官が一年後の命日に現場で張っていると、一人の男が花束を持って、横断歩道の向かいにある総合病院へ患者を見舞いに行くところ信号待ちで立ち止まった。

なかなか信号が青にならないのでうつむいていると、陰で張っていた警察官がひき逃げの犯人だと思い、一人の男が誤認逮捕されてしまうというもの。私の夢は完成度が高い（鼻高）。

診療の順番は多少前後する

昨日、近所のペインクリニックへ行ってきた。

バカは風邪を引かないというが、風邪ではなく首が痛くて回らない。特に借金はないが、最近の寒さで血行が悪いのかもしれない。けっこう痛い。

九時前にクリニックに着いたと言うのに、駐車場がいっぱいである。仕方なく駐車場のど真ん中の空きスペースへ車を止めて中に入った。患者さんを数えたらすでに二十人もいる。私が二十一番目。

もちろん時間のかかるのは覚悟していた。九時になり、いよいよ診察が始まった。すると間もなく、フォックスさんどうぞ・・・何と私が呼ばれたのは三番目早く呼ばれたので周りの人に少し申し訳なく思ったが、呼ばれてしまったからには仕方ない。治療室へ入って行った。

中では年老いた男性が、看護師さんに文句を言っていた。「前回も早く来たのに、呼ばれたのが遅かった」「順番が違うんじゃないか」看護師さんは「そんなこと無いですよ」と言っていたが、私も今朝は早く呼ばれたので戸惑ってしまった。

そこへ医者が出て来てその老人に「○○さんそんなこと言うのなら、他の医者へ行ってもいいから」

「そういう人が来ては困るから」と言われていた。

私は帰りがけに受付のお知らせを読んで見た。するとインフルエンザの予防接種の連絡と、携帯電話使用禁止、それ以外に「診療内容により順番が多少前後する」と書いてあったのを見た。

私の場合は診療内容が「多」の方で違ったのだ。これにより納得できた。でもあの老人は、このクリニックへは、もう二度と来ないと言っていた。しかし私もこの若さで首が痛くなるなんて、信じられない。

四十代になったらどうなることやら・・・

そらのある風景

青い空、白い雲

綺麗なのは女性や花だけじゃない。空も風景の一部だ。

私はこの世界に一つしかない風景を見逃さなかった。このアンバランスなバランス、ミスマツチングのマツチング、いいねえーこういうのが好きなんだなあー言っておくが、カメラマンはまだボケてないよ。

夕陽ヶ丘の人

この人とってもキザなんだよねえー黄昏時に車から降りてバッグ背負って、ただ歩いているだけ、私はこの時、この丘に車が止まり、人が出て歩き出したら、と思っていたらちょうどその様な光景を見つけた。

パチリ、今度はこの丘、私が歩きたいなあー絵になるだろうなあー

早朝のバルーン

朝六時半、今日は眠いからもう少し寝てようかな・・・

すると何処からともなく聞こえてくる低い音、ボボボボーボーとうとう戦争が始まったかと思いい、庭に出てみると、なんとバルーンが飛んでいる。思わず記念撮影してしまったよ。

我が家のすぐ前だけど、誰ですか田舎だと言っているのは・



白へびの夢

先日三日の夜明け頃、大きな白へびの夢を見た。

例によって私の場合、へびの夢を見ると期待するものがある。そのため確実になるまで、今までに誰にも言わずに黙っていたことがある。その日、午前中、郵便屋さんが二通の郵便物を届けてくれた。

見るとどちらもフォトコンテストの入賞通知だった。今年に入って一月に二件と今回で合計四件の入賞が決まった。

思えば昨年の秋に友達のお父さんがフォトコンテストに入賞したとの事で、私に火が点いてしまった。でもこれは焼身ではない。五件の応募をし、一件は逃がしたものの幸いにも四件の入賞となった。

それも白へびの夢を見た日と一致した出来事だった。もちろん、どのコンテストも賞金や賞品はゲットが約束された。

・・・・・・◇◇☆・賞金の部分に関しては中略・☆◇◇・・・・・・

賞品はカメラやポスター作成等など・・・・

最近思うのだけど、そのある風景フォトコンテストの発表前日あたりにまた、へびの夢を見そうな気がする。いや、見たいような気がする。いや、見えてくれないかなあー 予想と希望という字がなんとなく、同じ様に見えている今日この頃・・・・

読めない漢字がある

私はめったに漫画を読まない。だから漢字が読めないのかもしれない。

めったに読まないけど、昔ちよっとだけ読んだ事もある。その漫画の中での、ほんの一コマだけ、

先日ブログに書いた様にある裁判のところで裁判長が「懲役」という字が読めなくて、刑を下す時に、しかたなく「被告人を死刑に処する」と言った一コマだ。軽犯罪で捕まった被告人はこれでは、たまったものではない。ジョークはこの辺にして、そこで私が最近まで間違ってた覚えていた漢字を紹介しよう。

漢字 間違った読み方

中村主水 (なかむらしゅすい)

出雲 (でぐも)

団塊の世代 (だんこんのせだい)

割烹 (わりほう)

月極駐車場 (げつきよくちゅうしゃじょう)

老舗 (ろうほ)

浅草寺 (あさくさでら)

礎

(そ)

雉子

(きじこ)

海老

(うみろう)

黄泉の国

(おうせんのくに)

珈琲

(かひ)

患う

(かんう)

四面楚歌

(よめんそか)

猪突猛進

(きよとつもうしん)

等など、まだまだ沢山あるかもしれない。

皆さんも最近まで読めなかったという漢字がありますか。



不審車両

先日、我が家の近所で工事現場からパワーショベルが盗まれた。

その夜、あまり我が家の番犬が鳴くので何事かと外を見ると、大きなトラックと見張りの車、そして男性が四人して何かをしている。私が暗視スコップで覗いてみたら、四人の男がパワーショベルを持ち出そうとしているのだ。あまり良い光景ではないので百十番して警察の人に来てもらう事にした。

しかし彼らは工事現場に段差があるため、パトカーが到着する前にパワーショベルを持っていくのを諦めたらしく退散してしまった。

明くる日、我が家にパトカーがやって来た。警察によると我が家より一キロ離れた処で、やはり昨晩パワーショベルが盗まれたという。世間ではパワーショベルでATMを壊し現金を盗む事件が後を絶たない。

彼らは一晩にして私の給料の一日分のお金を一瞬で奪ってしまう。それ以来、我が家の付近を走る車が、不審車両に見えてしかたない。

つい最近だが、夕方不審な車が我が家の周りを何度も何度も走っている。様子を伺っていると、小さなパワーショベルが置いてある畑へ来ると、スピードが落ちて何度もショベルの様子

を伺っている不審車である。そこで私はピンと来た。今晚あたりにまた、パワーショベルの盗難が実行されるに違いない。前回よりも泥棒にとつては条件が整い過ぎている。道の端で、エンジンさえかかれば、持ち出すのに一分とからない所だ。私の心の正義感がモッコリと持ち上がってきた。今夜がヤマだ。

いくら暖冬とはいえ、夜の見張りで十二時を過ぎると毛布に包まっけていても物置の片隅では寒くて仕方ない。我が家の番犬がウワワンと吠える度にショベルの止めてある畑に目がいく。一時、二時、丑三つ時を過ぎ四時になってしまった。ひじょうに寒くて、そのうえ眠くて仕方ない。しかしこの時間帯の犯行が一番多いという。とうとう朝になってしまった。

現行犯で捕まえたかったが・・・そう、犯人は現れなかったのだ。眠い目をこすっていると、昨日の不審車両がまた現れた。中から一人の人が現れ、パワーショベルに乗って畑で作業を始めた。

よく見ると近所の人で、畑の持ち主だ。あれは不審車両ではなかったのか？
ああ、寝不足の夕べを返して欲しい・・・

ラジコンヘリが泳いでいる

結論から言いましょ。ラジコンのヘリコプターを落としてしまいました。

近い将来、私の右腕となって、空から写真を撮ってくれるはずのヘリコプターが先日、真っ逆さまに川の中へ落ちてしまいました。

いつもは自分の敷地内で飛ばしていたのですが、その日は利根川の川原へ行き広いところで飛ばすことにしたのです。全ての準備が整い、川原の飛行場のヘリポートから飛ばし始めたのです。

飛ばし始めて十五秒位したら急にコントロールを失い、遙か彼方へ・・・妨害電波によるものなのか、現在調査委員会で調査中。

暇な時はパソコン上でのシミュレーションでは、水平、垂直、回転などあらゆるアクロバットが出来たのに、いざ飛ばしてみたら百メートルも離れた川の中へボツチャン・・・夏目漱石ではあるまいし

いつそのこと空水両用におけば良かったのか、でも無人であったのがまだ、救われている。人が乗っていたら大きな問題になっていたでしょう。そんな小さな人、何処にいる。

受信機は壊れ、アンプも壊れ、これをきっかけに、また身近な製品が壊れ始まってきた。
このヘリコプターに搭載予定のカメラも壊れてしまった。時計も壊れて修理に出してしまった。
いつになることでしょう。航空写真の披露できる時は・・・



春の訪れ

暖冬だと言われていた冬から春へと季節が移り変わる。

ポカポカと暖かくネコヤナギも一皮むけ春の服に着替え、ウグイスも喉を鍛え、花粉症もニョキニョキかゆさを増す今日この頃、しかし気のせいかここへ来て少し気温が低く感じられ、冬に戻ってしまったのか、
桜情報も足踏みか・・・

サラリーマン時代は桜の季節になると、シートを持って花見の場所取りをしたものだ。早くから場所取りが出来ないため、なかなか良い場所が残っていない。やっとの思いで、一区間の場所はゲットしたもの

トイレの傍ではたまらない。宴会中は人の出入りとトイレの臭さで鼻毛が曲がったものだった。

また、この寒さで思い出すのが、花冷えである。いくら桜のシーズンとはいえ、夜もふけて来ると冷え込んでくるものだ。宴会での酒の勢いで裸踊りだけは控えたほうが良い。

風邪を引くのは勿論だが、何年経ってもメンバーから裸踊りの話が帰ってくるものだ。いやいや、私の事ではありません。

「暑さ寒さも彼岸まで・・・」本格的な春の訪れはもう少し先かな！どうやら春になっているのは私の頭の中だけの様だ。皆さんも「彼岸には情事を慎め」の戒めを肝に命じ、やがてやって来る

本当の春を待ち続けてみましょう。



ハンドルネーム

今から遡る事三年、私のハンドルネームはフォックスではなかった。

某SNSでスタートしたのがホックスだった。当時、数々の降りかかる災難から逃れるために、やむなく改名をした。また、改名式には沢山の方々から、お祝いや、祝電メールなどを頂き色々とお世話になりました。この場を持ってお礼申し上げます。

当時加入していたSNSも今では足跡も少なく寂しくなっていた。最近になり沢山の人達が、私と同じ様に古いSNSを捨てミクシィ、グリー、アメーバへと加入しているという。同じハンドルネームなら良いが、

ネームを変えてしまった人もいるらしい。確か「きよんさん」だと思い検索してみた。するとミクシィには「きよんさん」の名前に関係する人達が五千七百六名もいるのだ。これで人探しなどしては日が暮れてしまう。

同じネームで足跡があり、アメンバーや、ぐり友、さんと思い混乱した事がある。

「さつきさん」に関する人も千百三十五名もいる。まさかフォックスのネームはいないだろうと思い、検索してみたら八十八名もいるのだ。これにはびっくりした。

ハンドルネームも占いによると、良し悪しがあるらしい。ハンドルネームと誕生日を入れて占うと恋愛、健康、成功、金運を鑑定してくれる。私もさっそく占ってみた。

「フォックス、一九七八年、十一月二十六日生まれ」なんと大吉だった。

やってみるなら、<http://www.hname.net/> 改名して良かった。

言っておくが、彼岸に改名しないほうが良い様だ。戒名にならない程度の忠告だけ。

方言

私は今まで、医者以外にサラリーマンも経験した事があります。

そのサラリーマン時代に同じ職場の先輩の人で「ツッペル姉ちゃん」と呼ばれていた人がいました。なぜ「ツッペル」なんだろうと周りの人に聞いたら、ある時にこの先輩が道で滑って川へ落ちてしまったといい、その時に出た言葉が「ツッペった」と言ったそうです。これは我が地方の方言なのです。その時以来、ツッペル姉ちゃんのお愛称が付けられたと言います。

ツッペルとは滑って掘りに落ちたり、深みにはまったりする事を言い、お母さんが子供の手を引いて転ばぬ様に「ツッペルから気をつけて」と言っていたのを私も聞いた記憶があります。我が家には地元の上州の方言の本が二冊あり、読んで見るととても興味深く面白いものが沢山あります。代表的なのが「そうでしょう、そうだろう」を表す「だんべえー」だと思います。

以前、嘘について調べてみたら地元のだけでも沢山ありました。

「うそ、うそっぺ、うそっこ、うそっこと、うそっばち、うそっけ、」

「そら、そらっぺ、そらっこと、でそらっぺ、まんから」他にも

「がまー、だらか、なーむん、みなーむん、ゆくしー」等とも言われる様です。

先日、宮崎県知事の言葉の中に、宮崎を「どげんか せんと いかん」と言っていました、地元の方言はその土地で心和むものがある様です。我が家の標ズン語から、フォックスを、どげんか せんと いかん。まんからに、なんなきやよかんべえー、そだんべえー

菊池君

全日本空手道剛柔会・・・二十五歳の菊池君は私の道場へ入門した。

真冬の寒い日に靴下も靴も履かないで、はだしでバイクに乗り鍛錬だとばかりに稽古に通った。その、こ汚い身なりの割りにはしつかりした口調で、「よろしくお願いします」と言ってきた。彼には大きな夢があり、その鋭い眼光の裏には信念が満ち溢れやる気を沸き立たせていた。どんなに彼が薄汚いハイエナみたいな身なりでも、私は決して彼をバカにしなかった。

話を聞くと社会人として二年間働き、貯金をしたと言う。その貯金でバイクに乗り、アメリカ全土を旅すると言うのだ。そこで、見知らぬ土地で危険な目に遭わぬ様、身体を鍛えて空手を習って行きたいと言って来たのだ。そんな目標があつてか、彼は一度も空手の練習を休む事がなかった。

そんな彼に感動し、一年間組み手を主とした空手の練習が始まった。

出発する一ヶ月ほど前の朝方、地元の新聞を見ると「菊池君、バイクでアメリカへ旅立つ」と出ているではないか。道場へ戻ると稽古している仲間達が菊池君の事を、話題にしている。

「おめえアメリカへ行くんか」「頑張つて来いよ」・・・ところが体はすでにボロボロで傷だら

け、やっとバイクに乗っていて、出発まで、あと一ヶ月もあるというのに突然空手を辞めてしまった。

そして、とうとうその日が来て、アメリカへと旅立って行った。はず……

あれから十五年くらい経ったが菊池君からは、今だ何の音沙汰もない。菊池君どうしているのか、SNSやっていたら声をかけて欲しい。思えば、私と組み手をして、骨にヒビが入ったりアザや傷を作ったり

歯を折ったり、投げられたり、振り回わしたり、突いたり、蹴られたり、ブチノメされたり、あれは菊池君に一日も早く強くなって欲しいと思いやっただけなんだ。菊池君が憎らしくてや

った訳じゃないんだ。

決して練習代とか、モルモットやオモチャにした訳ではない。

稽古帰りにバイクでドブに落ちたのも、全ては菊池君自身の運転が下手だったからだ。

空手の練習とは全く何の関係もなかったのだよ。なぜ辞めてしまったのか、生きているのか近況が知りたい。菊池。

お前の練習過程はまだ終わっていない。帰って来るのだ。そして私の必殺技、「二段後ろ回し蹴り」と最近開発した「時間差上中下段、後ろ蹴りからの延髄バックドロップ」そして「目

つぶしからの脳天ヒジ討ち」の過程もまだ、残っている。今からでも遅くない、すぐ戻って来い、菊池。分かったか、菊池。

噂によると、何の目的があつてか、どこかでこっそり秘密で、すごい達人先生について空手を習って強くなっているって、聞くけど、今さら何で・・・もう、必要ないだろう・・・それは嘘だろう・・・菊池君。

自然園

自然園へ行って写真を撮って来た。楽しかった。
しばらくぶりだったので、道を間違った。遠かった。桜には遅かったが新緑やツツジにはまだ早かった。

ヤシオツツジが満開だった。キレイだった。雪解け水も冷たかった。空気がきれいだった。
現地で食べたソーセイジがうまかった。一日券を買った。また行きたくなった。



真夜中の怪奇音

それは三ヶ月前からの事である。

我が家の家族が夜中の二時半頃に変な音がするというのである。まさに丑三つ時、しばらく怪奇現象は起きていなかったのだが、一体どういう事なのか、夜中に実際に体験した家族にその時の詳細を

聞いてみた。

小さな虫の鳴き声の様な音が、パソコンのそばで聞こえるという。確かにパソコンのそばによく霊がくる事はあるが、そんなはずが無いパソコンの電源は切れているし、毎日パソコン付近を浄化している。

それに、私が昼間見ても霊的なものは一切感じられない・・・ふむ

一週間ほど経ったある日、私は夜中に張り込みを試みた。シーンとあたりが静まり、聞こえるのは私の生ツバを飲み込む音だけ。やがてその時間、二時半がやって来た。しかし一向に音は聞こえない。

霊も全く感じられなくて、とても眠いのでその日は寝てしまった。しかし、あくる日家族が三時ちよつと前に、また音を聞いたと言う。チツチツチツという音が六十回聞こえたと言う。

フォックス警部はピーンと来た。「時計」、時計に関するものだ。早速パソコン付近の時

計を捜してみたら、出てくるわ、出てくるわ携帯電話型時計、腕時計、目覚まし時計、風水時計、電話機の時計、

柱時計、電卓時計、そして重要参考時計である鳥時計・・・

三時間毎に鳥の鳴き声のする時計なのだが、スイッチは入っていない。おかしい・・・この時計ではないのか？ 犯人は絶対にこの付近にいる。



音の聞こえる時間帯がだんだん遅れて来たので、今度は早起きして張り込む事にした。すると空手の審判の時に使ったものが鳴り出した。チツチツチツと確かに六十回鳴っているではないか。

犯人はこいつだあー

「ストップウォッチ」・・・夜中に起きていちや・・・た。めじゃん。早速ストップさせた。事件発生から三ヶ月、容疑者を現行犯逮捕した。今では捜査本部も閉め、平穏な日々に戻った。



犬小屋リフォーム、ビフォーアフター

ご存知、ジロウ、サブロウ、ヨンロウが同居するワンDマンション、このドッグズ・マンションのリフォームの依頼があったのは昨日。今回の依頼主は防犯及び警備担当のジロウ君からであり、早速フォックス小屋直し隊は依頼主であるジロウ君を訪ねた。

昨年も警備の手薄から、スイカ、タマネギ、メロン等が窃盗被害に遭いジロウ君の責任も問われるところである。今回の目的はマンションに窓を付け、日夜の警備が充分行き届く様にリフォームをしたいとの事で、次郎君から極秘のうちに依頼された・・・様な気がする。

そこでフォックス小屋直し隊としては、夏バージョンを取り入れ今回のテーマ、涼しく防犯、ワンランクアップをめざし早速始まった。今回のプロジェクトを遂行するに当たり、最新技術を駆使しセキュリティ及び耐震強度、稲光防止など全てを満足とし彼らに提供するものである。

午後から始まったが、日曜大工というくらいだから、日曜日のうちに完成しないと小屋直し隊の面目にも影響してくる。早速、同居犬たちにマンションから外へ出て頂き、工事が始まった。

しかし工事が始まると、興味があるのかヨンちゃんが覗き込んできくる。まだ完成していないのに、見られたくも無い。かぐや姫だって機を織るところを見られると、月へ帰ってしまうのに、私は帰るところは無いが・・・

途中、足長バチ二匹に襲われるという、アクシデントも遭ったが今回のプロジェクトは、何とか無事に終了することが出来た。レクリエーション及びごはん担当のヨンちゃんからの依頼されたものは、ごはんの容器を大きくして欲しいという依頼だ・・・様な気がする。しかしこの件は訳あって、しばらくお預けになりそうだ。なお、

現在までにメタボリック担当のサブちゃんからは何の依頼も出ていない。この夏はこのリフォームにより、安心できそうだ・・・ワン。

アジサイ寺



アジサイ寺、そこは私にとってみれば、魔法の様な寺である。

六月になると赤や青のアジサイが所狭しと咲き乱れ美しいものである。ここには虚空蔵菩薩が祀っており、毎月十三日は虚空蔵様の日でもある。私の守り本尊である虚空蔵様へは、以前は毎月のように訪れていた。十三に肖り、そしてアジサイに肖り、一月と三月と六月にご開帳される。

今月、六月もそのご開帳の月となる。

十年くらい前になるが、ある時このお寺を訪れお参りをしていたところ、その住職が私のうしろ姿に手を合わせているではないか。南無うー「気持ち悪い坊主・・・」と思ったが、住職は私のところへ来て

「あなたが、どの様な人物だか私には分かります」と言い、住職は私に一冊の冊子と経文を差し出したのだ。

それ以来、毎夜襲ってくる霊現象・・・しかしそれだけではなかった。本来なら会員しか入れない本堂での祈願の時、特別に一番前の席に入れてもらったり、お供物を頂いてきたりなぜか特別扱いをされたのだ。

住職が私に気があるのかと思ったが、そうではなかったのだ。キモー

過去にも他の神社等で、祝詞を上げる時に特別に一番前に招待されたり、やはり会員でもないのに神殿にまで入らせてもらった事が何度かある。この様な時は申し訳ないので、いつも神殿の前で、私は「この神社（お寺）がますます繁栄します様に心よりお祈り致します」と言ってくるのだ。

神道系ならともかく、お寺となるとどうも怖い様な感じがしてしまう。だが、この経文に関しては後々に大きなかわりを持つ事となったのだ。ジメジメしたこの季節、出てくるのはアジサイや雨だけじゃない。

霊的なものも顔をのぞかせるのである。綺麗なアジサイとお化け、何となく合わない様な感じがして、この季節になると思い出してしまう。

今年のお化け、いやアジサイ、いかがに咲き乱れていることやら・・・
つづく・・・いや続かない、何となく背筋が寒い今日この頃・・・

時事事件

我が関東地方では梅雨に入ったというが、本当なのか。

あるいは、まだ梅雨に入っていないのか、それとも、もう明けているのか。今日も雨の予報だったが、暑い日が続いてどうもはつきりしない。同じツユなら、麵つゆのほうがいいね、ご麵。

渋谷区の女性専用温泉施設でガス爆発が起きたと言う。メッタに起きないガス爆発というが、死傷者も出て大変だったらしい。これこそ、バス、ガス爆発である。発音はバス、バースス。冷凍食品の牛肉コロッケに、豚肉が混ざってあったという。食品会社は牛っしっししかも知れないが、これには豚ったまげた。

六か国協議で、米首席代表を務めるヒル國務次官補、こんどは北朝鮮の平壤へ行ったってか、北は冷たいぜえーまあ、ヒルまず吸い付いて頑張って下さい。

雨が降らないので香川で、使ってなかった井戸を掘ったとき、不幸にも、硫化水素が溜まっいて、二人が、ガス中毒したらしい。中国の古いことわざに、「井戸を掘った人の事は忘れるな」と言います。

こんな事件もすぐに忘れ去られてしまうのでしょうかねえー

腐ったトウフをスーパーで売っていたと言うから、大変ですね。でも、慌てて辞書を引いたら「豆腐」って、やはり書いてあった。以上、フォックスニュースから

携帯、メールの時代

今や、我々の生活圏に携帯電話は必需品といえる。

出かける時の持ち物には、まず、考えない訳にはいかないであろう。小さな小学生でさえ胸に下げ、老人も専用のものを持っているらしい。電車に乗ると寝ている人意外は、みな携帯電話を眺めている。

メールをしているのだろうか、どこかのサイトを見ているのだろうか、むしろ携帯を見ていない我々のほうが、おかしく感じてしまう。

また、パソコン上でのつまらないメールが多い中で、迷惑なものも多い。それも毎日のように迷惑メールは、送り続けられる。たとえ迷惑メールとはいえ、突然来なくなると気になるものだ。

ましてや相手が異性なら、失恋したかの様な錯覚に落ち入る人もいる。

そんな私が携帯を嫌う理由はいくつかある。

まず、メールの小さな字が見にくい。携帯電話が大き過ぎる。耳の中や、口の中に入ってしまう程度の大きさでもかまわないと思う。私が見た光景で、ある会社で長い会議が終わり、会議室から出て来た

人達が最初にする事は、真っ先に携帯電話をながめる事だった。時代が変わったものだ。昔はトイレが一番だった。

ある時、街を歩いていると前から絶世の美女がこちらに歩いてくる。こんなチャンスはメッタにない。

そこで思わず声をかけてみた。「あのおー ちよ、ちよっといいですか！お名前は・・・」

「す、すいません、携帯の電話番号を教えて下さい」「あっ！それから」

「出来ればメールアドレスも教えて頂ければ・・・」

「お願いします。携帯の番号とメールアドレス」「だ、大丈夫です」

「絶対にかけませんから、絶対にメールもしませんからあー」

絶世の美女・・・「意味ないじゃん！・・・」

こんな事を言われそうだ。

時代の波に乗るべきか。それともこのままで良いのか。滅入る。

ヤマトより愛をこめて

我が家では、ほぼ毎日宅配便を利用している。

ゆ〇パック、ヤ〇ト運輸、S急便、P便・・・その中でもヤ〇ト運輸が九十を締めている。

荷物を送るのにも今はサービスも良くなり、ひじょうに便利になっている。物を営業所へ運ぶこともなく、我が家の玄関先まで荷物を取りに来てくれる。生ものは冷凍車まで用意されていて、荷物がどこまで運ばれたか追跡調査も出来る。インターネットを使えば、営業所の所在地や電話番号まで分かる様になっている。こんな便利なものは今までになかった。

昨日、営業所まで荷物を持って行った。

「ありがとうございます七百四十円です」「ではよろしくお願い致します」
今日も営業所まで 同じ荷物を持って行った。

「ありがとうございます六百四十円です」私の心の中は・・・「ラッキー」

「あっ！お客さん・お客さん」「ちょ、ちょっと、待って下さい」

私は聞こえない振りをして、足早に車まで帰ったが、結局百円を支払う事で解決した。

二月四日に発送した荷物が八日間経過しても、相手先に着いていないと言う。もちろんトレイサビリティーを開始した。するとまだ相手先の営業所にあるという。困った、中に入っている桃太郎が窒息して死んでしまうかもしれない。だからといって営業所で開けられ、見られてしまったら月へ帰ってしまうかも知れない。

お客さんの大事な荷物を安全に届けるのは、大変な事である。明日もまた、金のオノと銀のオノを発送しなければならないが、無事に着くだろうか。・・・写真はミニチュアの宅急便・・・ヤマトより愛をこめて。



数珠が切れた

昨日、歯の治療のために歯医者さんへ行った。

待合室で待っていると突然、腕に巻いていた数珠がプツンと切れた。

透明に光る粒が十数個バラバラと四方八方へと飛び散ってしまい、あわてて拾い集めた。

何せ一粒四万円もするパワーストーンなので、一粒たりとも失くす訳にはいかない・・・何か不吉・・・

以前に同じ様な経験をして、その時には知人が死んだ知らせだった。霊媒体質、靈感体質である私は、それをカモフラージュする意味でも、数珠が必要不可欠のものだった。

本来であれば、百八粒のむくろじゅの実で作れば良いのだろうが、そんなに大きなものは持ち歩く事が出来ない。そこで私は特別に厳選したパワーストーンを使い、親玉と二粒の四天と三十六粒の主玉で構成し、浄化、祈願をして肌身離さず腕に巻き、念珠という形で、年中持ち歩いていたので。

治療が終わり、家に帰って数珠の紐を取替えようと数えたら、一粒足りない！、もしかしたら車から降りる時かと思い、車の中をくまなく探したが見つからない。

ポケットの中を探しても出て来ない。やはり歯医者者の待合室なのか・・・

しかたなくもう一度歯医者へ向かった。歯医者では掃除のおばさんがモップとちりとりを持っている。・・・嗚呼・・・風前の灯・・・

あわてて掃除のおばさんに聞いたところ、どうやら私が落とした時と時間帯が違い、その後の掃除はしてない様だ。すると、もしやトイレかもしれない。早速トイレへ行って便器や床を覗いてみたが、やはり見つからない。

振り返ると今回は何となくこのパワーストーンに助けられた様な気がする。ぜひ探してあげなければ・・・出来れば夢であって欲しい・・・腰を落とし頭を低くして、床を眺めている胸元には汗がにじみ、あせっている。周りを見ると、何だか歯医者との関係者が私をおかしな目で見ているうー。だけど、一粒が四万円もするものを、そう簡単にあきらめる訳にはいかない。

ふつう病院などは、待合室で長い時間待たされ、診察が五分などよくある事。歯医者さんでは、私が朝一番だったので待たされる事はなく、五分程度で治療は終わったのだが、数珠玉探しに、なんと二時間もかかってしまったのだ。どこへ行ってしまったのだろう・・・いくら探しても見つからない。

とうとう私はあきらめた。

我が子の様に大切にしていた数珠、歯医者との待合室からバラバラになって集めて我が家に帰り、もう一度しみじみと、うなだれ数珠を眺めている自分がいる。透明に光っている粒をじっと見ていたら、それは四万円もするものではなかった。

計算したら一粒四十円位のものだった。夢でなくても良かった。良くある事だった。

カメの冬眠

世の中にはカメの好きな人が沢山いる。

また、カメのグループを作って語り合っている人達もいる程である。私も縁あって「カメDE ショウ」へ参加した事がある。数年前までは東京の亀有で行っていたが、今は亀戸に変わったらしい。

カメの好きな人にはたまらないらしく、語る事も多いのだろう。私も時々K A T・T U Nのメンバーである亀梨君と間違われる事もあるが、特に関係はない。

以外に知られていないのが、ウサギには負けたけれど、カメは早い。名前を呼ぶと認識するらしい。キレイ好きである。座敷で飼える。クサ亀は臭い。縁日で売っているミドリ亀は二年で十センチになる。

カメのことを知らない私もびっくりした。カメばカムほど面白い。

最近、暖冬だといいカメを冷蔵庫に入れてしまったおばちゃんがいる。外国人だが、七十五匹ものカメを冷蔵庫で冬眠させているとか。

詳細を知りたくて、そのニュースのアドレスをアクセスしたが、なかなかページが開かず、閉

じたりしているらしい。まさか動物虐待などといわれ、困惑しているのではないか。そこまでして新鮮なカメラが食べたいかー

私も以前、我が家の犬が小屋から抜け出し、夜な夜な夜遊びするので、怒ってチンチンを縛ろうとした事がある。当時のブログを読んだ動物愛護のグループから厳しく指摘され、さすがにこの時は私も反省をしてしまった。写真はすごく賢い電子ガメ、ウオーキービッツ。



花粉症、特效薬！

私は酷い重度の花粉症で、すでに二十五年もの期間、病んで来ました。

当時は百日咳とか鼻炎、アレルギー性鼻炎などと診断された事もあります。クシャミ鼻水、鼻づまり、目のかゆみやノドの渴き、睡眠障害まで、毎年一月の下旬から、ゴールデンウィーク頃まで鬼の様に悩まされます。

ある時、いつもの様に写真撮影をしていて、山で黄色い粉を巻き散らかしているスギの木を発見しました。この花粉を思いっきりいっぱい吸うと、免疫が付くかと思い、やってみた。するとその晩、目は腫れ上がり、ノドは炎症を起こして呼吸困難になり、水を飲もうとしたが、飲み込む事が出来なく、鼻血が出て大変な事態になり鏡を見ると、まるで目鼻の腫れ上がった結婚詐欺師の様な顔になり、苦しくなって寝られなかった。この方法は失敗に終わった

最近では花粉症のクスリも眠くならない抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、抗トロネボキサンA二薬、抗ロイコトリエン薬、サイトカイン阻害薬、そして鼻炎スプレーやかゆみ止めの目薬も、良いのが出ていると言われているが私にはなぜか効かない。セルテクトやアレグラも試したが、だめだった。

マシユマロの様なワタ飴の様なお口の中でマジックをする眠くならない新薬、クラリチンレディタブも飲んだ。鼻からノドへ塩水を通した時や、眼に天然植物活力液「HBー〇一」を

点した時はスキーツとして死ぬかと思った。

十五年ほど前に一度だけ効いた薬があった。これはコルゲンの鼻炎カプセルで会議前に飲むと一時間の会議中だけは良く効いた。しかし副作用の眠気にはなぜか負けてしまった。

特効薬かどうか分からないが、紹介しよう・・・ヤクルトを知らずして、花粉症を語ることなかれ・・・

それはヤクルト・レディが家まで運んで来てくれる「ヤクルト四〇〇」だ。お店には三〇〇なところがあるけど、四〇〇は売っていない。ヤクルトの中に四百億の乳酸菌が入っているという事で名前が付いているらしい。

凄い数である。中国でも三千年、加賀だつて百万石、なにせ四百億。国の国家財政には負けるが、乳酸菌が多いという事はわかんと思う。詳しくは五万人もの悩める人のグループ「花粉症の会」を参照。

http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=15492829&comm_id=1104

私は別にヤクルトとは何の関係ありません。ヤクルト・レディは好きだが、回し者でもありません、キツパリ。

ページが見られない人の為に、グループ内を覗いてみるとこんな事を言っている。野球、ヤクルトスワローズでは、選手がこのヤクルト四〇〇を飲んでるので花粉症で悩んでいる人が

いないらしい。

効く人によっては飲み始めてから二日(一回)ほど効果が出るというが、薬事法の関係で大げさに効果を表示できないらしい。

私は「ヤクルト四〇〇」に合わせて、メチル化カテキンを多く含む「べにふうき」と、「蕃爽靈茶」も飲んでいるが、今年は三月の半ばなのに目のかゆい日は時々あるものの、鼻や喉の花粉症の症状は出ていない。乳酸菌の関係で花粉症だけではなく、整腸作用もあるらしい。

「ヤクルト四〇〇」を飲み始めてからはウ〇コも健康を取り戻したかの様に生き生きとしている。思わず快便君と呼びたくなるほどである。



ちなみに明日はヤクルト・レデイがくる日だが、花粉症の会の情報から得て注文してある紫蘇ドリンクが届く予定であり、楽しみである。ヤクルト・レデイが来たら、ウ〇コの話よりも花粉症の話で盛り上がりそう。

緑化フェア



新緑が目眩しい今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか
先日ご案内しました様に我が地方では今、「花と緑のシンフォニーぐんま二〇〇八」と題して
高崎会場、前橋会場、太田会場をオープンし、六月八日まで第二十五回全国都市緑化ぐんまフ
ェアを入場無料で開催しています。

早速、前橋会場のバラ園を覗いてみると、この季節バラにはちょっと早い様でした。聞くと
ころによるとバラの花の開花も同時に合わせて緑化フェアを行う予定だったのが、担当が一
生懸命に努力しても

どうしてもバラの開花の時期に合わず事が出来なかったらしい。

来月にはきっとバラも素晴らしく開花する事でしょう。でもその代わりに色とりどりのチュ

ーリップが沢山咲いていました。赤や黄色、青に紫、橙、ピンクに白、それはそれは見事なものでした。しかし、最近、心無い人達により、チューリップが切られてしまうという残念なニュースも入って来ていますが、犯人は私ではありません。

また、それを聞いて他県からチューリップを届けてくれる人もいます。隣の敷島公園を覗いてみると、湖ではカモが楽しそうに遊んでいます。緑化フェアへ「カモーン」と手を上げているカモもいる程です。

そして我が家から最も近い太田会場、車で行くと、たったの十分、歩きではもっと早く五分で行けてしまう、シバザクラの北部公園、全国でも最大規模といわれるシバザクラ百万本が満開です。

敷地内を探索すると、何やらこの後ポピーがスタンバイしていて五月にはツツジも咲き乱れるところと見受けしました。

写真にはありませんが、今回最も印象に残ったのは、なんと言っても地元の焼きそばとタコ焼きでした。会場ではとても美味しく頂きました。時間のとれる人はぜひご来場下さい。

海外からもOKですよWelcome。来月は高崎会場をリポートします。緑化フェア・・・美味しいよー

火災報知器

六月一日までに家庭用火災報知機の設置が義務付けられた。

我が家でも導入のつもりで電気屋さんを眺めてみた。大きくは二タイプあり、煙感知用と熱感知用とある様です。電池も十年持ち、金額も二千五百円くらいから一万円位まである。ベルの鳴るもの、信号の出るもの、音声で知らせるもの色々。

そんな事もあり、先日地元の消防署へ電話をしてみた。「火事ですか！、救急ですか！」
「いえ、家庭用火災報知機の件です」

六月一日までとあるが、条例で法律が出来ている訳ではないらしい。従って設置してないからといって特に罰則がある訳でもないらしい。火事で不幸にも亡くなる人が多いので、検討されて来たらしい。

新築物件に関しては百パーセント設置を義務付けしているらしい。そんなら我が家もどうか設置を検討しているらしい。

考えてみると我が家でも最低三台の設置が必要らしい。厨房に、いや我が家はそんな広い。炊事場に熱感知を一台、階段に煙感知を一台、寝室に煙感知を一台

現在、我が家ではそれ以前の問題が発生している。実は私は隠していたわけではないが八十二歳の彼女と同棲している。その彼女が時々ガス栓を締めるのを忘れる。（忘れ防止器必要）火を消したというのが実はまだ点いている。（ボケ防止器必要）耳が遠くてたぶん報知器が聞こえない。（大音量の報知器必要）しかし

私は彼女の寝室には今のところ煙感知は考えていない。

写真は直接関係ないが、タイトルはバラバラと、何かを感知ネコ。



私の友達は変わり者

私の友達はみな変わっている

友達Aの場合

たいした犬じゃないのにとても大事にしている。ある日その犬が病気になった。何とかしてあげたいと思い、獣医へ連れて行き薬を飲ませたそうだ。

薬代がたった五日で五万円以上もかかったそうだ。あくる日にその犬は死んだ。

友達Bの場合

子供の頃から、何でもかんでも私の物まねをしている。私が免許を取ると、免許バイクをかうとバイク、車を買うと車、スポーツをやると同じスポーツ、趣味をすると同じ趣味、友達関係も同じ友達、違うのは女性のタイプだけ。

友達Cの場合

彼女が出来るとなぜか、一週間くらい仕事をやめてどこかに雲隠れする。あれはいったい何だったのだろう。正々堂々としていいのに・・・

友達Dの場合

最近電話がかかってきた。「俺、最近インターネット始めたよ」「面白いよ」

「そろそろお前もインターネット始めろよ」「絶対に面白いって・・・」

こっちは二十年も前からやっているのに・・・

友達Eの場合

郵便局の窓口に好きな女性がいるらしい。かっこを付けようと彼女の前で東北地震の義援金を送ろうと一万円持って窓口に行ったらしい。

たまたま当日、彼女は休みで窓口にいなかった。一万円はきついと泣いていた。

友達Fの場合

自分のホームページも持っていて、自信満々・・・

アドレスを教えてくるから、覗いて見たら、なんと掲示板にエッチなことが沢山書かれていて、まるで二チャンネル状態、ホームページがあっても管理しないと。

友達Gの場合

車が故障して、JAFを呼べば良いのに友達を呼んで車を牽引してもらった。

友達の車のバンパーが外れてしまい、弁償する事になった。特殊なバンパーで八万円くらいかかったそうだ。JAFを呼べば二千五百円位で済んだらしいが・・・

私の友達は本当に変わり者が多い、変わっていないのは私だけだ。

サブちゃん危機一髪

私は特別な愛犬家ではありませんが、我が家にはジロウ、サブロウ、そしてヨンロウと三匹の犬がいます。今回の問題犬はサブちゃんの事件記録です。数日前に私が、ひと言「サブちゃん、俺はお前がいちばん嫌いだ」たったこのひと言でサブちゃんの気持ちが変わったらしいのです。

考えてみると三匹の中でも悪のリーダーで、仕方なく言ったのです。すると透き通った瞳の中で

「僕は家出してやる、お世話になりました。」と言った様な気がする。

あくる日からサブちゃんの姿が見えません。繋がれていた綱を切って家出したのです。

いつもの彼女のところへ行くのなら一泊のお泊りで帰ってくるのですが、今回はくる日もくる日も姿を現しません。私の友達も彼女が出来ると雲隠れする人がいるのですが、今回のサブロウはどうもそうではないらしいのです。

さすがに二日三日四日五日六日と帰らないと心配になり、そして今日で、とうとう一週間の日にちが経ちました。

「犬が三匹もいるんだから一匹くらいなら、死んでもいいや」とは思いませんでした。が心配になつて来たのは事実です。こんな時は神頼みと思い、私は守護神に聞いてみました。

すると、「まだ死んではない」と言うのです。それどころか近々帰つてくると言うのです。新聞の迷い犬コーナー広報の大探しコーナーも、くまなく調べて見ました。しかしそれらしき犬の情報はありませんでした。

また、連帯責任だと言い、私はジロウやヨンロウまで「探しに行つて来い」と言つたのです。彼らも家を留守にして我が家には一匹もいなくなつてしまいました。確かに犬がいると旅行も出来ないなどの会話も陰でしていました。犬達はそれを察知してのことなのか、甘く考えればきりが無い犬さえいなければ、出雲へも、ニューヨークへも、北京へも大分へも、福岡へも・・・旅行が出来る。しかし金が無い。

必死な努力はしてくれたものの、サブちゃんだけは帰らない。こうなったら保健所へ問い合わせるしかない。朝一番で、保健所の担当者へ望みをかけて電話を試してみた。

「白い犬で、悪で、四歳・・・これこれしかじか・・・」

「それでは保護や届け出がありましたら連絡致します。」

「もしもし、フォックスさんですか」

「もし、インターネットが見られれば、このページを・・・」

するとサブちゃんらしき写真が付いて動物管理センターに迷い犬として出ているのだ。痩せている犬がいるが、もしかしたらサブちゃんかも知れない。すぐに保健所へ急行し沢山の迷い犬の中でも、その痩せているサブちゃんらしき犬を私は早速呼んでみた。「サブ・・・サブちゃん」すると、

まるで芋洗坂係長のごとく、はしゃいで喜んでいるではないか。それにたった一週間でメタボから卒業しているではありませんか。

担当者に聞くと明日の朝、連れて行かれてガスで死なせるところだったと言う。

まさに危機一髪である。私は万引きをした我が子を、警察へ引き取りに行った様な気分だった。

帰りの車の中で、「サブちゃん、もう家出しないでね」と言いながら帰ってきたら、家が近づくにつれ、反省のいろが無くなり、もとの悪のサブロウに戻っていた。

彼岸に情事は慎め二〇〇八

この夏は暑かった。しかし、もう秋の彼岸がやって来た。

「彼岸に情事は慎め」

この件に関して今年もまた、言うことを聞いてくれない輩がいる。二〇〇五年にも注意をしているはずだか、この様に毎年、注意を促さなくてはならないのが、残念だ。

若い夫婦がいて幸せに暮らしていた。ある日のこと不慮の事故で旦那様が亡くなってしまった。奥様は葬儀も済ませ、やっと旦那様の事を忘れようとしていた。

やがて一年が過ぎ、彼岸がやって来た。旦那に先立たれた奥様は、その後親しくしている男性と良い仲になり、男性が奥様の家に行き来するようになった。

一方一年前に亡くなった旦那様は、あの世で奥様の事が忘れられなくて日に日に思い出していたそうだった。

あの世では彼岸や盆になると、今まで制限されていた行動範囲が広げられ、あの世の島の隅々まで行っても良いという暇が出るそうだった。とがった島の先端に一本の大きな木が生えていて、その木を魂宿樹（こんしゅくじゅ）と言い、そこまで行っても良いと、許可が出されるそうだった。

その木に登り現界を見下ろすことにより、残してきた奥様の姿を鮮明に見る事も出来るらしい。

興味のある人(仏)は盆や彼岸になるのを待っていて、登ったそうだ。その旦那様も今回はじめて魂宿樹の傍へ行き、てっぺんまで登った。さっそく奥様がどうしているか心配で、現界を覗いたところ、なんと奥様は知らない男に抱かれているではないか。

旦那様はびっくりして、先にあの世へ行ったことに後悔したとのこと。彼岸には先祖を敬う様心がけ、静かに生活した方が良い。あの世へ先立った人も、なかなか落ち着いていられない様だ。私が毎年、口をすっぱくして言っているのにもかかわらず、彼岸に情事にふける輩がいる。残念だ。



と、まあここまでは春の彼岸にお話したとおりで、それどころかあの世では、生前に行いの良かった人には彼岸になるとわざわざ魂宿樹まで行かなくも、部屋にいて特別待遇があるらしい。テレビや映画を見るように、画像鑑賞的に見る事が許可されていると予想される。もちろん興味のある人は現界にチャンネルを合わせ今の現界を、直接眺める事が可能なのである。

そのものは画像だけでなく、音、臭い、感触、空気まで手に取る様に感じられると言うから、旦那様に先立たれた人はもう不倫などやっている場合ではない。これでは旦那様も見ていてたまらない。

また生前に行いの良かった、他の仏さん達も画像を見ているかもしれない。
大変だ。



クック天空の城、秋ダ



芸術の秋・・・これはまさに私のためにある様なものだ。
現在、我が家では総工費二億円をかけて、天空の城を建設中である。事の発端は数年前にさかのぼる。群馬県赤城自然園からの帰り道。「ニワトリと遊べるリング園」が目に入り、早速入ってみた。

すると網に囲まれたリング園の中にアローカナという鶏が放し飼いで沢山いる。これは鶏と一緒にりんごを食べ、戯れるしかなかった。

あれから数年・・・今年もリングの季節がやって来た。早速リング園へと向かった。アローカナと言っても本当にあるんです。幸せの青い卵と言われる様に、本当に卵が青いのです。

話によると、低コストロールで、みのさんの番組でも取り上げられ今年私が行った時も、地元の雑誌社の取材を受けていたところだった。聞いてもいないのに、アローカナの説明ばか

りする爺さん。

「コオーコオーコオー」と爺さんが呼ぶと餌を求めて鶏が走ってくる。

オスが十数匹なのに、何とメスが二百匹近くもいるハーレムだ。まるで、より鶏ミドリ・・・と言っても卵は青だ。

爺さんは二年前に自宅の前で、婆さんを事故で亡くしてしまったと言う。高齢のせいか、リング園の経営を誰かに頼もうと私に言ってきたのです。そうです・・・私がお金持ちに見えたのでしょうか。

実っているリング園の木も五十本以上はあったと思う。何とか爺さんを少しでも助けてあげたい。私は早速モッコリと立ち上がった。

我が家にも広い土地があるが、鶏が外敵に狙われやすい。私は悩んだ。そこでひらめいたのが、これだぁー「クック天空の城」だった。何とか有精卵に出来ないかと、考えても私の技術では有精卵は不可能。

やはりオス鶏を飼うしかないのか。天空の城も、現在建設真っ最中。リング、フジが実る今月の下旬には、とうとう我が家にもアローカナが天空の城にやって来る三羽。・・・天空の城の写真は後日・乞うご期待。間違いの訂正、総工費二億円とありましたが、二万円に訂正。



クック天空の城、その後

クック天空の城、地上の城、本丸、城壁と完成し、先日無事に落成式も済ませ、いよいよめでたくアローカナを迎え入れた。完成した一DKに一夫多妻、オス一匹に対してメスを三匹連れて来た。

これはまるでミニハーレムだ。

しかし連れて来たあくる日に早くも青緑色の一個の卵を産み落としたが、その後はなかなか出産してくれない。ふむ・・・

アローカナの幻の卵は殆んど出産しないと聞いていたが、何やら本当らしい。外部からは見えない様に、わざわざ二部屋の分娩室には御簾が用意してあるのに、何と最初の一個は台所で産んでしまったのだ。



この鳥は一体どのような教育を受けて来たのだろうか・・・ふむう・・・

この普通の鶏の卵に対して、アローカナの卵は大きさも五く六センチ程度でこの程度の大きさである。

もともとリンゴ園にいたせいか、熟んだ柿をやけに好んで食べている。尻尾が長くあるはずのオスには、その尻尾が取れてしまっただけに見える。その増毛法をアデランスに相談しようと思うが、きっと高くつくに

違いない。この師走の押し迫った時期に、アローカナのために何やらかんやら忙しい。

他の仕事に鶏つく暇もない。

外部からはすでに偵察隊も確認されている。二匹のタヌキ、飼いネコに、野良ネコ、なぜか我が家のヨンチャンまでがアローカナを狙っている様な気がする。しかし今回のアローカナは次の卵をなかなか産んでくれない。早く産んでくれー、彼らは二十七日までには産んでくれると約束はしたものの、三歩以上歩いたのでどうやら約束も忘れてしまった様だ。新年も、もうすぐそこに来ている。年を越さなければよいのだが。

オレンジからハマって



オレンジからハマってと言っても、オレンジを何処かにハメて喜んでいる訳ではありません。ある時に知人からデコポンをもらったのです。それはとても美味しくて、その味が忘れられなくなっただけです。来る日も来る日もデコポンを買い求め、食べているうちに他のオレンジも食べてみたいという気持ちになって来たのです。そこで、デコポンに続きグレープフルーツ、甘ナツ、イヨカン、ハッサク、ネーブル、オレンジ、バンペイユ・・・もう頭の中がポンカンです。

しかし、これからが本題です。そこで柑橘系を卒業して今度はトロピカルフルーツに目が行き出したのです。それはそれは南の国の東の知事も絶賛している太陽の卵マンゴーです。

またそのマンゴーが高価でとても我が家では簡単に食べる事が出来ません。こんなのを食べた日には我が家のエンゲル係数も、血圧と共に一気に跳ね上がり鼻血が出る程のものなのです。

「生協の赤石さーん、マンゴーをひとつくださーい。」

高価なマンゴーを手にする夢は達成したものの、これから悲劇が始まるとは誰が予想した事でしょう。さっそく包丁を入れ、そのドス黒く腐った中身は桃太郎もびつくり、さすがの太陽の卵もメキシコからのインフルエンザにやられてしまったのか。火曜日にはトロピカルな天皇も生ゴミと化し、告別式とともに去って行ったのです。なあくむうく

数日後 「あのおー生協の赤石さんですよ」 「はい」 「実は先日買って行ったマンゴーですけど、

中身が腐ってまして食べられませんでした」 「フォックスさん、それは申し訳ございません」 「いいんです、いいんです。レシートも無いし、それに我が家はお金持ちですし・・・」

生協の赤石さんは今は副店長、以前にも赤石さんにはお世話になった事がある。

一年くらい前だっただろうか、イチゴを買った時に箱の下にカビが生えていた事があった。その時はカビが生えているのに気づかず殆んどイチゴを食べてしまい、腹も壊さず残った三個のイチゴとレシートを持って赤石さんを尋ねた。

すると赤石さんはその箱を回収して、気持ちよく上のランクの新鮮なイチゴを手渡してくれた。それどころか申し訳ないと言って、もう一箱のイチゴをプレゼントしてくれた。ところが今回、新たに交換してくれたトロピカルのマンゴーも実は中身が腐っていて、やはり金曜日の生ゴミになってしまった。さすがに私は何度も言えない。泣き寝入りしようか・・・タヌキ寝入り・・・いやキツネ寝入り

今日も生協へ行った。赤石さんの姿はなかったが、お店の売り場はすでに、スイカのシーズンになっていた。この夏はスイカの物語が発生する予感がするう・・・

空手が取り持つ親子愛

いよいよ七月に突入した。

直接盆とは関係ないが、親父が亡くなってから十三年が過ぎてしまった。前の日記に紹介したが、親父は強い人で、足にツルハシを刺し、大きな穴が開き向こう側が見えているのに、メンタムだけで治すという強い人だった。

私が空手を始めたのはこの親父がきっかけだった。親父の左足には大きな傷跡があり、聞くところによると、その昔、凄い空手の達人にやられたという。あんなに強い親父がやられるなんて、凄い達人なのだと想像していた「いつかお前は空手が強くなって、お父さんの仕返しをしてくれ」といつも口癖に言っていた。

それを聞いた私は来る日も来る日も空手を練習した。まるで中国映画に出てくるカンフー映画みたいだ。幸い私は動きや筋が良く強くメキメキと上達し、三年後には黒帯になり、六年後には指導員になり

道場まで持って、何人もの弟子を教えるまでになり、黒帯びも育って行った。

道場での休憩時間・・・生徒達が「先生、どうして空手はじめたのおー」

「それはねえー、先生のお父さんが、その昔、空手の達人にやられて」

「それで、仕返しをするために空手を習って、やっつけに行くんだよ・・・」
「先生、すげえー映画みたいだね」 私もなぜか心の中で納得していた。

親父が亡くなる三年ほど前に、親父の左足の傷跡の件で話が盛り上がっていた。
良く聞いてみると、その左足は農作業をして来た帰り道、坂道を降りる時耕運機の回転する部分に挟まれ、大怪我をした傷跡だと言っていた。

その日の私は道場での空手の稽古の日だった。

「今日は先生から、皆さんにお話があります」 「先生は今日で空手やめます」

「ええーどおしてえー」 「お父さんの仕返しをするんじゃないかったのおー」

「その必要が無くなった」 「以上、礼」

溺れる人でも藁は掴まない

夏、深い緑、生い茂る山中に白いしぶきをあげた一本の溪谷。

滝ともいえない激流を逆光に、一輪の花をあてがいピントを合わせる。緑の中から爆音とともに、しぶきが瞬時に銀色に輝く瞬間、カシャ、パチリ 満足したか、しないかは別にして、次の被写体を求め苔むす石の上をステップして行く訳にはいかないので、慎重に進む。

おやあー、上流から人が一人浮き輪に乗って溺れているのか、流されて来る。あれえー、激流の中で両手両足を上げて溺れている。これは何とかしないとこっちを向いているけど、溺れているわりには、何となく笑みを浮かべている様にも見える。その瞬間大きなしぶきと共にバシャーン、一瞬、水に潜り、見えなくなったが、今度は水面に出てアップアップしている。

「大丈夫ですか」 「大丈夫かあー」 「大丈夫・・・」 私は何度も叫んだ。

向こう岸には釣り人が二人いるのに、見ているだけで一向に助けようとしなない。

これからは私の出番だ。過去には何度も事件事故に遭遇し、危険な場所から何人もの人を救った。事故現場などで「誰かお医者さんはいませんか」

「ドクター」などと叫ばれると率先して「私が毒だーです」なんて現場へ行ってしまいうタイプだ。

私は撮影中であるにも関わらず、カメラを川岸に置いて、ズボンの裾をめくり始めた。しかし、見ている人は誰一人として彼を助けようとはしない、世の中には薄情な人もいるものだ。

上流から流されて来た人は、私からほんの数メートルのところまで来た。今だ、今がチャンスだ、長い木の枝を持ち、裸足になり、水に入った瞬間向こう岸にいる釣り人が、こっちを向いて「やめろー」と言っている。何を言っているのだあの二人、このまま見過ごしてしまっただ。殺人罪だ。

私は無我夢中になって彼を助け出そうと、彼の浮き輪に手をかけた。

すると今度は、彼が・・・「すみません、やめて下さい」・・・

ついさっきまで水の中で泡食って溺れていたのに、ふむ・・・どういう事なのだ。

そうか、彼は自殺をしに来たのかー

私がキョトンとしている間に彼はあつという間に下流へと流されてしまった。もはや、さすがの私も彼を救うことは出来なかった。

何がなんだか分からないまま、川岸へも戻ろうとした時、ふと上流を見ると今度はもう一人違う人が、溺れて流されて来る。あれも自殺か・・・いや

もっと上流からは六人もの大人数が溺れて流されて来た。集団自殺だーこうなったら、ただ事ではない。カメラを片付け、足早に車へ戻り外部と連絡取ろうとしていると、見知らぬ二人の男性が私のところへやって来た。

さっきの釣り人かと聞いたら、今回の大会関係者だと言い「あなたが浮き輪に手をかけたので、彼は失格になりました」と言っていた。何で自殺に失格があるのー納得がいかない。



泥棒が入った

先月、我が家に泥棒が入りお金がなくなった。

被害にあったのは母親の財布と、病院の診療カード、そして現金九千万円あまり大騒ぎしても仕方ないので、そのままにしていたが、そういえば財布が無くなったのに気づいた前日、我が家の母親は玄関から無言で足早に出て行く女性の姿を見かけたという。よく聞いてみると隣の奥さんにも似ている。

しかし、盗んでいくところを見た訳じゃない。でも過去の前例からすると怪しい、どうも我が家だけでは隣の奥さんを犯人に仕立ててしまいそうなので、ここは正當に捉え、警察に頼んでみることにした。

近所の駐在さんへ行ったが留守なので、仕方なく本署まで出向いた。

お巡りさんこんにちは、コレコレ、シカジカ、コレコレ、シカジカ

「そうですか」それは災難でしたね」「いや、災難ではありません盗難です」

「では、これから自宅へ伺いますので、家で待機していて下さい」

やがて四人のお巡りさんが我が家へやって来た。さっそく渡哲也似の刑事さんが

「それでは盗難届けを作成します」「ではフォックスさん書名をお願いします」

「えーと、北久須進一さんですね」「生年月日もお願いします」

「すみません、生年月日は言えませんか」「どうしてですか」「公表していません」「おまわりさん、これって黙秘権使うってことですか」「えエーッ」

「じゃあ分かりました年齢だけでも・・・」 「それも言えませんか」

「じゃあー取られたものは何ですか」すると母親が「まず九千円と・・・」

今度は船越英一郎風の刑事さんが「えエーッ」九千万円じゃないのぉー」

「いや、一万円と言おうとしたけど、やっぱり本当のことを言おうと思い、実は九千円なのです」

刑事さんたちが根掘り葉掘り聞いてくる。「カギはかけましたか」

「財布は何処へ置きましたか」でっ、「財布を置いた場所を指で指して下さい」

「写真を撮ります」 「ほかに盗られたものはありませんか」 「何時ごろでしたか」すると水谷豊みたいな刑事が

「ニワトリ飼っているんですか」 「卵は産みますか」・・・「関係ないでしょう」

「ラジコンのヘリコプター飛ばすのですか」・・・「それも関係ないでしょう」 困ったものだ」

そんなこんな、被害届を書き終わったかと思ったら、今度は我々の指紋を取ると言う

「聞いてないよう、聞いてない」エエッ、どうしよう。

私達は被害者なのになぜ指紋を取られるのか。それに私は悪い事をしていないのに、なぜ指紋を取ると言われたら心の中でビビッているのだろう。鑑識のお巡りさんを相手に、おどおどしている自分がいるうー

ふと、水谷豊のほうを見ると、水谷の瞳の奥底に「こいつらぁー狂言か」

「犯人はお前だろう・・・さあ、白状しろ、白いて楽になるんだよぉー」

「お前みたいなのが、世の中をおかしくしているんだ」と言っている様な気がするうー

困った、困った・・・思い切って「すみません、私がやりました」と間違っ言ってしまいそうである。

あぁー

お金を支払わない人

スイカの季節も、もう終わり、ちよつと首を伸ばせば、冬が見えてしまう。いかん、いかん、最近はずがりになつて困るなあく。実は栄養不足なのかも。なるべく首を伸ばさない様に頑張つてゐる今日この頃・・・

首を引つ込めたら夏の事を思い出してしまつた。

ある男二人がスイカを求めて、ビニールハウスのスイカ畑へ自転車で向かつた。優しそうなオジさんがスイカ畑に一人で作業をしている。よく見ると「スイカをただで上げるよ」と言つてゐる様な顔をしている。

男二人は各々自転車に乗り、お金は持つてゐない。でもスイカが欲しい。どうすればいいか、答えはすぐに出た。私が、いや、一人の男が「オジさん、スイカちょうだい」と言うと「ああ、いいとも」と言い、オジさんは、なつてゐるスイカを指でポンポンと叩いたかと思うと、「これは甘いぞおー」と言いながら、一人の男へ手渡した。次に、大きなスイカをポンポンとたたくと今度は、私に、いや、もう一人に渡した。

我々は、いや、男二人は自転車の荷台にゴムひもで、スイカを括り付けていた。オジさんはスイカ畑で向こうを向いてゐる。彼らはなぜかわからないが、胸がドキドキしている。

私は言った、いや、彼は言った「オジさんごちそうさまあゝ」

「それゝ逃げろゝ」オジさんは最初きよんとしていたが、大きな目と大きな口をあけて、こちらに向かって何かを喋っている。我々は、いや、彼らは確認した。あの時私は、「スイカちようだい」と「言ったよね」うんうん。「スイカを売って下さいとは言わなかったよね」うんうん、

慌てて飛ばしている自転車から彼らは、後ろを振り向きオジさんの方を見た。

私は最近、読唇術を勉強しているので少しは相手の唇が読める様になっていた。そこでオジさんが何を喋っているのかを読み取る事にした。するとオジさんは「お金、お金」と言っている様に見えるが、なにせ私も読唇術を習い始めたばかり、よく見ると「冷やすと美味しいよおゝ」とか「来年も来てねえゝ」と

言っている様にも見える。しかし、もう一人の彼はあんなに離れていてもオジさんの声が聞こえたと言っていた。彼には「お金、お金」と聞こえたらしいのだが、その彼の地獄耳と言われているのも去年の事、すでに彼の耳は今はおかしい。

これはフィクションで登場する人物はすべて架空の人達だが、私も、いや、彼もまだまだ勉強不足で、読唇術をものにしていない。しかし「あの時のスイカは美味しかった」と読唇術の彼は私に語ってくれた。

秋晴れに小春日和・しかし

八時三十分

雲一つないという訳ではないが、快晴の様な今日この頃、あまりに天気が良いので、今日は犬小屋と車庫をきれいに洗おうと水道水を地面に流していた。ホースの先にはジェットが使えて水の勢いが凄いい、何となく消防士になった様な・・・たくさんの水を使いきれいになった。

わが田舎では稲の刈り入れも終わり、川には水がなく田んぼも乾燥している。
いい天気だぁー掃除も終わり家に入る。

九時〇〇分

今日はパソコンの作業しかないので、天気は良いが、家の中で過ごす。

十二時〇〇分

先日修理が終わったばかりのパソコンのハードディスクの音が、やけにシューシューとうるさく聞こえている様な感じがし、少し気にはしていた。

しかし、その後、あんな事が起こるとは予想もしていなかった。

十五時〇〇分

ミクシイの、サンシャイン牧場で作物を作り、汗を流していると、やはりパソコンのハードデ

イスクの音か、シューシューとうるさいので、覗いてみた。しかしパソコンや、その周辺にも何の問題も無い様に思えた。

十五時十五分

我が家の犬達は、秋の味覚、柿が大好きである。三匹の犬用に柿を三つ取って犬と一緒に柿を食べていると、パソコンの音が家の外なのに、より大きな音でシューシューと鳴っている様に聞こえている！

家に戻りパソコンを見てみたが、何の問題もなく、音は聞こえない、外へ出てみると凄いい音でシューシューと鳴っている。大きな音の方に目をやると、な、なんと水しぶきが上がっている。今朝使った水道ホースのジョイントが外れてホースが踊っている。あわてて水を止めたが、後の祭り、土は崩れて水浸し、川や田んぼは水が溢れて・・・秋なのに田植えが出来そう・・・今日この頃。

うがい、手洗い、マスク、除菌

我が家では新型インフルエンザが騒がれる以前から、うがい手洗いそしてマスクと除菌は準備されていた。

マスクは使い捨てのもので、五十双のものをいつも購入していたのだが、さすがに数ヶ月前は品薄で、色々なお店を探してみたが、売切れてしまに残っているのは高価なものや、カラス天狗みたいなものしかなかった。

それが現在では飽和状態なのだろうか。ピンクのものまでが出ている。グレープフルーツとアンズの種をベースにした酸性水消臭タイプの除菌スプレーも、今では玄関に用意して置く様になっている。

あとは予防接種だ。子供の頃、医者をやっていたという申告では、医療関係者として認めてもらえない。先日、内科の医院を訪れたら予防接種の予約を受けていると張り紙が掲げてあった。でも、これは体に疾患があったり、高齢、そして子供や妊婦が優先される。

ある程度の年齢の人は、かかりにくいと言われているが、そんな年齢でもないし、どれも当てはまらない。

以前は東京へ行って帰って来ると風邪を引くことがよくあった。今回も東京から帰ったらノドに違和感がある。人ごみの中では、沢山のウイルスがウヨウヨしているのだろう。

まあ、某牧場にいる動物達だって目眩でグルグル苦しんでいるのだから、そんな時は必ず注射をしてあげますけど・・・
なにせ昨日と今日の温度差が十度以上もあるとなかなか大変である。

♪師走だなぁー♪、僕は十二月になると師走を感じるんだぁー
ゲルマニウムや岩盤浴が恋しい今日この頃・・・頑張ろう。



偲んで

月日が経つのは早いもので、亡くなったジロウもバレンタインデーの頃には四十九日を迎える。

世間では謹賀新年なのに我が家はまだ喪中の真っ只中。我が家を代表する防犯担当のジロウ。今までジロウに色々と施してあげたものは全てしつけないので、頼むからジロウ根に持たないで欲しい。棒で突いたのは間違ったのだ。大小屋の屋根からドンガラガンとやったのもあれも間違いだっただ。

美味しい食事や楽しい散歩、あれが本当の生活だったのだよ。辛かった事は霊界まで持ち込まないで勘違いせずに迷わず成仏してほしい。次のリーダーなるサブロウまで、ショックを受け家出をしてしまった。

先日、芸能界でも細川俊之さんが亡くなられたとのニュースが飛び込んで来た。

私のおやじ世代のベテラン俳優さんでしたが、私生活では離婚された小川真由美さんとの間に一人娘がいて、在りし日の細川さんを偲んで彼女がテレビでインタビューされていた。

物心の付かない彼女は母親に引き取られ「お父さんの苗字は細川で、声の良い人だ」と聞か

されていたと言う。確かに細川さんはドラマでも味のある良い声を出していた。娘さんは、もしかしたらお父さんは「細川たかし」ではないかと思っていたと言う。

同じ様な話がある。西郷輝彦と離婚した辺見マリの間にも辺見えみりという娘さんがいる。この辺見えみりさんも、実はお父さんが「西条秀樹」だと、思っていたと言う。

我が家の亡くなった親父は先祖が坂下門で仕事をしていたと言っていた。ずっと以前に亡くなったジョークの好きなお祖父さんが言う事には、我が家の先祖はりっぱな殿様で、それも肌の色が綺麗で色白だったと言う。私は「志村けん」を思い出してはいない。

一難去ってまた一難

ジロウの喪が明け切れないうちに今度は鶏のトリ子が受難・・・一昨日他界しました。

何獣かが進入したと思われるトリ小屋の入り口付近に散乱する羽根、羽根、羽根、唯一地面に残されていたトリ子の手羽先部分には、まだピンク色をした肉も残っており、他のトリ夫やコケ子たちが慌てふためいて逃げ回り、鶏小屋の内外で荒れ狂った状況がまざまざと残っていた。

過去の目撃記録からすると今回の重要参考獣は、昨年三匹の鶏を襲った野生のイタ吉そして最近我が家の近辺を縄張りとする茶色のドラ夫、どちらも放っておけない存在死体無き殺鶏事件、これは許すわけには行かない。

思えば昨年の事件以来、トラバサミを購入しようとしてホームセンターへ行ったところ動物愛護の観点からトラバサミは店頭になくなったと言う。仕方なく今度は毒入りの団子を仕掛けて退治しようとしたところ、ここでも反対されてしまった。

そこで、今度は電柵をセットしたら先日亡くなったジロウが感電してしまい効果は期待できたものの、この事を知人に話したらやはり動物愛護の関係者から猛烈に反対された。

ちなみにジロウの死亡と電柵との因果関係は全くない。

試行錯誤し色々と考えた末に出た結論だが、こうなったら野生の動物も飼い鶏もお互いに共存していく事とした。とりあえずはイタ吉も我が家のペットになって頂くために小さな小屋を用意した。後は抵抗なくこの小屋へ入って頂ければ自動でシャッターが下りる仕組みのだが、シャッターが降りたら飼ってあげたい。

うまくキツネに騙されてくれるだろうかイタチゴッコにならなければいいのだが・・・

雪の日

我が家の犬、ジロウが亡くなったのは前回のブログで紹介しましたが、サブロウもヨンロウもその後ショックが隠しきれず食事がノドを通らなかったり精神的にも不安定になっていた様です。やっとの思いでサブロウも次のリーダーの役も引き受けてくれました。先月の十四日にはジロウの四十九日も迎えられたのでこれで、やっとなんと安心したのも、つかの間

群馬では二月十四日に平野でもかなりの雪が降り、車の運転で困惑しました。帰りが深夜になり、あと数分で家に着くという時、坂道のあるキャンプ場にさしかかったのです。

雪のために車が前に進まず横滑りし、ツルツルと後ろに下がり始めたのです。横にはガードレール、それが外れると崖下に車が落ちる事になる。私は冷静な気持ちでいたのですが、心臓がバクバクしているの、こんな事は青春時代か心臓の不整脈以来、久しぶりに心臓に負担をかけてしまいました。スキーに行っていた頃は、雪など怖くは無かったのですが、久しぶりの雪にびっくりさせられました。タイヤが古いのである程度のスリップは覚悟していたのですが、いやあー大変でした。よく考えてみたらその日は車のトランクにテオブロマやゴディバ、ロッテなどのチョコレートを積んでいて、その重みで車全体が重くなっていた様なのです。今月も又十四日の日に重い荷物を運んでそのキャンプ場のところを通るのですがまさか、また季節外れの雪が降るのではないかと今から心配しています。

花粉症はどこへやら

地震関係のニュースがなければ花粉症のニュースも聞こえて来ているだろうが、今年の花粉症はおかしい？ おかげさまで私は花粉症が治りました。そもそも今年のスギ花粉の飛散量は昨年の五倍とも十倍とも言われていたのに何の症状もない昨今・・・花粉症になりたての頃には毎日がクシャミ鼻水鼻づまり、ノドの炎症、そして目がかゆくて大変でした。一時期は鼻血が出たり呼吸困難になり寝られなかったものが、なんと今では薬も飲んでいないのになぜ今年は花粉症の症状が出ないのだろう。転変地変が起きていると同時に体内異変も起きてしまったのか？

心当たりはある。実は息をしていません。ウソです。

一・毎日緑茶を欠かした事は無い、一日に約二Lは飲むようにしている。

ベニフウキも良いと言うが、私は緑茶派です。

二・夜更かしはしない。していない。たぶんしていないと思う。

三・ヤクルトは毎日飲む、シロタ株四〇〇億は欠かした事がない。

これはヤクルト会社をPRしている訳ではありません。

ただ腸内トレーニングのために取り入れた方法です。

四・そして今年取り入れた方法は、レモン汁を毎日飲む事です。

先日、大阪より無農薬の大きなレモンが沢山届けられた。

普通のレモンのイメージからはとても想像できない大きさで

計って見たらなんと直径が十六センチもある。ウソをこくと

三十センチはある大きなもの。これの皮を剥いてスウェーデン製

かもしれないレモン汁搾り機で搾る。そして沖縄特産の

黒糖を使い、お湯を注いで飲む。ただこれだけです。

これは本当の話です。

さようなら　花粉症・・・　ハハ　ハックション

タロット占い

ブログ上で、なかなかおふざけが出来ない。

まだまだ、被災された人達は大変な思いをしている。

最近私の元へタロットカードが届いた。それも三種類。私の知り合いに占い師さんは沢山いて、もちろんタロットを使っている人も数が多い、私は霊能の立場なのでタロットの世界は殆ど分かりません。しかし

タロットカードは、めど木を使った笹竹と同じ様に、占い師にはある程度の靈感がないと正しく占う事ができず、ニュートラルも必要なのです。私はタロット占い師になるわけではありませんが、その届いたタロットで占ってみました。

三種類のタロットは全て新品で、まず切る事から始まった。無念のままで百八回二つに分けて百八回、三つに分けて百八回、これで七十八枚かなりシャッフルされたと思う。

ちなみに三種類というのは、魔女の家BOOKSから発行されている世界で最も広く愛用されているウェイトのタロット、そして二見書房のカバラの秘教術、さらに私が最も尊敬に値するエドガー・ケーシーの理論で読み解く、キリスト教の聖書を基にしたカードで、BABジャパンより昨年の十二月三十一日に出たばかりの黙示録タロットカード、この三つである。

よく年末や年始などに占い師さんがテレビに出て来て、来年、今年はどうの様な年になるのか

占っているのを見かける事があります。私も時々年初めに、今年は何の様な年になるか日本列島を上から見るといふ霊視作業をする事もあります。

今年の場合は日本中が曇っていて見えないのです。曇っているという事は先を見通す事が出来ずあまり良くない年だといふ事なのです。私の理論では六月頃に異変があるのかと思っていた矢先、先日地震なのでびっくりです。まさか早まったのかと思いました。

地震後にタロット占いを行ってみても、説明本によるとあまり良くない様なのです。

私には殆ど分からないのですが、あんなによく切ったのにどうしてロウソクやラッパ、城、壺などの同じもののばかりが並んで出てくるのか不思議なばかりです。

あまり同じものばかりが並ぶので、今度はこのタロットを信じて良いのかと思います。私です。すると今度は三枚とも人物が出てくるのです。プロの占い師さん達からすると、私になんと不謹慎な事をやっているのかと、叱られそうですが、こういう事があるのですね。

タロットは生きているという人がいました。私にも生きているかの様な息吹を感じる事が出来ました。



買い占め

先日も余震と思われる、強く長い揺れが発生した。

いつまで、ままならぬ状態が続くのであろう。地震発生以来お店から電池が、麺が、水がなくなり、

ガソリンなどは大変な思いで沢山の車が連日並んだ。

先日の日記に書いた様に、我が家の近所に毎日沢山の行列の出来るパン屋さんがある。ところがパン屋さんに人が少ない。どうやら計画停電の関係でお客さんが休みと思ったらしく、その日は無料のパンの耳も山ほど積んであった。いつもの様に我が家の犬達に一袋貰って取るとなんと三袋付いてきた。いくらお客さんが少ないとはいえ、我が家の犬も二匹だから一つを戻してレジへ、すると「お客さんーん」「これひとり一個なんですけど」「そんない」なんて三つもセロテープに付いてくるのか
いつの間にか悪者に・・・

また、生協では納豆のパッケージの会社が震災に遭い、流通が悪いと言う。しかし沢山入荷しているではないかでっ、納豆二つをレジへ持って行くと・・・「お客さんーん」「納豆はお一人様一つって」書いてありましたよね。売り場に戻り、見たら本当に書いてあった。ぶっー

買い占めをしようとしている訳ではないが、今の世の中少し多めに買おうとすると、事実上の買い占めなのかも。

昨日のニュースではビール会社の工場が震災を受け、この夏場に生産が間に合うかどうか心配しています。我々も気を付けなければなりません。どうか避妊具など買い占めはやめましょう。工場では毎日フル活動で沢山生産していますのでお願い致します。一日も早く我々の性活が元に戻ります様に念じてやみません。

五・四五センチ

自分のキャラクター、ピグ等にそっくりな人形を粘土で作ろうとジョイフル本田へ行ってみた。

色々な方法があるけど、こんなのをマスコットや携帯ストラップにしたら可愛いものである。髪の毛の無い丸坊主の人形なら簡単だけど、それなりの難しさがあるであろう。

てな訳で、五・四五センチで作ろうと思う。

なぜ五・四五センチ、それは日本でいちばん大きな古仏像は奈良東大寺の大仏が十六メートルある。まさかこの大きさで携帯ストラップには出来ない。そこで考えたのが、東京の浅草寺のご本尊、聖観世音菩薩像これが一寸八分、すなわち五・四五センチである。

これなら良からうと思ひ製作を考えている。

そこで面白い問題がある。いま仮に奈良の大仏様が浅草観音へ参詣しようと東海道を歩き出し、観音様が途中まで出迎えようと、それぞれ同時に出発したとすれば、はたして両者はどこで出会うでしょうか。という問題を聞いたことがある。

慶応大学の偉い教授によると大仏様は座高が十六メートルだからその一・八四倍が立像で、二

十九・四四メートルの高さになるといい、歩幅は身長の四・七四分の一で一步が六・二二一〇メートルになるという。一方観音様の身長は五・四五センチだから、歩幅は一・一五センチで大仏様の五四〇分の一である。

さて大仏は東大寺から東海道を通って浅草まで五五三・二〇二キロを、観音様は浅草寺本堂双方から同時出発します。そうすると両者はどこで出会うでしょうか。

追記。浅草寺の観音様の身長は千三百年來の秘仏で、だれもまだ見たことが無く俗説の一寸八分として取り入れました。

答えは浅草寺本堂前からまっすぐに千二十メートル先で大仏様と観音様が相まえることになる。

キジの災難

「キジも鳴かずに打たれまい」とはよく言ったものですが、先日も日記で紹介した様に、最近では地震の前後によく鳴いてくれました。

我が家の周りでも沢山のキジが今、子育てに入りつて、パトロール役のオスのキジも目を光らせて抱卵しているメスを遠くから見守っているのです。

我が家に隣接している田んぼにも、あちこちで卵を抱いたキジも目撃出来ます。

先日、我が家の田んぼの周りの草を刈っていた時のことです。エンジンで高速回転のする草刈り機で、雑草を刈っていたところ、突然バサーンと何かを切ってしまった。音からするとそれはオーストリッチの

高級バックを高速回転で切った様な音だった。しかしよく見ると、それはバックではなく雑草の中で抱卵しているキジだった。殆ど即死状態・・・

私は凄い罪悪感を覚えたのは言うまでもなかった。なあゝむうゝううゝ

なぜ、あんなにエンジン音がしているのに逃げてくれなかったのか！残念で仕方なかった。

私はせめてもの償いと思い、残された十個ほどの卵を孵してあげてヒナ達を自然へと飛ばしてあげる事だと思い、あわてて百メートル程先の我が家へ戻り、すぐに孵卵機（ふらんき）を

取り出したのです。

孵卵機と言っても腐乱機ではありません。卵を雛に孵す機械です。

ついでに、切ってしまった親鳥の身体は、我が家のニワトリを夜な夜な襲う外敵のトラップに使用させて頂く事にした。決して食べませんでした。

孵卵機の掃除も終わり、あとは卵を持って来て孵卵機に入れるだけです。その間五分位が経過したどうか、キジの巢のあった所から黒い物体がクチバシに白い丸いものをくわえて、飛んで行くではありませんか。その先では仲間がカアカアと鳴き叫んでいるのです。

私はあわててキジの巢に戻ったが、すでに、もぬけの殻・・・

キジは外敵が多いので卵も多く、一度に十個前後の卵を産むのです。その十個の卵もあつという間にゼロです。カラスのくわえていたのが最後の一個だったのでしょう。「キジも逃げれば切られまい」 つづく。

新しい生命の誕生

前回、不幸にも親鳥が抱卵中に痛ましい、あの事故に遭ったキジの災難から、すでに一ヶ月が過ぎようとしている。今は鳥達の繁殖の時期、我が家の近所でも沢山の鳥達が飛び立とうとしている。四月にはヒバリ、スズメ、ホオジロ、五月にはハト、カッコウ、ウグイス、カワセミ、ホトトギス、六月にはヒヨドリ、ヨシキリ、セッカとそれこそメジロ押しです(笑)

実は事故の数日後、別のキジが我が家の傍でまた抱卵していたのです。

キレイに草をかつてしまったために、キジは外敵に狙われやすくなり、そこで考えたのが前回登場した孵卵機です。何度も言いますが腐乱機ではありません。温度設定が厳しく親鳥の抱卵温度の三十八・五度を保つ温度に、なるべく近くするために孵卵機は二十四時間三十九・五度、



二十一日間を一定に保たなければならない。

しかし現実はそのなにより、なまやさしいものではない。電力節減の折、我が家でもこの夏二十八度の電力節減を実現しようと努力している。このため計算上では孵卵機の設定温度を暑い日程度の二十八度にするか、あるいは二十四時間連続をやめて一日十七時間に短縮するか悩むところである。他にも二十一日間の孵卵機の使用を十五日に減らすという方法もある。いずれにしても難しいところである。

そんな中、先日一匹のヒナが卵の殻を破って誕生した。卵は全部で九個、もう一つの卵も次の日には破けた殻から小さなクチバシが見えるくらいになっていて、中でピーピーと鳴き声が聞こえてくるのです。

まだ変化のないあと七個の卵・・・いつ孵るのか楽しみである。

キジの親は一日一個ずつ産むので、順調に行けば二十一日後には順番に毎日一個ずつ孵るはずが、

すでに一ヶ月が過ぎている。もしかしたら電力節減の話が卵にも伝わったのかもしれない・・・

歌詞

「明日という字は明るい日と書くのね」

「若いという字は苦しい字に似てるわ」という歌が、我々の小学生頃だったか、ヒットしていた。

まさに歌詞がそのままなのでインパクトとして記憶がある。

これは、アン真理子という人の作詞で「悲しみは駆け足でやってくる」という歌だった。あんまり子ではない、アン真理子だ。タイトルも何となく落ち着いていられない。

最近、車のミュージックCDに、サザンオールスターズの失恋の曲を聴きながら録音をしていった。

すると同じ様なフレーズの歌を発見した。「愛という字は真心」確かに心が真ん中にある。

「恋という字は下心」これも心が下にある。これを聴いた瞬間、私は一瞬ひらめいた。

私が今までして来たのは恋ではなくて愛なのだと・・・しかし世の中には恋をしている人はごまんといる。

恋という字は一筋の頭に一点を乗せているのに愛は三つもの点をスロープで隠している。

おまけに冠まで持っている。えーどういう事か、だんだん分からなくなってきた。入れ替えたなら「変」になってしまった。

歌もみんなで歌うから「歌」というのであろう。そういえば口が二つもある。一人で歌うと「唄」なのか。

口を取ったら「貝」になってしまった。私は貝になります。これでは唄えない。唄は心のオアシス、最近音楽にハマっています。音楽・・・どうかハメて下さい。

滝沢不動尊

先日、ん十年ぶりに赤城山の中腹にある滝沢不動尊に行ってきた。忠治温泉から歩いて1時間余り、大滝まではさらに二十分と長い道のり当時の歩きの苦しさを思い出さないために、今回は短いルートで行くこととし、バックを背負った。

さっそくうつそうとする山の中へと一步を踏み出す。

まず最初に目に入るのが、クマ出没に注意の立て看板、最近はこちらと山に入るだけでクマを目撃する機会も増えてきた。

気にもせずに山を登り下り、雨上がりでヒンヤリしている道を進む。

歩くこと二十分、途中猿の湧水も懐かしい・・・

久々に下着が肌に張り付く程の汗をかいてみた。

私が初めて行ったのは当時霊能が目覚めたばかりで、不動尊の奥にある不動の大滝に打たれ修業を目的として行ったのです。

ん十年前はそれはそれは霊験あらたかによくこんな場所にお寺を建てたものだと思わせる程だったが、着いてみると今では赤い屋根も錆と化して、

紅葉の中にひときわ目立つ存在でもなかった。

変わった事といえば、電気が引いてあったり、近くで工事してユンボや工事関係の車両が少しだけ紅葉した木々の間から見える。当時はバイクさえ行けなかったはずなのに、今はトイレまでも完備され近代的になっていた。

国定忠治の隠れ岩屋を横目にさらに足場の悪い沢伝いに進むとやがて爆音と共に50メートルの大滝が目の前に現れた。

同行したタケさんも大滝に手を合わせ気の調整をしている。

ノーマクサンマンダ・・・

観光地化されたので、山の中でそれはそれは沢山の人とすれ違うかと思ったりなんと中年の人と数組程度、沢の途中では若い女性も人程汗を流していたけど私が投げかけた「こんにちわぁー」の掛け声にも瞳の中のハートも◇になっていた、ご利益あれえー。

私としたことが

ホームセンターへ餌を買いに行ってきた。

餌はアローカナとサブちゃんヨンちゃんの高級飼料。

買い物を済ませワゴンを出口まで持って行くと

前から一人の女性が・・・

「こんにちは」 「あっー こんにちは」

あの女性は確か設楽さんの奥さん。「元気ですか？」

設楽「はい元気です」「フォックスさんも元気そうですね」

フォックス「ところで物置は完成しましたか？」

設楽「えっー」物置など作ってないですが・・・」

フォックス「えっー」「そっ、そんなぁー」

私が地鎮祭までやってあげたのに、この人忘れているのか

フォックス「でっ、設楽さん旦那さんは元気ですか？」

設楽「はい、元気ですよ」

フォックス「設楽さんとは、ここのホームセンターより」

「西町の方が近いのではないですか？」
設楽「あはは」「あはは」「あはは」

何やら設楽さんの奥さん、薄気味悪い笑みを浮かべて私のほうを向いて笑っている。認知症にはまだ若い年齢だろうし、いったいどうしたのだろう。

私はその笑っている設楽さんのうなじに、そっと目をやった。すると、あるべきはずの二つの黒子がない。

設楽「あはは、時々こうして間違われるのです」

実は設楽さんの奥さんは双子の姉妹の妹さんで、どうやら私がお姉さんの日村さんと間違ってしまったのだ。いやぁーなんとも。

老人暴走族との一日

タイヤ会社の社長が頼みたい事があるというので行ってみた。タイヤ販売以外に事業拡大しようと、部下が勝手に電子機器製作に着手し、会社に莫大な損害を与えたというもの、もちろん社員は背任という形で解雇。まあ、会社が傾くようであれば、特別背任という事になるであろう。

今回はそんな部下が着手した電子機器部品関係を処分したいとの事で、機器に詳しいとされ、なぜか私が倉庫に案内された。機器と危機はかなり違う。

社長の車の助手席に乘せられ15分ほど走る。社長の車はBMWで左ハンドル。なにも七十を過ぎたジジイが左ハンドルに乗らなくもいいのにかっこつけている。それどころか凄くスピードを出す。普通の道なのに時速百キロくらい平気で出すので私が危ないという、「大丈夫この車はこう見えても足回りは良いんだから」でも、そういう問題でもない、このジジイと心中したくない。

倉庫についた。

すると電子機器や電流計や電力計、オシロスコープなどの測定器等が倉庫でシートがかかったまま山積みになっているではないか。

中でも一台数百万もするスペアナ（スペクトラムアナライザ）電波の測定機器が何台もある。私も喉から手が出るほど欲しいものである。

「フオンやスマートフオンの研究をする訳でもないし、この社長はいったい部下にどんな教育をしていたのか、腐った魚の目をしていた様では、さぞかしそこまで目が行き届かなかったのであらう。

一つの倉庫の確認が終わり、次の倉庫へと向かったところ途中でお巡りさんが4人ほどいて検問をしている。

若い元気の良さそうな新人らしいお巡りさんが1人こちらにやって来た。私の所へ来て

「すみません窓を開けて下さい」と言うのです。

私が窓を開けると「それでは免許証を拝見させて頂きます」というのだ。運転しているのはジイさんなのになぜ私の免許？・・・

隣を見るとジイさんは黙ってこちらを見ている。

仕方なく私は免許証をお巡りさんに見せると

「はいごくろうさまです」「では、気を付けて行って下さい」という。

気をつけなくてはならないのはこのジジイ、あんなに速度を出して飛ばして決して安全運転でもないし、

それにしてもなぜ私が免許を見せなければいけないの・・・

ベテルギウス

偉い先生の話によるとオリオン座にあるベテルギウスが危篤だという。

何しろ生涯の99・9%を経過し、最後の爆発寸前だと言っていた。

直径は地球の千倍、核融合を繰り返し、重さは太陽の二〇倍

爆発の際の天体ショーでは二つの太陽で空が明るくなるとい

どおりで最近、ベテルギウスは酔っぱらったかの様に色がやけに

赤くなった様な気がする。

思えば私がベテルギウスと出会ったのが小学四年生の頃

あの時はベテル君は私の言うことを何でも聞いてくれた。

悲しい時、悩んでいる時、何でも打ち明けられる星だった。

もはや親友といっても過言ではなかった。しかし

なにせ六四〇光年も離れているので未だに返事ひとつない。

ベテルはオリオンの肩に位置するが、実は対角線上にある

リゲルにも興味を持ち、悩みを打ち明けていた事がある。

考えてみれば、この頃から私の浮気癖はあったのかもしれない。

あまり知られてはいないが、実はベテルとリゲルは

和名で、平家星、源氏星とも呼ばれている。

ここでカミングアウトしておきたい。実は私は当時オリオン座のベルトの部分とほかの星を組み合わせて北斗七星と思っていた。恥ずかしいので、この話はここだけにしておきたい。

そんな終期を迎えたベテル君、世界の天文学者が爆発の瞬間をとらえようと注目しているそうだ。

岐阜県の飛騨の山の中、一〇〇〇メートル地下に超新星爆発の前兆に放出されるニュートリノを検出する為のスーパーカミオカンデが設置され、手ぐすねを引いて待機している様だ。とは言ってもなにせ室町時代当時の光・・・もう、消えてなくなっているかも。

そんな事もあり、色々お世話になったベテル君とさよならをし今度はリゲル君にいろいろ相談する事になるだろう。

でも、リゲル君の最後の時はどうやら地球も巻き添えにしてとんでもない宇宙になってしまいそうだ。

ありがとう「ベテルギウス」さようなら

よろしくお願いします「リゲル・ケンタウルス」君
フォックス

ウィンタースポーツ

いよいよスキースケートのシーズンがやって来た。

あの時は若かったのか、どんなに寒くもスキー場まで何度も何度も土日に足を運んだものだ。

十二月初旬までにスキー場がオープン出来ない時は暖冬。そんな年は人工雪を降らせるところまで期待がかかる。

誰も走っていない早朝アイスバーンの道を走り続ける。少しでも早くスキー場に着いてシュプールを描きたい。そんな気持ちで、ちよつとカーブでブレーキを踏むとアイスバーンでガードレールに「バーン」・・・滑るのはまだ早い、スキー場に着いてからだ。

ボーゲン、ウェーデルン、クリスチャニア、パラレル左滑降、右滑降、直滑降・・・全てはマスターした。つまり。

直滑降を得意としたが、谷底へ落ちたり雪に刺さったり
何度も死にそこなった。そんな時、仲間が私の直滑降を
見て何度も「ぶ滑降」と言っていた。そ、そんなぁー
また、彼らはスキークラブに入っていたり大会に出たり
民宿の息子だったり、スキー場のそばに住んでいたたり
私とは条件が違いすぎる。ああ、私はどうせ不恰好だ。

スキー場へ着き頂上までは必ず行く、寒さで話す事さえ
満足に出来ず、鼻水で鼻の頭が真赤になり凍ってしまう。
思えばピエロになろうと思ったのはこの頃からだった。
天気が良いと頂上からは三六〇度のパノラマが広がる。
樹氷、霧氷、それは、それはまことに綺麗なものだ。
本当に素晴らしい。夢氷ではない。

あれから〇年十本以上履いたスキー板も数本あるのみ
ストックも二組しかストックがない・・・

今でも脳裏にはっきりと残る白銀雪景色、今度はそんな

景色をカメラにしっかりと収めたい。

ウィンタースポーツも色々あるが、冬山の写真を撮るのも、一つのスポーツであろう。

スケートも沢山やった。スノボーはその頃なかったのかもしれない、スケートでマスターできたのは一つだけだったそれは唯一、手をつなぐ事だけだった。寒いくい。

どこの国の名前

先日名前に関してどこの国の名前だか見抜く方法というのがニュースに出ていた。そういえば国によって言い方に偏りがある様と思う。

例えば私の名前も英語圏であれば、フォックスソンとか、フォックスセンというSONとかSENなどが付く様である。思わず「欧米か」と突っ込みたくなる

私ももし、ロシア人であればフォックスワノフ、欧米ではまさにフォックスヴィッチ
これではなんか漏らしてしまったかの様な名前になってしまう。

アイランドやスコットランドでは名前の前にMCやMACが付いてマツカーフォックスとかマクフォックスになるらしい。

思わず一口、食べたくなってしまう。

まあドイツの様にフォックスマンと言ってくれるところやオランダの様にファンフォックスと言ってくれるところの方がいいね。

なんか引き立てて頂いておまけにファンにもなってもらっている様な感覚で何とも気持ちがいいものですね。

ちなみにアメリカなどの英語圏で多い「ジョン」

この名は、イタリアでは「ジョバンニ」、

フランスでは「ジャン」、ドイツでは「ヨハン」

ロシアでは「イワン」と呼ばれているらしい。

イワンかぁー

まあ、バカと呼ばれているのよりはいいけど。

どこかの国では私の事をフォックスモンジュンと呼んでいるらしい。

ジョウビタキの悲劇

毎年秋になると日本へ渡って来て単独で行動し
そして春になると、また帰っていく渡り鳥。

ヒタキ科の鳥は目が丸く可愛い、鳴き声も

ヒイーヒイー、ググウーググウー、今年も来た。

我が家の柿の木に、サザンカに、ウメモドキに

止まっては鳴いて、地面に降りては餌を取る

何とも愛くるしい表情で私を見る。

「今年もやって来たよ、フオックスよろしく」と
言っている様な気がする。

普段はこんな光景を見せてくれるのだが

優雅に満開に羽根を広げ舞を見せてくれた

この一枚の写真・・・実は

ネズミ取りにかかってしまったのです(涙)。

ネバネバとした粘着のある上に乗ってしまい

身動きがとれないのです。

第一発見者である私は、たまたま

Member of Wild Bird Society of Japan

訳すと日本野鳥の会会員、これは何としても助けねば、さっそく粘着のあるものから取り外し羽根も整え話しかけてやった。「大丈夫かあ」・・・

しかしジョウビタキは一言も私に言えず、ただ震えているだけだった。さすが渡りをして来ているだけの根性をしていると、私は見抜いた。だが、ほとんど危篤状態・・・(涙)・・・

私はこの子がいつ亡くなってもいいと思い我が家の庭に小さな墓を作ってあげ準備をした。とりあえず夜だったので外敵に狙われにくい葉っぱの多い木の中で一晩過ごす様に指示をした。

次の朝、ジョウビタキは、夕べは何もなかった

かのように、元気に我が家の庭を駆け回っていた。
いったいなんなんだ、あれは。





冬至だ、柚子だ、大きいのだ

いよいよ寒さが身に染みる季節となってきた。

冬至だ、カボチャだ、いや柚子湯だ。

そんな噂をしていると、な、なんと大きな

大実ゆず(獅子柚子)が届いた。びっくり

大きさがなんと四〇cmもある。

我が家の柚子も大きさには自信があるけど

それでも一五cmもない。

今回の大実ゆずは、とても大きいものである。

今は何でも大きいものが流行っているせいか
カボチャだって大きさがメートル超もある。

料理でもメガ盛りなんて言うのもあるらしい。何人分だかわからないけど、大盛りに違いがない。そんなの見たら目がテンになるけどメガ盛り。また、あるお店ではバケツプリンなんていう大きいものも売られていた。なにせ年末の宝クジだってジャンボだから・・・そんな世の中の大きさに比例してか、私の友達も最近非常に態度が大きく、そのうえ借金も多い。ちなみに私は気が小さい。

色々と考えているうちに結論が出た。これは大実ゆずのジャムを作るしかない。ざっと見積もっても百二十人分は優にある。これは一メートルの大きな鍋で作るしかない。砂糖も十八kgも必要になり、調理の時間も長い合計で三十時間かかるから寝ていられない。一日百g食べても四年以上も食べていられる。

三千人のパーティーでも食べられる。

一日一gずつだと二十年以上も舐めていられる。

ああ、また話が大きくなってしまった。

気が付いたら何とエスカレートしたことか・・・

大実ゆず・・・

もう一度大きさを測り直したら十六cmだった。

賢者の贈り物

クリスマスが来る度に毎年「苦します」と、もう何回言ったことやら・・・百回いや二百回・・・私にはクリスマスに楽しい思い出はありません。せめてもの、贈り物のひとつや二つ、サンタさんもし、聞いていたらお届け時間指定無しでいいから・・・

若く貧しい夫婦がお互いにクリスマスプレゼントを買ってあげようとして、妻は自分の髪の毛を切って売り夫の懐中時計のチェーンを買い、夫は自分の懐中時計を質に入れ、妻が欲しがっていた鼈甲の櫛を買ってあげるという、何とも悲しくも愛情のこもった贈り物である。オー・ヘンリーという人の有名な短編小説だけど・・・気になるのは質に入れた懐中時計は戻ったのかなあー

話によると奥さんは「ドル」セントしか手持ちが無く髪の毛を切って売ったら「ドル」になったらしい。

結局「1ドル80セント」になったと言っていた。

懐中時計のチェーンでもちろん金（GOLD）なんだろうけど
今売ったら金の価格も高騰しているから、元が取れる
なんて考えている場合でもないけど・・・

鼈甲の櫛だってオークションに出すわけにもいかない。

ふむ

これも愛する人のために行われたことなので、なにも
独り身の私が悩む問題でもなさそうである。しかし
クリスマスシーズンになると、どうして幸せへの
明暗がこんなにはっきりしてしまうのか――

私だって以前、モテていた頃には贈り物が来たこともある。
確か二月十四日頃だったからクリスマスとは時期が違った。

それに賢者でもなかった。トラックで届けられたと

嘘をついたこともある。そういえば二日前に我が家にも

贈り物が届けられていた。近所の贈り物。

モーニングコーヒー

昨日、KALDIへコーヒーを買いに行ってきた。

「こんにちは、ブルーマウン・・・」いや・・・

「えーと、キリマンジャロ下さい」

「お客さん」 「今、このシーズンのみのノエルはいかがですか」
のみのといってもノミが入っている訳ではない。

「クリスマス限定の特別バージョンですがどうですか」

「えっ!では、そのノエルとやらを下さい」

「ありがとうございます」

我が家の場合、私がコーヒーを入れるのが、そんなに
うまいわけではないが、入れたてのその香ばしい
香りが家の外まで出て行き、人の心を誘うらしい。

そのため、時々新しいコーヒー店が開店したかと勘違い
されて、お客さんが集まって来ては大変と思い、

コーヒーを入れる時には今では必ず戸を閉めている。

しかし、今回はクリスマス限定の特別バージョンの
コーヒー「ノエル」である・・・

この香りに世間が黙っている訳にはいかないだろう。これは世間と一緒にクリスマスを楽しむしかない。

幸いにも今朝の日差しは明るくまぶしい。

モーニングコーヒーにはぴったりの朝だ。いつも一度に二杯分セットするので、さっそく入れてみた。さすがにその深い香りには尊敬と信頼の念を抱かずにはいられなかった。

二階のベランダから片足を出し

右手に持ったクリスマスバージョンのノエル・・・

このアンバランスのバランス

絵になるなあー

我が家の前を行き交う車はコーヒーの香りよりもなぜか男前だと感じたのか、私の方を見ている。様な気がする。

おっとおー その時

その記念すべき一杯のモーニングコーヒーはすべて床が飲んでくれた。

ツイッター

最近では一言つぶやくツイッターが多くみられる。ちよっと前のブログの内容は長文の人が沢山いた。それが、今はただ、つぶやくだけ・・・

ルミナリエなうー。とっても綺麗、たくさんの人々。

「いいね」あなたの他に「いいね」が一〇八人

美味しいものを食べ過ぎて、もうお腹いっぱい

「いいね」あなたの他に「いいね」が一八人

綺麗だけど、人ごみの中で苦しい

「いいね」他に「いいね」が八人

吐きそう・・・あっ！ 吐いた。

「いいね」

救急車呼んだ

「いいね」

あっ！ でも死んだ。

「いいね」

字数の関係で、短くうまいコメントができない。

「いいね」なら問題ないけど。いや問題あるかも。

何となくツイッターでの短い表現が難しい

こういうツイッターって私はあまり好きじゃないね。

やはりこれもスマートフォンなどの影響があるのか

慣れていかないとだめなのかなあー

でも、じっくりと読み応えのあるブログも「いいね」

私もブログでは字数を五七三〇五九八と決めて書くように

している、もちろん時々脱線してしまうが・・・

先日、「今なうー」なんてツイートした人がいた。

今だからナウなのに無理に日本語を難しくしている。

胃痛が痛いとか、ビックで大きいとか、

夢がドリームになってしまったとか。

こういう人の為に、「いいね」はあるのかもしれない。

でも、これらも私ならではのつぶやきかもしれない。

ツイッター、マイッター 「いいね」「よくない」。

サンタへの手紙

クリスマスにまさか実際にサンタクロースへの
出紙が出せるとは思わなかった。

この様な時代、手紙でなくてもメールで届くらしい
しかし、英語でないとメールも送れないという。

まあ、こんな事もあるだろうと4年間の留学での
実力もここで発揮できるかと胸を張ってみた。

実際のところYesとNo、Ok位しかできないけど(笑)

メールは直接フィンランドへ届き、本物のサンタが
返事をくれるという。

楽しみだなあー

翻訳

メリークリスマス、初めてメールを差し上げます。

サンタさん寒い中を子供達の為にご苦労様です。

今後も夢を与え続けて下さい。そして毎日が幸せで
あります様に、心からお祈り致します。

ハンドルネーム、フォックス

送信↓↓↓配信不能

メールは届かなくて返却されたがすぐに返事も来た。
それも、良く見てみると夕べ二通、すでに来ていた。
メールを出す前に来ているのもなんだかおかしい。
今日は午前に二通、午後にも二通、でも英語ではない。
サンタさん、よほど暇なのか何となくおかしい。

ここで問題が発生した。メールの送り主を見ると
フィンランドからではなく、不倫ランドだった。
何これ、迷惑メールじゃん、サンタさん。



実際に遇った怖いシリーズー 金沢の霊

舞台は金沢である。

私は金沢にはちよつと詳しい。撮影旅行で四回、仕事で二ヶ月いた事がある。従つて金沢では知らないもの以外は全部知っている。

ある時、撮影旅行での出来事である。夕方になり、そろそろ宿を探さねばと思い、旅館を訪ねていたが、行く先々のどの旅館も泊めてくれない。

理由は「お客さん一人ではねえ」と、どの旅館も同じ返事だった。そんなこんなしているうちに十一時になってしまった。のんびりと宿探しをしていられなくなり、さすがに焦りが出てきた。

「今度の旅館がダメだったら野宿だ」と心に決め、ある旅館の玄関をまたいだ。

「こんばんは、一部屋空いてないでしょうか。」「泊めて下さい」とすると人の良さそうな主人が「泊めてあげたいが、あいにくいっぱいです・・・」そこで私はドラマなどでよく見るシーンを思い出した。「そうだ、あの手でやろう」「お願いですから泊めて下さい。もし部屋がなかったら廊下でもいいです」

するとどうした事でしょう。

主人は奥さんと呼んで来た。「おい、このお客さんにあの部屋を案内してやれー」すると長い廊下の突き当りの部屋へ案内し

「それではこの部屋になります、どうぞ」「なあんだ、あるじゃんラッキー」部屋に入るとなんと絢爛煌びやかと言いましようか。すばらしい部屋があるではないですか。やっこの思いで手にした宿なので、有り難みを深く味わい感謝するのであった。

しかし時間は既に遅く十二時が過ぎようとしている、とにかくすぐに寝るしかなく就寝の準備をした。寝ようとして床に入った。少しうとうとしたかと思うと、むし熱くて目がさめてしまふ。繰り返して眠れそうもない。いくら目を瞑って静かにしていてもなかなか眠れない。街灯の光がかすかに入る洗面所の横に暗い部分がある。そこに何か人の影が見える。なんだろうと思い見てみるとそれは影ではない。

透き通っている人間だ。丑三つ時にはふさわしいものだ。「うわあゝ」とは言わなかったが、もうこれで完全に眠る事が出来ない。見てみると髪の毛の長い面長の女性である。

確かに足の部分が見えなく、上半身だけである。もうこうなったら怖くて眠れない。

部屋の電気を全部つけて結局一睡も出来なかった。

さっそく次の朝奥さんに質問してみた。「すみません、お聞きしたいんですが・・・」「はい」「実は私が昨日泊まった部屋ですけど、一体何があった部屋なんですか!」「それは、主人から聞いてください」なるべく人目のつかないところで主人に聞いてみた。

「あのー怒らないから教えてください。あの部屋一体何があったんですか!」「私は何度も経験しているから大丈夫です」すると「あなたがどうしても泊めてくれと言うので案内したのですが、しばらく使っていなかった部屋なんです。」「それどういう事ですか!」「実は三ヶ月程前に泊まった女性があの部屋で自殺されました、それ以来あの部屋は使っていなかったのです」

「うわあー」「うわあー」「うわあー」今思い出しても背筋がぞーっとします。



実際に遇った怖いシリーズー 野沢温泉

これも撮影旅行での出来事である。舞台は新潟から長野。今回新潟地震にあっては被災者の皆さんにお見舞い申し上げます。一日も早く元の生活に復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

この地震の震源地とされるところから程近いところに、松之山という温泉地がある。

段々畑があり、夏場に行くときと素朴でとても良いところである。隣の町は日本でも年間の降雪量が最も多い津南町である。家々が下駄を履いている。といっても家の一階の部分がコンクリートで出来ていて冬場は雪のため二階の部分から出入りしているらしい。

その日も撮影が終わり、松之山温泉でのんびりして、次の日に帰るという予定であった。

撮影が夕方までかかってしまったため、例によって宿探しが始まった。今回は温泉地ということもあり、あまり人に知られていない場所なので、安心して宿を探すことが出来るかと思つた。しかしそう簡単にはいかなかった。電話ボックスに置いてある電話帳を開けて宿へ電話すること八件、どこの旅館も満室なのだ。その時に限り甥である子供を連れていたため、やはり野宿というわけにはいかなかった。当時、松之山温泉は密かなブームで県外からも沢山の人がやって来ていた。これ以外に旅館はないし、こんな風に宿が見つからない時はけっこうお化けが出る前兆なのだ。「やばい！」

松之山で泊まるのは諦めて、田舎道を飛ばし長野の野沢温泉へと向かった。

幸い野沢温泉では二件目で泊まる事が出来た。さてこれからが問題だ。甥と二人で眠りについた。夜中の何時ごろだかわからなかったが、なんとなく目がさめてしまった。初めて泊まる旅館や遠いところで宿泊した時、夜中に目がさめてしまったら部屋の隅々まで見てしまうのだ。

「いたっ！」部屋の隅でこつちを向いている。テーブルの高さで首から上だけの霊。

男性で五十代後半か六十歳くらいである。さっそくコップに水を持ってきて、バックの中のお菓子和飴をテーブルの上に置いて、帰って頂く様話しかけてみた。

「頼むから出ないで帰ってくれ」「いったいあなたは何の目的でここにいるのか！」

「名前は・・・」「お願いだから消えてくれ」しかし何の返答も無い。

ここで社会勉強というところとおかしいが、面白いものを見せてやるからと言い、寝ている甥を起こした。甥は後に警察官、今は刑事部長。「おい、あそこを見てみる」「何か見えないか！」「何も見えないよ」「いるんだよ見えないか！」

何回言っても指差しても見えないという。どうやら見えているのは私だけらしい。これで警察官には幽霊は見えないという事がわかった。

実際に遇った怖いシリーズ三 出雲の国

出雲空港から宍道湖までバスが出ている。宍道湖をあてがい夕日をバックにすると良い景色になる。思わず宍道湖に対する信頼の念と、安らぎを抱かずにはいられないのである。

現地の人に言わせると毎年十月二十五日ごろの景色が見頃だと言う。

過去に出雲方面へは三回程訪れたが、いくらメモリー回路を開いてみても出てくるのは宍道湖の夕日である。確か、出雲から一畑電鉄で出雲大社まで向かって、大社前で降りた記憶がある。

今回の霊体験は出雲大社を訪れた時、大社前の旅館内でのこと、ここでは旅館の名前はあえて伏せておくことにしよう。（本当は忘れた）旅館は既に予約しており、スムーズに入館する事が出来た。

真夜中寝ていると何処からともなくお経が聞こえてくるのだ。どんなお経だか判らないがだんだんと大きな音になり、こちらに近づいてくる。

「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」般若心経ではない事は確かだ。

「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」すると泊まっている旅館の部屋の壁に、

白装束で沢山の人達が見えるのだ。それも映画の画面を見ているように、向こうからこちらへその人達が急ぎ足で歩いてくる。「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」

ちょうど巡礼の人達の様に頭には蓑をかぶり、手には杖を持ち足袋を履いて急ぎ足でやってくるのだ。

まるで壁がスクリーンになり真夜中に私に特別な映画を見せているかの様だった。

夜中に勝手口に行っても誰もいない。玄関に行っても誰もいない。隣の部屋へ行くわけには行かない。私は今回出雲大社へ来たのだ霊体験をしに来たのではない。目を瞑るとお経のようなものが聞こえる。目をあけると白装束の映画が見える。一体これはどうなっているのだ。しかたなくこの日は夜明け前に起きてしまい。薄暗い参道を歩いて行き出雲大社をお参りして来た。

実際に遇った怖いシリーズ四 何も出なかった怖い話

夏休みに佐渡島へ行った時の事である。当時の目的は海水浴と海釣りだった。

昼間は沢山の人のいるところに混じり、海水浴を楽しんでいた。そして夕方から夜にかけて人はなれた岸壁で海釣りを楽しんだ。

予約してある民宿に着いたが、夏のことと沢山のお客さんが民宿にいた記憶がある。

食事を済ませ食堂にいた時、民宿のおばちゃんが、「あのおうフオックスさん、今日は申しわけありませんが、相部屋となりますがよろしくお願い致します。」「えっ！」「いやだよー」とは言わなかったが「どうしてですか！」と聞くと「実はお客さんが多くて部屋がいっぱいなのです。」少々不満があつたが「もしかしたら、こいつらと一緒に部屋か！」しかし相部屋を経験したことのない私は、かなり神経質になっていた。別に裸になったところを見られるのが嫌な訳ではない。

思い切っておばちゃんに言ってみた「すみません、今日は疲れているので出来れば相部屋じゃない方が・・・」「そうですか、ちよっと待ってください。」「それではこちらの部屋でいかがでしょう。」と一部屋に案内された。畳が濡れていて嫌な感じはするけど、まあ夏場の民宿はどこもムシムシしているのを知っていた。

そしてとうとう寝る時がやって来た。来た、来た、来た。

この部屋はむし暑くてムンムンして寝られない。今までこのような時は必ず例（霊）のものがお出ましになっていた。今夜は出る。間違いなく出る。もう寝られません。夜中に何度も電灯を点けたり消したりしてみたが、なかなかお出ましにならない。「おかしいなあ！」この時、私の気持ちは物音ひとつでパニック直前なのだ。結局朝になってしもた。一睡も出来なかった。

朝だ、おばちゃんに聞いてみよう。「おばちゃん、あの部屋なんかあったんですか！」

「フォックスさんが、相部屋が無理だというので使ってもらったけど」「それで」

「あの部屋はねえー、実は昨日まで海で溺れた人を安置しておいた部屋だったんですよ。」

「うっわあー。」

実際に遇った怖いシリーズ五 精神修行

私は空手道の指導員として、自分の道場で生徒を指導していた。

地元の組織では三百人と規模も大きく、一時期はちよつと日本でも名が知られていた。武道の世界では生徒が先生を目指して、いつかは先生よりも強くなるんだという基本はいつの世も変わらない。

生徒が段々強くなってくるので、我々先生も気を抜いてはいられない。もちろん武道の世界は心、技、体を磨くのは必須である。

ある時、私は自分の空手道の先生に誘われて精神修行なるものを経験した。

それは深夜に数人で山歩きをするというもので、歩き始めから終わりまで一切言葉を交わしてはならないという約束事がある。栃木県の足利市にある行道山のけもの道を歩き、頂上まで行き下山するというもの。

緊急用に懐中電灯は持っていくが、修行中は一切点けない。耳を便りに音と研ぎ澄まされた勘だけを頼りにひたすら歩くだけ。

参加者はまず私の先生だがS先生とする。お寺の住職、古武道の先生、そして私フォックス。今回はこの男達四人で修行をする事になった。修行が終わるのが三時ごろだと聞いていたの

で、終わってから食べてもいいと思い、S先生と私はコンビニから四人分おにぎりを買って背負って出かけた。

夜十二時に行道山のもとに集合したが、すでに三人来ていて全部で五人になってしまった。背負ったおにぎりは四人分しかない。たしか全部で四人と聞いていたが一人分足りない。仕方なく私が我慢するしかない。すでに集合した時点から修行が始まっている。お互いに目で挨拶を交わし、合図するだけだった。

さっそく無言の山歩きが始まった。の先生と私は空手の稽古着で、古武道の先生は古武道らしい古式ある衣装を身に付けていた。住職は袈裟を着てきた。「何もこんな時、気持ちわるーこの坊主」。

もう一人の男は黒いジャージにフードを付けて、ほとんど顔が見えない。

三十分位歩いて順番が入れ変わるが、私は何処のポジションにいても全て怖い怖い連続だった。

口に出して言う事が出来ずガタガタ震えていた。一番前だと暗い先から何かが突然やってくるのではないか！。また一番後ろでは、そのまた後ろから何者かがやってくるのではないかと！。二番目、三番目、あるいは四番目だと前後の人が信じられなくなってくる。

「もしかしたら前後にいるのは人間と違うのではないか！」など、暗黒の山の中で歩きながら考えていた。

全員が無言で山の中をサッササッサと歩いてゆく、全員のペースに遅れまいと付いて行くのと怖さで大変である。緊張に緊張が張り詰めている。歩き出して二十分程が経過した時、山の中でけものが逃げるような音がガサガサした。そんな中で気の弱い住職が突然「Sせんせい」「ビクー」「住ー職、怖いのはわかりますが私語は慎んでください」この坊主ほんとに気が弱い。それでも住職か！

歩き出して二時間が経過した。いろんな状況は飲み込めてきたが、怖い恐ろしい気持ちは相変わらず続いている。しかし、もうしばらく歩き続ければ修行が終わる。下り坂に差し掛かってきた。

真冬で周りは凍りつくような寒さなのに、汗びっしょりで体がホカホカしている。やがて出発地点に戻り、五人がほっとしている様子が見られた。修行が終わった。いや、まだ終わっていない。

誰一人として口を開こうとはしない。あれだけ怖がって何度か声を出してしまった住職でさ

え話をしようとしな。これはどうい事だ。やがてS先生が指を指し、百メートル程先に点灯している街灯めざし目で合図した。どうやらあそこの明るいところへ行こうとしている様だ。

するとフードの男が後ろを振り向き、さっさと今出て来た山の中へ戻って行ってしまった。忘れ物があるわけでもないし、どうしたのかなあと思い見ていたが、「あっそうか！生理的な用事か」

S先生が引き続き目で明るい方へと首を向け合図していた。やっと街灯のある明るいところへ来た。四人顔合わせほっとしていた。全ての緊張がとれ、皆さん笑顔がよみがえっている。

もちろん最初に口を開いたのは坊主だった。「これ食べますか！」といって汗びっしりの顔で、地面に五つのカロリーメイトを出してきた。

「坊主、気がきくじゃん。」坊主の良いところはここだけ！

私もリュックの中におむすびが入っているが四人分しかない。

「そうだ坊主のカロリーメイトをもらえばおむすびは私が我慢しよう」

というわけで私もおむすびを指し出した。すると四個買ったはずなのに五個入っていた。間違いなくS先生と四人分確認して買ってきたのに一個多いがちょうど五人の修行だったので結果的にOKとなった。

古武道の先生がなにやらS先生に話し掛けている。

「今、用足しに行っているフードをかぶった彼は先生が連れてきたんですか！」

「いや、違うよ住職が連れて来たのでしょう」住職は「フォックス先生が連れてきたんですよ！それより四個持ってきたカロリーメイトが五個あるんだけど一体どうなっているの」お寺の本堂に四個だけしかなかったのを持ってきたという。

おかしい事を言っている。我々も四個しか買ってないおむすびが五個あり、カロリーメイトも一個多いというのだ。

それより大きな問題はあの得体の知れないフードの男

「顔が見えなかったけどいったい何者？」四人とも誰も彼の事を知らない。

誘った人がいないのだ。しかも四人分買った食べ物各々一人分多い。

その後明るくなるまで、得体の知れないフードの男を待ってみたが戻ってくることは無かった。

この話、後日談があり、我々が山歩きをする十日ほど前に、山の中でフードをかぶった男性の変死体が見つかり、所持品の中におむすびと、カロリーメイトを持っていたという。

そこで馬鹿な住職は思い出した

「そういえばその頃うちのお寺で、そのような仏を葬った」と言っていた。

「ぼーず！！その時のカロリーメイト持って来るんじゃないや、ねえよー」。



実際に遇った怖いシリーズ六 おんりょうの恐ろしさ

それは私が中学生の頃の出来事である。当時の私はステレオに興味があり、アンプを自作して音楽を楽しんだものだ。

今だとICやLSI等のチップを使うため個人での自作というにはちょっと無理があるが、当時はトランジスタさえも市場にあまり出てなく、真空管によるステレオアンプの製作だったのだ。

初歩のラジオ、ラジオの製作、ラジオ技術、無線と実験などの本を頼りに製作する毎日だった。

こつこつとアルバイトをし、製作費用五万五千円を貯めた。この金をアンプの部品代に当てたのだ。当時としては五万五千円かけて出力三十五ワットというとすごい立派なものだった。毎日毎日少しずつ半田ごてやニッパを持って製作に取り組んでいた。そしてやっと完成の日がやってきた。

忘れもしない完成したのが午後の十一時だった。全ての回路を何回も何回もチェックにチェックを重ねておそろおそろスイッチを入れてみた。トランスから出るかすかなブーンと言う音、すると各真空管の頭が赤くなっているのが見える。スピーカーからはまだ何も聞こえていない。これからが問題だ。ボリウムつまみをゆっくり右に回した。するとスピーカーから音が出ている。実際にはノイズとして捉えるリップルという直流しきれない音が出ている。ノイズでも良い、実際にアンプが完成し音が出る状態になっている。

さっそくプレーヤーをセットし、レコードをかけてみた。

するとちゃんと右から左から音が出ている。完成である。するととなりの部屋にいる親父が寝ようとしていて気になるせいかこちらにやって来た。

「今夜はもう遅いから明日にしないさ！」という隣部屋の部屋に行ってしまった。

しかしここまでして作った三十五ワットのアンプ、もう少しボリウムを上げてテストしたい。まさか夜中の丑三つ時にするわけには行かない。十一時ちょっと過ぎたところなのでそこでちょっとだけなら良いかと思う。ボリウムをグリーンと上げた。素晴らしく良い音を出してガンガンなっている。

と同時に親父がダダダダーと玄関を出て表に出て行ってしまった。

次の瞬間親父がマキワリを持って戻って来た。するとあつという間に作ったばかりのアンプを滅多打ちされてしまった。アンプのシャーシーはひん曲がり。真空管は割れて火花もろとも一緒に飛び散り、部品は臭いにおいで燃えてきて大変だった。このような事は厳しく育てられて来たために何度か経験しているが、当時かかった費用五万五千円が非常にもったいなく感じられた。

あの時は私の責任でアンプのボリュームを上げてしまった為に起こった事件で、おんりょう（音量）の恐ろしさである。

実際に遇った怖いシリーズ七 肝だめし

今の子供達というと勉強以外に塾、万引き、ゲームセンター、コンビニ、携帯とこんなイメージがある。我々の子供の頃は、勉強はそっちのけ、カキ泥棒に焚き火、屋外の遊びと駄菓子やさん。

呼び名は違ってても似ているものだ。「あつ そうだ、ガキ大将もいたっ」

よく思い出すと塾という字は昔から変わっていないようだ。私はそろばん塾へ通った。

その「ご破算で願いましてーは」の塾では三十人程がそろばんを習っていた。私もそのクラスの一人だった。

夏のある日のこと。このクラスで肝だめしをやるというのだ。

場所は肝だめしには最高の場所で、塾に隣接している墓地内で行うのだ。「怖いー」

ここはお寺で昼間は保育園、夜になると誰もいない。そろばん塾のない日は真っ暗である。

墓地の裏には竹藪がうつそうと生えており、その奥には暗闇の杉林がある。

舞台としては何も言うことなし！ この墓地のいちばん奥まで行き、墓石に置いてあるカードを一枚持ってくるというもの。

それも一人ずつ行かされた。

私は子供の頃から霊現象や心霊体験を沢山経験してきたが、やはり怖いものはほんとに怖い。しかし怖がりなのにも強がりも装っていた。

結論から言っておこう。肝だめしを棄権したのは私と悦男さんだけだった。

悦男さんは私と同じで強がりだけで非常に怖がり屋なのだ。悦男さんは意気地なしだった。「という事は私もか！」

当日、先生は違うクラスの我々の先輩達五人に脅かし役として来てもらっていた。

あらかじめ先輩達は各地点で隠れていてカードを取りに来た生徒達を脅すというもの。

三十人の生徒が一人ずつ行ってくるのにはそりゃー怖くてかなりの時間がかかる。

その間先生は次の順番を待っている生徒に次から次へと怖い話を聞かせていたのだ。

キヤーキヤー騒ぐ生徒、耳をふさぐ生徒、怖いけどついその話を聞いてしまう私。

一時間ほど経ったらさすがに脅し役の先輩達も疲れて帰ってくるのだ。

一人帰り、二人帰り、三人帰り、段々と脅かす人たちが少なくなってきた。私の順番は最後から二番目、悦男さんは一番最後、「やだー 行きたくねえーよ」とうとう私の番がやって来た。四番目の先輩もすでに帰って来てしまった。あと一人先輩が墓の中に隠れているだけ。

でも一人でも脅す役の人がいる、と言う事は自分自身に対して安心でもある。

おそろおそろ墓の中へ入って行った。頭に浮かぶのは確かに一人だけこの墓地に脅し役として先輩がいるはずだ。このことだけで前進した。

墓の中央付近の通路で土が陥没していて危険なところがあると聞いていた。先生の話ではここへ足を落とすと破傷風になるとか、中から手が出てきて捕まれるとか！「うわー！」「やめてくれよー！」

恐々と向かって行ったところ向こうから、白いものを着ている人がこちらに向かって猛スピードで走ってきた。大きな声を出して「うわーうわーうわー」よく見ると先輩だ。先輩が隠れていたら墓石の後ろのほうで音がしたと言うのだ。私も先輩と一緒に一目散に塾へ戻ってしまった。

汗びっしより、心臓ドキドキで戻って来て、先輩が先生とみんなの前でこの事を話した。それを聞いた悦男さんは「先生、僕やめます。」「おめえ意気地がねえなあ！」「俺もだ」その後先生が何回聞いても悦男さんは意志が固かった。「やっぱ僕行きません。」「今回は墓場の中に穴があったが落ちずに済んだ。」

実際に遇った怖いシリーズ八 赤城不動尊

社会人になった最初の年、夏休みに山の中でたった一人で滝修行を経験した。

群馬県にある上毛三山のひとつで国定忠治で有名な赤城山。この深い山の中である。

山の中腹に忠治温泉がある。ここから細い山道を歩いて約一時間で赤城不動尊というお寺にたどり着いた。そこは山の中にぽつんとあるだけ、こんな山の中にどのようにしてお寺を建てる建築材を運んだのか不思議なくらいだった。

「夜は寂しいよー 夜は」

最近までランプで生活していた様子で、使い古したいくつものランプが壁にかかっていた。滝はまだ山深くこのお寺から二十分も山の中に歩いたところなのだ。初めて滝を見た時はその落差五十メートルもある偉大さにビククリするほどだった。

ここの赤城不動尊というお寺を私が寝泊りする宿舎として借り、昼間は山を歩いて滝まで行き、その滝に打たれて、夕方お寺に戻り二十畳もあるこの宿舎で寝泊りするというのだ。それもたった一人で・・・「怖いよー」

深い山の中でも、昼間の滝に打たれている時間は、まれに山歩きの人が滝まで来る事があるので、さほど寂しくはない。しかし夜になると全く人はいなくなり静まり返る。いるのは年老

いた住職と奥さんが本堂に住んでいるだけ。あとは山門とか仏像のまえにろうそくが見えたり、線香がたかれてあるだけだった。なんとなく不気味な場所である。五百メートルほど離れたところに小さなお寺が二件ほどあるが、それも薄気味悪い。時々ドンドンという太鼓の音と、お経が聞こえてくるだけ。「やだなー」

滝修行が始まり早朝滝に向かって歩き出す。ジワーツと汗が出る頃に滝に到着する。色々な儀式を経て滝壺へと静かに入って行き滝に打たれる。何もかも忘れて専念する。

確かに滝に当たると気持ちよくすっきりした気分になるものだ。血行も良くなり、肌も磨かれる。マイナスイオンを取り入れ、すがすがしい気持ちになるのは言うまでもない。

たとえ悪く考えても、心配するのは入水する前後の血圧の変動くらいなのではないか。

あとは滝壺によからぬ人物が放り込んだ缶詰の缶や、ガラスなどによるケガを注意するくらいだ。問題なく一日の修行が終わる。山は夜になるのが早い。そのため早めにお寺まで戻らなければならぬ。

しかしお寺に戻り夜を迎える。これからが問題だ。まだ残り一週間ある。

毎日毎日やってくる夜が怖い。今までこんなに夜が怖いと思ったことは無かった。

いつそのこと夜が無ければよいと思ったこともあった。世の中の人は夜が好きな人が多いので

は・・・「ふむ」

毎晩毎晩怖いので電灯は点けっぱなしで寝ている。

さて本題に入るが実は毎晩毎晩、窓をノックされるのだ。何者かに「怖い怖い怖い」今までいつも聞こえないふりをして過ごしてきた。ノックされる時間帯は別に決まっていらない。真夜中の時もある。住職や奥さんなら別の入り口でノックして入ってくる。

それに真夜中には住職もさすがに私の泊まっているところへは来たりしない。また、ここは怖いことに山門の上の離れだ「怖い」「たのむよー」

だが今夜はすこし勇気を出してみようと思い。今日もノックがあるのを待ってみた。

こんな時はノックされるのを待つのも辛いもんだ。「コンコン、コンコン」「きたー！」

ノックされた窓を思い切つて開けた。「だれだあー」暗い山の中へ声が吸い込まれて行く。しかしだれもない。せっかく勇気を出したのに窓を開けて外を見たが、それらしき怖いものは見えない。しばらくするとゴソゴソ音がしてくる。電灯のついている窓の下をみたらなんとすごい数のカブトムシ。

きつと明かりを頼りに飛んできてコンコン、ツルーつと滑り、下に落ちたに違いない。あゝ怖かった。

実際に遇った怖いシリーズ九 魔の温泉地

いつもの撮影旅行ですが、今回は撮影旅行が終わる直前に、アクシデントに遭い、撮影地を逆に走って来る事になってしまったのです。群馬は松井田から草津、中之条へ戻る途中を北に入り、四万温泉での一泊しようとしたのです。一人旅の時はいつも宿を探すのが大変で時々旅館の玄関で宿泊を断られるケースが多かったのです。

実は今回、妙義山の駐車場の電話ボックスから、交通公社に勤めている知人に、事情を話して宿を予約して貰っていたのです。「とても良い温泉旅館だから楽しんで来てよ」といわれ、向かったのです。途中いくつかの撮影ポイントがあったので足を止め、良いところ撮りだけで宿へ向かったのです。

宿へ着いたのは夕方です。周りがすでに暗くなっていたのです。この時ばかりは予約したせいか、女将さんも気持ちよく「いらっしゃいませ」を言ってもらえたものでした。

撮影旅行時は何と言っても撮影以外に宿でのマッサージも楽しみであり、入室前に予約してみたのです。とりあえず風呂に入り身体を温めてからと思い、暖簾をくぐったのです。風呂場に入ろうとすると風呂場の戸がすでに開いていて、入り口にはスリッパが不揃いで置いてあり、中を覗いてみると一人の年配の男性が入っていました。うす汚そうで赤い顔して何度もこちらを振り返り見ているのです。

あげくの果てに浴槽の横で小便をしているのです。それを見た瞬間、私は気分を害してすぐに風呂を上がってしまったのです。

部屋に戻りマッサージにかかり、いよいよリラックスする時間帯となってきたのです。

一時間の癒しのタイムも終わり、先程の気分転換に再度風呂へと向かいました。

しかし入り口では一時間前と同じ様にスリッパが傾いたままであるのです。不思議と思いつつ裸になり浴槽へと向かったのです。

すると浴槽に男性が裸でうつ伏せになりプツカリと浮いているのです。湯面をよく見たが動いていません。もしかしたら一時間前からこの人は浮いていたのかも知れないのです。たぶんこの時点で死んでいたのでしょうか。

しかし私は全然慌てませんでした。自分ひとりで助け出そうとしましたが、たぶん手遅れだと思い、裸のままタオルで前のほうだけ隠して女将さんと呼びに行ったのです。

「女将さん、女将さん」「どうしました」「女将さん、いいですか慌てないで下さい。ビックリしないで下さい。」

「あつ、はい」「実はですね。今、風呂場で浴槽に男性が浮いていまして」すると女将さんは「お、お、おとうさんーん」「お、お客さんこの先、私はもう聞きたくありませんーん」

そんなやりとりの後に、そこへ温泉宿の主人が飛び込んで来たのです。「ご主人様、実はコレコレ云々です」「そりゃー大変だ」結局その主人と私とで浮いている男性を引き上げ、意識不明で心肺停止をしている男性に心臓マッサージを始めたのでした。

何度も何度も人工呼吸しているのに一向に息を吹き返す事はありませんでした。

「源さん、だから酒飲んで風呂入っちゃーだめだと言ったのにー」すると不安そうな女将さんが「おとうさん今から救急車呼べば運んでくれるんじゃないの！」するとそこへあわてて駆けつけた隣の医院の先生も、男性を見て首を横に振ったのです。人工呼吸の甲斐もなく亡くなってしまったのです。

その後、私が第一発見者。旅館の管理人が参考人。お巡りさんが三人来て事情徴収が始まったのです。「コレコレ云々、」事情徴収が終わった後でも廊下を通る人たちは一晩中噂話でゴった返しているのです。

そして翌朝早く女将さんが私の部屋にやって来たのです、「夕べは大変でしたでしょう充分眠れましたか」『お願いですからこの事は地元へ帰っても話にはしないで下さい』その後私は家に帰ってから交通公社の知人に「もう二度とあの旅館には泊まりたくないよ」と言ってやったのです。これも霊媒体質がゆえに身の回りで起きてしまう事実なのでしょう。大変でした。

実際に遇った怖いシリーズ十 箱根温泉の宿

季節は十二月の初旬、箱根へと旅行に出かけた。

旅行といっても変な旅行ではない。例によって宿を予約しないで一人で旅に出る撮影旅行である。

いつものように夕方になり撮影が終わり、現地からいちばん近い宿に泊めてもらおうと、その宿の玄関に向かった。すると何と言うかあっさりと泊めてもらえることになった。箱根温泉そこはなぜか午後から霊的な感覚に迫られ霊体が非常に多く感じられた。こんな時にはなかなか宿が決まらないことが多い。今回はラッキーなのか？旅館の名は言わない方がいいみたいだ。近くには丁地路、ガソリンスタンドがあった。ああーそれから郵便局と、古い火の見やぐらみたいなものもあった。

一杯飲み、食事も終わり、あとは寝るだけ、私が泊まった部屋は2階である。

なぜか3階が騒がしい、「ドタン、バタン」「ふむ！」「幽霊登場かあー？」うるさいなあーと

思いながらも十分程がまんしていた。するとドタンバタンは治まり耳を澄ますと女性の声がする。

私は静かにしてじーっと聞き入ってみた。このとき特にいやらしい想像はしていなかった。

どうやら幽霊騒ぎでもないらしい。女性が「うふふ、うふふ」と笑う程度であった。

これ以上耳を澄まして聞いていると、本当にいやらしい事を想像してしまうので、何も考えないで寝る事にした。

朝だあー、無事に朝がやって来た。ちょっと寒い、外を見ると雪が降り始めてきた。

それにしても体調不良で何だか目が回る。霊的な現象が発生する時に体調が悪くなる事は良くあることだ。でも今回は何も出なかったので、その部分ではひと安心していた。

朝食の時に私が一人で食べていると主人が来たので、

「今日はお客さんが少ないのですか？」と言うと

「夕べ泊まったのはおたく一人だけですよ」と言うので

「じゃー三階に泊まったのはお客さんじゃないのですか？」すると主人が

「お客さん、この旅館は三階なんてないですよ。」私はぞおーっとした。

すでに主人の瞳の奥底に『また出ましたか！』って私には見えてしまった。

最初からおかしいと思ったんだよ。それにあの「うふふ、うふふ」という声・・・

帰り際に小雪の降る中、旅館の三階を見ようとしたら、本当に二階までしかなかった。

いつかまた忘れて次に泊まるとまた出そうな気がする。うわあー

実際に遇った怖いシリーズ十一 三人殺してしまいました

おいおい、殺人じゃないよ！

あれは私がサラリーマンになって間もない頃、直属の上司がいつもと違い、おかしい行動をとっていた時の事だ。ちょうど今ごろのお歳暮の季節、S相手業者の人と事務所の隅でコソコソしているのではないか。

まあここまではよくある光景だと思う。同じ様な光景がその後も続き、私が知る限りではS、T、K、M、Y、G社と数えるほどになった。

ある時その上司はM相手会社の伝票に、承認されない状態であることを知りながら承認印を私に求めてきたのです。もちろん私の性格からして印を押すわけにはいかなかった。

そんな折、その上司が自分の机の中から、あるものを取って欲しいというので、引き出しを開けたところなんと業者からのもらい物が沢山あった。良く見るとS社もT社もK社も……まだまだ沢山あった。これではメクラ印を押さないわけには行くまい。

私はそのまた上の上司がいるのを見計らい、机の中の物をぶちまけてやった。

その上司はあわてて事務員さんを手伝わせ拾い集めていた。不正に処理しようとした伝票、家族旅行券や招待券、なんと現金一万円札が何枚も宙に舞った。その時、女性のヌード写真も何枚か飛び出してきた。やはりスケベ上司だった。

その後会社のトップからも叱られ会社に居ずらくなったのは言うまでもない。その数日後上司は私のところへ嫌みを言いに来た。しかし私は仕事もせずに不正な事をし続ける彼を、許すわけには行かなかった。嫌みを言われたらよけいに腹も立ってきた。

来る日も、来る日も、その上司の事を私は憎んだ。あんな人間はこの世にいないればいいんだと、世の中のために良くない。毎日毎日思った。

するとある日突然、上司だった人は死んでしまった。

ところがこれだけでは終わらなかった。その後も内容は違うものの、私が嫌だなあと思っている人、次々と三人死んでしまった。あれ以来私は心に思った。どんなつまらない事があっても人を憎むのだけは止めようと。きっとあれは神様からの戒めだったのだ・・・

実際に遇った怖いシリーズ十二 恐ろしい携帯電話

今から十五年ほど前のことで携帯電話もまだ導入初期の頃だった。

そのころ私はレンタルで一台持つ事となったが、今ほど通話料金が安くはなく、ビックリするほど高価なものだった。またその携帯電話のバッテリーも三十分程度しか持たないため、Lパックといって大きいのを予備として買い求め、現在のものから比べると本体もけっこう重いものであった。

なにせ通話料金が高く、こんちは、さいなら程度の会話が市内であっても五百〇六百円はすぐにかかってしまい、まだまだ庶民の持つ道具ではなかった。

そんな時会社の出張で沖縄へ行く事になった。沖縄には私の知人が当時住んでおり、「来た時には是非連絡して欲しい」と言うので、会社から沖縄への出張の日程を彼に連絡しておいた。もちろん携帯電話を持っていく計画もしていた。

ところが会社からの連絡で沖縄出張二日前に急に出張場所が変更になった。沖縄とは反対の北海道へ向かってくれと言うのであった。北海道ではホタテ貝が入れてある冷凍庫が故障してしまい、全部溶け出して訴訟問題まで発展するかも知れない、と言う大きな事態で急な出張が余儀なくされた。

さっそく沖縄行きを北海道行きに変更し問題解決へと仕事を進ませた。札幌では携帯電話の通話エリアがやっと開けて幸いにも通話圏内だった。

冷蔵庫の故障で二十万円もの損害を与えてしまった仕事もやっとの思いで解決し、一息ついていた頃、沖縄の知人から携帯電話に連絡が入った。

「電話がかかってくるのを待っていたが待ち切れなくてかけた」と言う。

しかし「今、北海道だから遠距離の通話になるので・・・」と言おうとしたが、どうしても話が盛り上がり会話は一時間を越えてしまった。携帯電話のバッテリーが熱くなってきて、このままだとレンタルの携帯電話を壊してしまっとは思ひ彼に言った。

「あのー携帯電話が熱くなってきたよー」「もう電話切るよー」すると

「いいじゃん、いいじゃん今沖縄だろー」「いや、違うんだよ今北海道なんだよ」と

「言おう言おうと思ったのについて話はずんでいるもんだから・・・」すると

「ええー」「ガチャン」「プープープー」

彼は沖縄から北海道まで一時間以上も携帯電話と話してしまった。

あれ以来、彼からは一度も何の連絡も無い。年賀状も来ない。携帯電話って怖い。

実際に遇った怖いシリーズ十四 病院の駐車場

病院へ通院したことがある人は経験あると思うが、病院では数時間待たされ診察時間五分ということはしばしばある。困ったものである。

一方駐車場も大変である。診察予約時間の一時間以上も前に駐車場に入らないと車も止めておく事が出来ない。病院で診察する前に倒れてしまいそう。

毎回病院へ行くうちに自分の車を駐車するスペースが、自然と同じ様な所に決まってくる。

幸い駐車場が満車状態なのに私がいつも駐車するスペースが空いている。ラッキー

それも毎回毎回空いているのだ。きつと周りの人は私の駐車するスペースを知っていて遠慮している様である。すごく混んでいる駐車場なのに本当にラッキーである。

病院に来た人は駐車スペースがないと有料の駐車場へ車を入れなければならなかった。

親父が病に倒れ入院した時も、その駐車スペースはなぜか確保出来、殆んど毎回そこへ車を止める事が出来た。色々と看病したが親父の病気もなかなか回復せず、とうとう亡くなってしまった。

病院では親父の亡き骸を引き取るために、家族と病院側とで打ち合わせをしていた。

すると院内放送が流れ、「お知らせいたします。Ｚ三駐車場に停めてある白い高級乗用車ホックス号の移動をお願いします」と言うのだ。

今、親父が亡くなって忙しいと言うのに車の移動とは、やっかいだなあといいながら駐車場へ向かった。そして車を隣のスペースに移して戻って来ようとした時、霊柩車が入って来た。

なにー俺が今まで止めた駐車スペースは霊柩車の入り口だったってか！！！！
祓いたまえ清めたまえ 祓いたまえ清めたまえ。もう一つおまけに祓いたまえ。
もちろんあれ以来、あそこの駐車場は利用していない。



実際に遇った怖いシリーズ十五 防犯カメラ

動物の生態写真を撮影するためにはビデオカメラも時々必要となる。

自然の中でセットし、離れたところからモニターを見ながらシャッターチャンスを伺うのには最高である。

ある時我が家の近所に、沢山のガラクタが不法投棄されていた。不法投棄がある度になんてこんな事をするんだろうとか、誰がいったい捨てて行くのだろうといったも思っていた。

そこでビデオカメラがあるのを思い出し、不法投棄の犯人を捕まえてやろうと思い、その犯人を見る事が出来るかどうかセットしてみる事にした。

もともと動物に気付かれないようにと、小さいタイプのカメラなので場所を取ることもなく容易にセットできた。全部で六台あったので全部違う場所にセットし、様子を見ていた。

いく日もいく日もモニターを見ていたが不法投棄に関する画像は写っていないかった。

ところがある場所にセットしたカメラに人物らしきものが写っていた。

そこでカメラを移動させ人物の写っていた付近に新たにセットをして様子を見ていた。

するとそれは不法投棄でなく野菜泥棒だった。ある時はネギ、ある時はダイコン、またある

時は白菜。それも決まって夕方である。コマツナやチンゲン菜などは籠まで持ってきて取っていくありさまである。一日二回来る事もあった。よく見ると別に泥棒がもう一人いた。その人は頻度は少ないものの白昼堂々として盗んでいた。どちらも女性でよく見かける人だった。

白昼盗んでいた人は犬の散歩で毎朝我が家の前を通る人、近所で聞いたら常習犯だった。もう一人、夕方何度もカメラの前に野菜を盗って現れたのはなんと「すぐ近所の奥さん」だった。



実際に遇った怖いシリーズ十六 家の下に墓場が

「お宅の家の下は墓場です。」と、ある神社の神主に私の知り合いが言われたそうです。

彼は毎日のように病で悩んでいて、挙句の果てに勤めていた会社も経営不振で閉鎖し、仕事もなくなったと言う。踏んだり蹴ったりしているある日の事、知人にある神社を紹介されたと言う。

神社の神主に拝んでもらったところ神主は

「お宅の家の下に墓場があります」「このまま放っておくと貴方は死んでしまいます」と・・・。

彼はさっそく家に帰り家族にこの事を話して悩んだそうだ。

「あの神主、でたらめを言いやがって・・・。」と彼は怒り出し、又神社へ向かったと言う。

ふたたび神主と会い怒りだし「おい神主、先ほどはでたらめを言いやがって、俺のうちの下には墓場なんかないんだ」「いいかげんな事は言うな」といい返って来たという。

彼は来る日も来る日もこの事が気になり、頭を悩ませていたと言う。

ある日のこと彼は墓場の事がどうしても気になるので、また神社へ行ったという。

神主に「もし俺が家を壊して土を掘って墓が出てこなかったらどうする」って言ってきたという。紹介してくれた知人にも、くっつかかり大変だったらしい。

あれから数日後、とうとう家を壊してしまったと言う。

家の廃材を移動させ、跡地にシヨベルを入れ掘ったところ、幾つもの墓石が出てきたという。どうやら本当に墓の上に家があったらしく、なぜかその後倒れたのは神主だったのだ。



実際に遇った恐いシリーズ十七　ひとだまに誘われて

毎年入梅の頃になると、それは私にとっては忘れもしない。

ひとだまの季節になるのだ。何回も見ているひとだまは、けっこう入梅時の早朝や夕方に多く目撃している。

ある時私の姉の家へ行った時のこと、いつも一時間ほどかけて車で行くのだが、あまりに遠いので、違う道を走って近道をしようとしていた時の事。夕方になってしまいあたりが暗くなり、初めての道なので迷ってしまったのだった。

どこをどうやって走っているのやら、さっぱり道がわからなくなってしまった。細い路地に入ると右前からヒョロヒョロ、ヒューと前のほうへ人だまが飛んで行くのだ。何度か見ているのでそんなに恐さはなかったのだが、もしかしたら私が道に迷ったので案内して、助けてくれるのではないかと思い、急いでそのひとだまの後を付いていったのだった。

するとあと五十メートルも走ると川原の方へ行ってしまうという所へ出てしまった。二分くらい急いで走っただろうか。田舎道に一軒だけ家があり、そこへ来るとひとだまは消えてしまった。なんだあーひとだまに、ひと騙されたと思い、その先へ行ったら通行止めなのだ。

しかたなく一軒あるその家の庭で車をＵターンさせてもらおうと、車をバックさせたのだっ
た。

するとその家の玄関に灯明が二つ立っていて、忌中と書いてあったのだ。うわあー
何も道案内してくれなくも、よかったのにー



実際に遇った恐いシリーズ十八 我が家の少年犬士

我が家ではジロウ、サブロウ。ヨンロウと三匹のオスの犬を飼っている。

ジロウとサブロウは三歳と二歳だが、ヨンロウ（通称ヨン様）はまだ、七ヶ月の子犬である。ある時、ジロウとサブロウが檻から抜け出し、お互いの彼女（メス犬）の元へ出て行ってしまった。

それも夜中の出来事である。

我が家の犬はわりと主人の言う事を聞くのだが、どうしてもオス犬が通ると吼えたり、メス犬が来るとクンクン近寄って行ってしまう。困ったものだ。犬は飼い主に似るというが、どういう訳かこの部分だけは似ていない。ふむ！

その晩はジロウとサブロウがいないので、ヨンちゃん一匹と私だけで夜中に散歩に出ることにした。時計を見ると十二時半、田舎道で周りは田んぼ、もちろん街灯はなく真っ暗闇、何となく風は生温かいが、背中が寒い。「何も出なきやーいいんだけど」と心に心配しながら、ヨンちゃんと歩いていた。

すると二十メートルほど先から、フワリフワリと何やらこちらに向かってくる霊体があるではないか。目を細めてよく観て見ようとしていた瞬間、ヨンちゃんはその霊体にいち早く気づいたらしく、ものすごい勢いと今までに発した事のない泣き声で走って行ってしまった。きつとヨンちゃんも生まれて始めて見たものに違いない。

私も背中と胸にうつすらと汗がにじんで来た。

やがて霊体は私の目の前七、八メートルのところで消えてしまった。

しかし怖いのはこれからだ。見ていた時はさほど恐くはなかったのだが、あんなものを見てしまったからには、帰りが怖い、それに私が田んぼの中で一人・・・

「ヨンさまぁー ヨンさまぁー」いくら呼ん(ヨン)でも犬はいぬ。

それにしてもわがやの番犬は情けない。大切な時にいないのだ。本当は恐いのに、あたかも犬を探しているかの様に、強がって声を出している自分がここにいる。私も情けない。

静まり返った真夜中で「ヨンさまぁー」の声と、走っている足跡だけが暗闇に響いていた。

「ヨンさまぁー」

実際に遇った不思議シリーズ一 不思議な夢

恐いシリーズ同様、不思議なシリーズの日記を公開して欲しいとの問い合わせが何件かあるので、今回一回目としてスタートしました。

一・不思議な夢

それは夢にまつわる事ですが、親父が病気で入院していた時の出来事です。

ある晩、こんな夢を見たのです。「それは大きな機関車が真っ黒な煙を出しながら、空に向かって走って行くのです。」

夢だったからレールの引かれていない空へ飛んで行く事が、出来たのでしょうか。

私が子供の頃の教科書に、地球から星までの距離を例えるのに、光で何秒、ロケットでいく日、機関車なら何年、という絵が載っていたのですが、まさにその様な機関車の夢でした。

あまり面白い夢なので、さっそく病院へ行って、その夢の事を親父に話したのです。

「タベ面白い夢を見たよ」と言う入院中の親父も、同じように面白い夢を見たと言うのです。

「じゃあお父さんから先に夢を聞かせてよ」と言うと、なんと大きな機関車が真っ黒な煙を出しながら、空に向かって走って行く夢だと言うのです。

それは私が今、話そうとしている内容と全く同じなのです。

もちろんお互いに、外部には話していない事であり、詳細に至るまで全く同じだったのです。

この時から私の夢判断のページに、病人が家族と同じ夢を見た場合、その病はやがて全快すると記されたのです。



実際に遇った不思議シリーズ二 人間が浮いている

学生時代に自分が特異体質だったため、その道の師匠に指導をして頂いたところの話です。もともと私は宗教が好きではないのですが、その師匠が勉強のために、とある宗教団体のところへ私を連れて行ったのです。聞くところによると、その宗教団体の親玉は私の師匠の実のお兄さんだということです。

沢山の人が畳の部屋に座っていて、中央の演台では親玉が立って何かを話している。私と師匠も後ろのほうの席で、座布団に座りその親玉の話聞いていた記憶があります。

この時、私は宗教というものはこういうものだったのかと始めて知ったのです。

その後何度も入会を勧められたが、どうも私の肌には合わないので断り続けてきました。しかしびっくりした事にはその宗教、現在では何百万人も信者がいるとか。

私の横に座っている師匠が、何となく落ち着きがなく、何回も何回も座布団をつかんでいて、踏ん張って、何かを我慢しているのです。「師匠はまさかウンコでもしたいのかなあー」とは思いませんでした。が、何となく様子がおかしいのです。すると師匠は私に向かって「体が浮くー、体が浮くー」といいます。私がつかんでいる座布団のところを見たら、なんと師匠

がフワフワと浮いているのです。ちょうど下から空気を当てた風船のように・・・
私は人間が浮いているのを見たのは初めてでした。おそらく私の一生のうちでは二度と見る
ことのできない事だと思います。後になって師匠が言うのには、あの時、六十キロを超える体
重が五グラム位になってしまったと言っていました。師匠は三十センチ浮いたと言っていた
が、私が見た時は十五センチ位本当に浮いていたのです。その後師匠は宗教にどっぷりと、は
まったのはもちろんの事、自分で新たな宗教を立ち上げたのです。宗教嫌いの私はその後、師
匠とも疎遠となり、現在に至ったわけですが、現在私には浮いた話はございません。



実際に遇った不思議シリーズ三 将来お会いする人

人との出会いの中には面白いものがある。一日に同じ苗字の人と何人も知り合いになったり、また共通性の持つ人と複数知り合いになったりした事が何度もある。

しばらく前の事だが、これからお会いする人達の名前が次々と判ってしまった事があった。

人の出会いというのは、私の理論ではすでに縁というプログラムの中に、組み込まれているもののだが、あの時は本当に不思議だった。それも生活をしていく節目に、必ず必要とするところで会っているのだ。その前もって名前のわかった人達との出会いは、もちろんあったのだがただ一人、名前はわかっているものの、未だにお会いしていない人がいる。

きっとお会いするまでは私は死ねないのだと思う。名前はわかっている。頭に「う」の付く人だ。いつ現れるのか楽しみでもある。あるいはその人が私を最後に見る医者かもしれない。考えたくもないが、お寺の住職かもしれない(苦笑)

実際に遇った不思議シリーズ四 ヘビの夢

夢に関する不思議な事は沢山あります。今回はとても印象に残った夢なのですが、大蛇の夢です。この様な夢なら何度見ても怖くありません。

本題ですが、ある時大きなヘビ、つまり大蛇の夢を見たのです。

あまりヘビの種類には詳しくないのだが、たしかアナコンダという大きな種類のヘビでした。太さが七、八センチぐらいで、アナコンダにしてはまだ子供の様でした。そのヘビは純金で出来ていて、我が家のテレビの上にとぐろを巻いて、かま首を持ち上げて私のほうを見ていたのです。長さになると三、四メートルあったかと思われず。

目が覚めてから夢だとわかった時も、あの純金のヘビが黄金色にピカピカ光るのが、しばらく目に焼きついていた程でした。

「ヘビの夢を見るとお金が入ってくる」という事を以前に聞いた事があり、それも他人に話してはならないというのです。お金が入ってくるなら人には話さずにいようと思っただけ、あまりのインパクトがあったため、何度も話してしまうところでした。

過去にもヘビの夢は何度も見ていますが、お金が入ってくるのは確かなのだが、ヘビの大きさに比例してか小額でした。また、ヘビに噛まれた夢の時は写真展に入賞して、ん十万円ほど

入ってきた事もありました。

今回の純金のヘビの夢から一週間ほど過ぎた時の事でした。突然思わぬお金が、ん千万円入ってきたのです。悪い事をしたわけではありませんよおー。せっかく夢を見させてもらった事もあり、その後我が家のテレビの上には、あの時夢で見たのと同じ様に、ヘビの置物を置く事にしたのです。

他にも夢で教えていただいて、我が家ではトイレには鹿の置物、玄関にはニンニク、寝室には炭などが置いてあります。

「もう一度でいいからあー、」

「今度はアナコンダの親を、夢で見たいなあー」と思う今日この頃・・・

「言っておきますが、あの時入ってきたお金はもうありませんからあー」



実際に遇った不思議シリーズ五 もう一人の自分

タイトルから行くと清純なるラジオドラマの様でもあるが、実は実話なのです。少年時代のある夜中の出来事だが、寝ていて目が覚めるとなぜかトイレに行きたいという衝動に駆られトイレに向かったのです。

しかしトイレにはすでに家族が入っているらしく、電灯が点いていたのです。仕方なくトイレのそばで待つことにし、立っていたのです。

しばらくするとトイレでの用が済み、水の流れる音がして、出てきた人を見たら、それはなんと「もう一人の自分」だったのです。彼は私のほうを見ると無言で、私を待たせたせいかなぜか申し訳なさそうな素振りで目を合わせてくれた。それから私がほんの一秒も満たない時間に、ふと目をそらせた瞬間、電灯は点けっぱなしで、トイレのそばからすうーっと消えていなくなってしまうた。

今までに、もう一人の自分と行き会ったのは、二度ほどあったけど、会った瞬間は何の言葉も交わす事も出来ずに、ただ、びっくりしたりボーっとするだけだったのです。あの時なぜ言葉を変えなかったのか、出現した目的とか聞きたい事がいくつかあったのだが。

その後、慌てて寝ている家族を起こしたのだが、もちろんその時、家族は寝ていて、私以外に目撃者がいなくて、なにを寝ぼけているんだとか、当時は誰も信じてはくれなかった。ただど私にとってはすごい貴重な体験だった。

でも良く考えてみると、むしろ現在のほうが寝ぼけていて、相変わらず髪の毛と信頼が薄い。今度もう一人の自分と会った際には、証人になってもらわねば・・・



実際に遇った不思議シリーズ六 カベに観音様現る

私にも先生がいた。先生は若い時から不思議な力を持っていた。

先生が我が地方から東京へ出て行くと、地元で火事が発生した。先生がいる間は火事は起きないが、先生が東京へ行ってしまおうとまた火事が起きた。そんな事が二年ほどの間に六回ほど続いた。

先生が火を点けているわけではない。もちろん私でもないよ。

特殊な力があるせいかな、身体も大変らしい。ある時に先生は胆のうが痛いといい、病院へ入院した。当時私の不思議を理解してくれる人は、先生以外にはいなかった。私は先生を病院まで見舞いに行った。「よく来てくれたね」とは言ってくれたけど、私は当時中学生で見舞った先で先生にどんな話をしているかわからなかった。

すると先生はこんな事を言っていた。胆のうをレントゲンで撮ったら何も写っていないくて医者がびっくりしていたと。おかしな先生・・・

そんな話を先生がしている時、私はベッドの横のカベに目をやった。そしたら煙みたいなのがフワフワと舞い上がり、なんだろうと見たら私の身長ほどの観音様が白い壁に現れたのだ。時間にして五秒位だった。すると又煙みたいに消えてしまった。私はびっくりしてすぐ先生に話した。

先生は「フォックスくん、よく見てくれたね、ありがとうね。これで私の病気が治るんだよ」と言っていた。

すると先生は荷物をまとめ、退院の準備をはじめてしまった。診察に來た医者が、退院の準備をしている先生を引き止めていたが「私の病気はもう治るんだよ」と言って、とうとう勝手に退院してしまった。

病院の外に出た先生は、「こんなレントゲンの写らない病院にいられるか」と言っていたが、これだけではなかった。以前にも数回、他の病院でレントゲンが写らなかったらしい。観音様も不思議だったが、先生も不思議だった。



フォックスの撮影日記

おわりに

現在世の中で事件事故、自然災害などがめまぐるしく発生している昨今
せめてものブログの世界では、身の回りの楽しいものに目を向け
表現し、発信をしていきたいと思っています。

くだらない内容なのに最後まで読んで頂きありがとうございました。

〒三七三〇〇七三 群馬県太田市緑町八七五 坂下進一



二〇一一年 九月
二〇一二年 二月 改正
二〇一二年 三月 改正

フォックス